岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第720集

下村遺跡発掘調査報告書

2020

普代村
(公財)岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第720集

下村（しもむら）遺跡発掘調査報告書

村道拡幅（黒崎地区）事業関連遺跡発掘調査

2020

普　代　村

(公財)岩手県文化振興事業団

下村遺跡発掘調査報告書

村道拡幅（黒崎地区）事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県には、一万箇所を超す貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。これらは地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、岩手県の歴史や文化、伝統を深く理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、これらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、自然環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、設立以来岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、村道拡幅（黒崎地区）事業に関連して、平成30年度に発掘調査した普代村下村遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、縄文時代中期の資料を得ることができました。本報告書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました普代村建設水産課、普代村教育委員会をはじめとする関係各位に対し深く感謝の意を表します。

令和２年３月

公益財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　高　橋　嘉　行

例　　言

1　本報告書は、岩手県下閉伊郡普代村第３地割字黒崎 18 番地１ほかに所在する下村遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、村道拡幅（黒崎地区）事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は普代村建設水産課と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課との協議を経て、普代村の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　岩手県遺跡台帳における遺跡番号と今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。
　遺跡番号：JG93-2158　　遺跡略号：SM-18

4　発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。
　調　査　期　間：平成 30 年８月１日～ 10 月５日
　調査対象面積：869㎡
　担　　当　　者：八木勝枝・戦場由裕・舩渡耕己

5　室内整理期間・担当者は以下のとおりである。
　整理期間：平成 30 年 10 月１日～平成 31 年３月 31 日
　担 当 者：八木勝枝・戦場由裕

6　本報告書の執筆は、第Ⅰ章を普代村建設水産課、第Ⅱ・Ⅲ章を八木、第Ⅳ章を八木･戦場、第Ⅴ・Ⅵ章を八木が執筆した。

7　出土遺物の分析・鑑定は次の機関に委託した。
　　石材・石質鑑定：花崗岩研究会
　　年　代　測　定：（株）加速器分析研究所
　　樹　種　同　定：木炭協会

8　石器実測は株式会社ラングに委託した。

9　基準点測量は（株）スズマ測量設計に委託した。

10　発掘調査及び資料整理にあたり、以下の方々から指導・助言をいただいた。（敬称略・五十音順）
　　菅野紀子、児玉 準、小林 克

11　今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

12　調査成果は、既に当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、記載が異なる場合は本報告書の報告が全てに優先する。

凡　　例

1　遺構実測図の縮尺は以下のとおりである。

　住居跡：1/60

　住居跡の炉：1/30

　土坑：1/50

2　層位は基本層序にはローマ数字を、遺構の覆土にはアラビア数字を用いた。

3　各遺物の縮尺は原則以下のとおりである。なお、紙幅の制約上、これに依らないものについては個々に示した。

　土器・礫石器：1/3

　剥片石器：2/3

　土製品：2/3

4　遺構図版及び遺物図版中に網掛けをしている場合は、個々に凡例を付している。

5　国土地理院発行の地形図を掲載したものには、図中に図幅名と縮尺を付した。

6　本書本文中では、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書と「岩埋文報」と省略する。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　立 地 と 環 境 …… 1
1　遺跡の位置と立地 …… 1
2　周 辺 の 地 形 …… 3
3　周 辺 の 遺 跡 …… 3

Ⅲ　調査・整理の方法 …… 8
1　野　外　調　査 …… 8
（1）試掘・表土除去 …… 8
（2）調査区区割り設定 …… 8
（3）遺構検出と精査 …… 8
（4）写　真　撮　影 …… 8
2　室　内　整　理 …… 8
（1）遺構図版の整理 …… 8
（2）遺 物 の 整 理 …… 9
（3）写真撮影と整理 …… 9

Ⅳ　検出された遺構 …… 10
1　調 査 の 概 要 …… 10
（1）調　査　経　過 …… 10
（2）基　本　層　序 …… 10
2　検　出　遺　構 …… 10
（1）住　居　跡 …… 10
（2）土　　坑 …… 18
（3）陥し穴状遺構 …… 24
（4）柱穴状小土坑 …… 24

Ⅴ　出　土　遺　物 …… 41
1　土　　器 …… 41
2　土　製　品 …… 41
3　石　　器 …… 41

Ⅵ　自然科学分析 …… 72
放射性炭素年代（ＡＭＳ測定） …… 72

Ⅶ　総　　括 …… 75
1　住　居　跡 …… 75
2　土　　坑 …… 75
3　土　　器 …… 78
4　ま　と　め …… 78
報 告 書 抄 録 …… 117

図　版　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　地形分類図 …… 4
第３図　調査区位置図 …… 5
第４図　周辺の遺跡 …… 7
第５図　遺構配置図 …… 9
第６図　基本土層 …… 10
第７図　１号住居跡 …… 25
第８図　２・３号住居跡（１）…… 26
第９図　２・３号住居跡（２）…… 27
第10図　４号住居跡（１）…… 28
第11図　４号住居跡（２）・５号住居跡…… 29
第12図　６号住居跡・７号住居跡（１）…… 30
第13図　７号住居跡（２）…… 31
第14図　８号住居跡（１）…… 32
第15図　８号住居跡（２）・９・10号住居跡 … 33
第16図　11～13号住居跡 …… 34
第17図　１～５号土坑 …… 35
第18図　６～８号土坑 …… 36
第19図　９・11～13号土坑 …… 37
第20図　14～17号土坑 …… 38
第21図　18～21号土坑・ピット１ …… 39
第22図　１・２号陥し穴状遺構 …… 40
第23図　１・２号住居跡出土土器 …… 43
第24図　２号住居跡出土土器 …… 44
第25図　２・４号住居跡出土土器 …… 45
第26図　４～７号住居跡出土土器 …… 46
第27図　７・８号住居跡出土土器・ …… 47
第28図　８・10・11号住居跡出土土器 …… 48
第29図　12･13号住居跡、1～５号土坑出土土器… 49
第30図　６号土坑出土土器（１）…… 50
第31図　６号土坑出土土器（２）…… 51
第32図　７・８・11・13・14号土坑出土土器… 52
第33図　15・19・21号土坑、２号陥し穴状遺構出土土器 …… 53
第34図　遺構外出土土器・陶磁器・土製品 …… 54
第35図　１・２号住居跡出土石器 …… 55
第36図　２号住居跡出土石器 …… 56
第37図　２・３号住居跡出土石器 …… 57
第38図　４～６号住居跡出土石器 …… 58
第39図　７・８号住居跡出土石器 …… 59
第40図　８・９・11号住居跡出土石器 …… 60
第41図　11～13号住居跡、２号土坑出土石器… 61
第42図　２～４・６・７号土坑出土石器 …… 62
第43図　７・９・11・13・15号土坑出土石器… 63
第44図　15号土坑出土石器 …… 64
第45図　19号土坑、ピット１、遺構外出土石器… 65
第46図　住居跡集成図 …… 76
第47図　土坑集成図 …… 77
第48図　遺構内出土土器集成図（１）…… 79
第49図　遺構内出土土器集成図（２）…… 80
第50図　遺構配置概念図 …… 81

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧 …… 7
第２表　出土地点別石器数 …… 42
第３表　石器器種別石材 …… 42
第４表　土器・陶器観察表 …… 66
第５表　石器観察表 …… 69
第６表　土製品観察表 …… 71
第７表　コハク・骨観察表 …… 71

写真図版目次

写真図版 1　航空写真 …… 84
写真図版 2　出土遺物 …… 85
写真図版 3　１号住居跡 …… 86
写真図版 4　２・３号住居跡（１）…… 87
写真図版 5　２・３号住居跡（２）…… 88
写真図版 6　４号住居跡（１）…… 89
写真図版 7　４号住居跡（２）…… 90
写真図版 8　５・６号住居跡 …… 91
写真図版 9　７号住居跡（１）…… 92
写真図版 10　７号住居跡（２）…… 93
写真図版 11　８号住居跡（１）…… 94
写真図版 12　８号住居跡（２）、９号住居跡・10 号住居跡（１）…… 95
写真図版 13　10 号住居跡（２）、11 号住居跡、12 号住居跡（１）…… 96
写真図版 14　12 号住居跡（２）、13 号住居跡、陥し穴状遺構、ピット１ …… 97
写真図版 15　１～６号土坑 …… 98
写真図版 16　７～９・11 ～ 13 号土坑 …… 99
写真図版 17　13・14・16 ～ 18 号土坑 …… 100
写真図版 18　19 ～ 21 号土坑、基本土層 …… 101
写真図版 19　１・２号住居跡出土土器 …… 102
写真図版 20　２号住居跡出土土器 …… 103
写真図版 21　２・４号住居跡出土土器 …… 104
写真図版 22　４～７号住居跡出土土器 …… 105
写真図版 23　７・８号住居跡出土土器 …… 106
写真図版 24　８・10 ～ 13 号住居跡、１・２号土坑出土土器 …… 107
写真図版 25　３～６号土坑出土土器 …… 108
写真図版 26　６～８・11 号土坑出土土器 …… 109
写真図版 27　13 ～ 15 号土坑出土土器 …… 110
写真図版 28　19・21 号土坑、２号陥し穴状遺構、遺構外出土土器・陶磁器・土製品 … 111
写真図版 29　１・２号住居跡出土石器 …… 112
写真図版 30　２～７号住居跡出土石器 …… 113
写真図版 31　７～９・11 ～ 13 号住居跡出土石器… 114
写真図版 32　２～４・６・７・９・11・13・15 号土坑出土石器 …… 115
写真図版 33　15・19 号土坑、ピット１、遺構外出土石器・コハク・骨 …… 116

Ⅰ　調査に至る経過

下村遺跡は、村道黒崎港線道路改良工事の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

村道黒崎港線は、本村の主産業である水産業を営む方が多く居住しており本村の水産業の拠点となっている地区の１つであり､水産会社及び水産業経営者のトラックの運行が多い路線となっている。

また、当該地区の公民館へ繋がる道路であり、介護施設や地区の運動施設へのアクセス道路の一部でもあることから、地域の住民だけではなく、各種施設利用者にとっても重要な役割を担っている。

当該区間は幅員狭小であり見通しも悪く事故等が発生していることから、改良工事により十分な車道幅員を確保し、生活道路としての機能向上を図るものである。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成 28 年５月 18 日付けにより、普代村長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し､平成 28 年５月 24 日に試掘調査を行い、平成 28 年６月１日付け教生第 1367 号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成 30 年８月１日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（普代村建設水産課）

Ⅱ　立 地 と 環 境

１　遺跡の位置と立地

下村遺跡が所在する普代村は、岩手県沿岸部最北端に位置し、南は田野畑村、西は岩泉町、北は野田村に隣接する。明治４年（1871 年）に下閉伊郡普代村が成立し、総面積は 69.69㎢、平成 31 年１月 31 日時点の総人口は 2,713 人である。

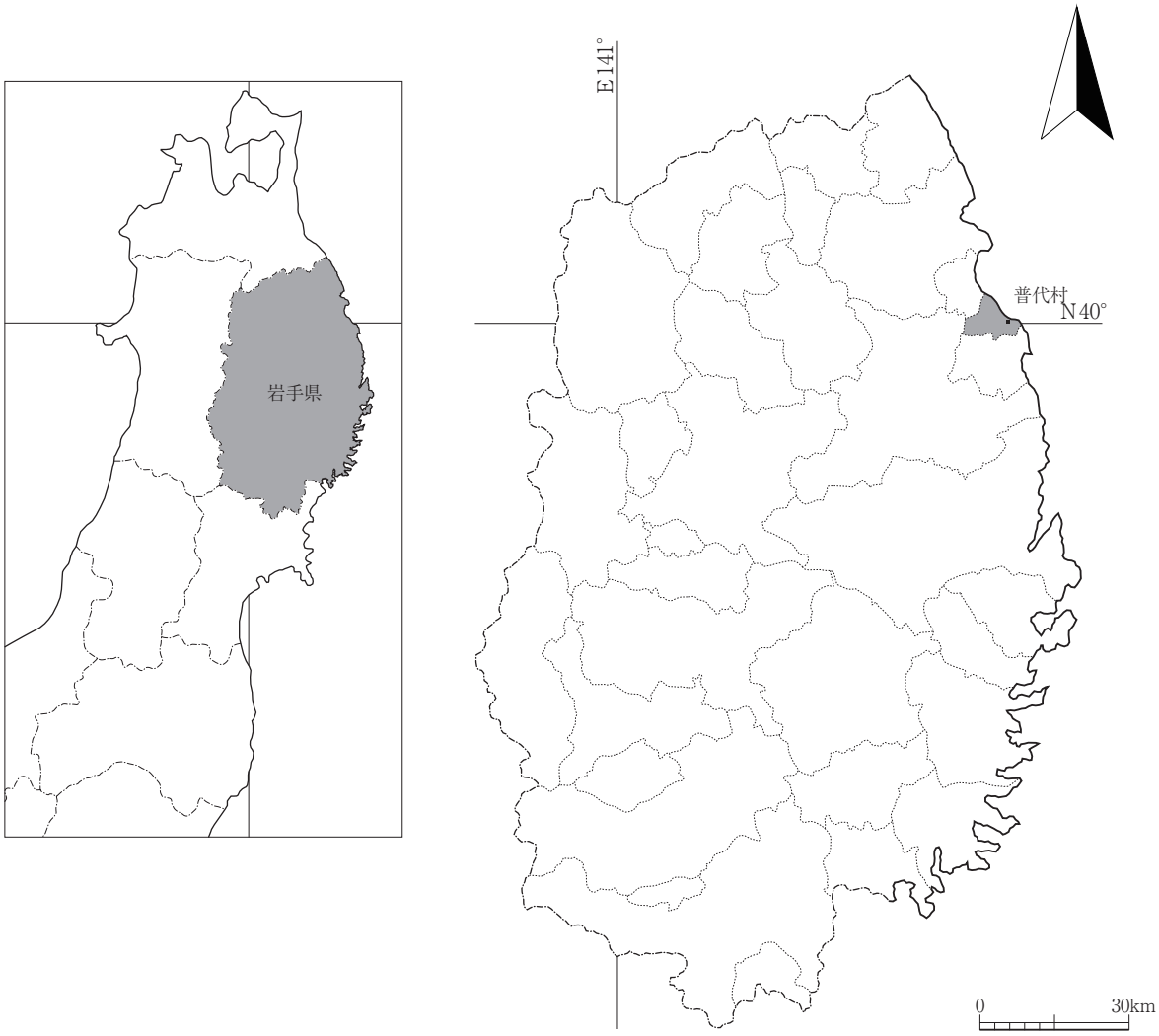
下村遺跡は、三陸鉄道北リアス線普代駅から東方向に約 3.6km、黒埼灯台から南西方向に約 870 m の地点にあり、海岸段丘頂部付近の標高 196 m前後に位置する。黒崎から北山崎を経て弁天崎までは総延長約８km で、北山崎や鵜の巣断崖などの標高 50 ～ 200 mの海食崖と段丘面の海成段丘からなる景勝地が連なっている。これらの海岸部は、昭和 30 年５月２日に陸中海岸国立公園に指定された範囲にあたり、平成 25 年５月 24 日には三陸復興国立公園として範囲拡大されている。

調査地点は、北緯 40° 0′ 05.1″、東経 141° 55′ 43.5″付近に位置する。地図上では、国土地理院発行２万５千分の１地形図「田野畑」NJ-54-13- 1 - 1 に含まれる。

２　周 辺 の 地 形

前述のとおり、本遺跡が立地する黒崎地区は南北に広く連続する隆起海岸で、海成段丘が発達している。海成段丘面（九戸段丘）の高度分布はおよそ 100 ～ 200 mで黒崎地区が最も高く、北山崎などの南部に向かって高度が下がっている。黒崎地区の海岸はほとんどが海食崖地形であるが、最も近い海岸線は約 700 m北に位置するネダリ浜で、遺跡周辺から北流する沢によって形成された砂浜海岸を

2．周辺の地形



国土地理院発行 1/25000「田野畑」「普代」を一部改変・合成

第１図　　遺跡位置図

呈している。海成段丘（九戸段丘）には目立った河川はないものの、小規模の谷が複雑に開析されており、下村遺跡は最も広い高位面上に立地している。

参考文献

岩手県企画開発室（北上山系開発）1974『北上山系開発地域土地分類基本調査　野田』

岩手県企画開発室（北上山系開発）1974『北上山系開発地域土地分類基本調査　岩泉』

岩手県企画開発室（北上山系開発）1975『北上山系開発地域土地分類基本調査　岩泉（別冊）』

3　周 辺 の 遺 跡

平成29年度岩手県遺跡台帳に登録されている普代村の遺跡は60箇所で、机遺跡・堀内遺跡・蝦夷森遺跡・力持遺跡・普代遺跡が集落跡に分類されている。また、50箇所で縄文土器の散布状況が確認されており、下村遺跡の位置する黒崎地区には遺跡が密集している。

黒崎地区の縄文時代遺跡発掘調査事例は、平成13年３月５～７日に実施された下村遺跡・下村Ⅰ遺跡の発掘調査がある。農業用水道管敷設に伴って細長い範囲が調査されており、本報告書の平成30年調査区内農業用水道部分に相当する。なお、平成13年度報告では、平成30年調査８号住居跡あたりから南を下村遺跡、４号住居跡あたりから北を下村Ⅰ遺跡として発掘調査が行われている。平成13年調査で検出された遺構は､下村遺跡フラスコ状土坑１基､下村Ⅰ遺跡陥し穴状遺構１基である。下村遺跡で検出されたフラスコ状土坑は平成30年調査11号住居跡の近辺だと考えられるが、平成13年度調査で既に全体の4/5が調査されている。フラスコ状土坑の構造上、残る1/5は遺構検出面に遺構の存在が現れない。また、平成13年調査報告書では調査区及び遺構検出地点が不明であったため、地山面に現れない底面付近の掘り込みを予見することはできなかった。よって、平成30年調査では残り1/5を確認することができなかった。

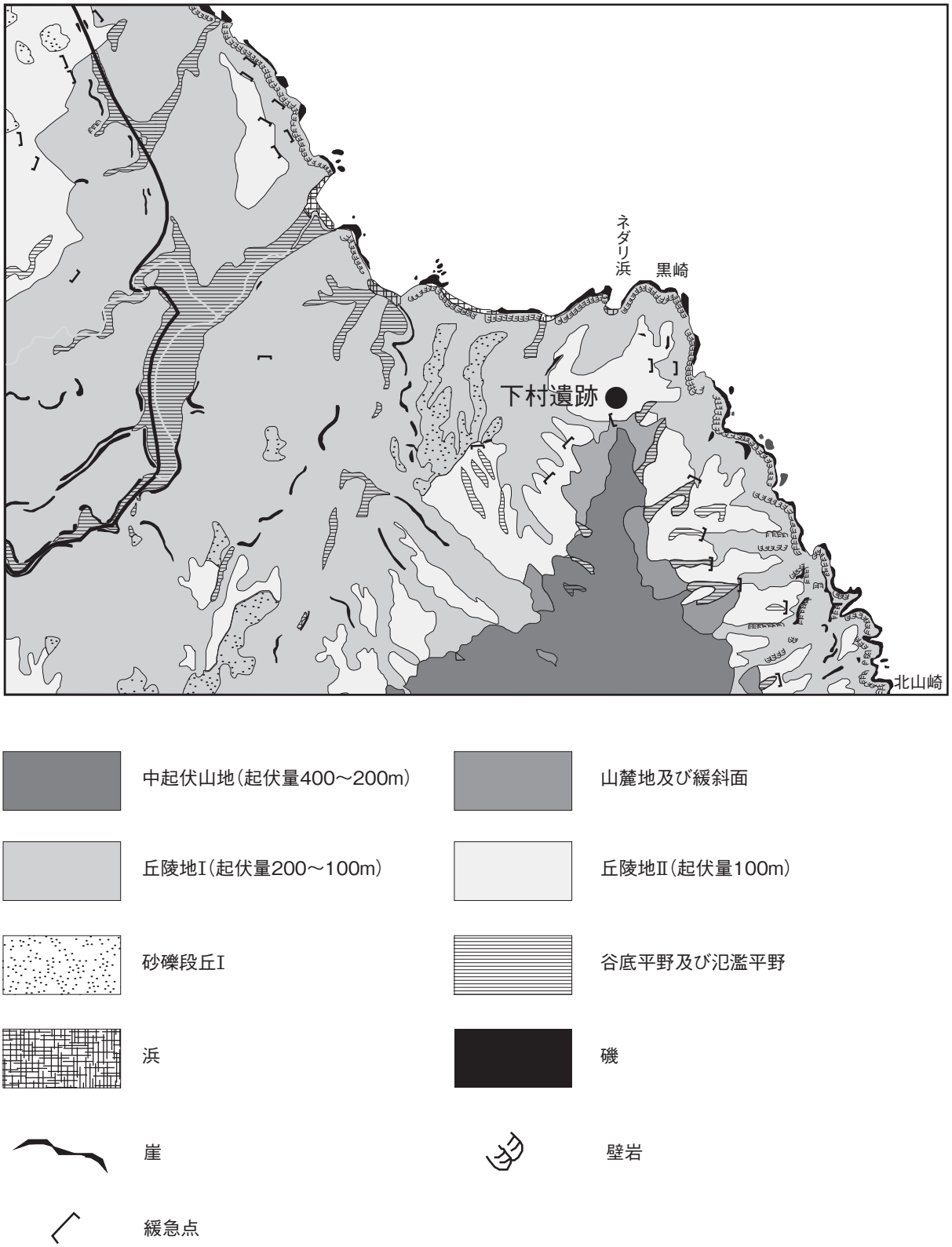
下村Ⅰ遺跡で半分調査された陥し穴状遺構１基は、遺構の構造上平成30年調査区でも検出されるはずである。しかし、検出が想定される地点ではフラスコ状土坑しか出土していない。陥し穴状遺構の土層相は褐色シルトで構成されており、近似する堆積土を検出したのは平成30年調査の４号土坑（フラスコ状土坑）である。

黒崎地区以外では、力持遺跡・太田名部遺跡・堀内机遺跡・長途遺跡（平成30年３月報告書刊行）で発掘調査が行われている。

力持遺跡は、普代村バイパス建設に伴って発掘調査が行われている。平成13年４月13日～11月15日、平成14年４月15日～11月26日、平成14年４月10日～11月19日の３箇年に亘って発掘調査が行われ、縄文時代の集落遺跡であることが分かっている。

３箇年6,664㎡の発掘調査で検出された遺構は、住居跡195棟、土坑253基、埋設土器６基、焼土遺構23気、列石･集石20基、掘立柱建物跡２棟、柱穴群６箇所、捨て場１箇所、旧沢跡４条である。掘立柱建物跡２棟は近世建物で、これ以外は全て縄文時代前期前葉～中期末葉である。力持遺跡は斜度15～30°の傾斜地に立地している。平坦面に乏しいにも関わらず、長時期に亘って集落が営まれ、遺構の重複が著しい。特筆される遺構として、①大形住居の検出、②壁高２ｍを測る深い住居跡の検出が挙げられている。

出土遺物は、前期前葉～中期末葉の土器700箱、土製品150点、石器7,564点、石製品485点、剥片約31箱、黒曜石数点、動植物遺存体1,000点以上、琥珀約600ｇ近世陶磁器１点が出土し、縄文


ネダリ浜
黒崎
下村遺跡
北山崎
中起伏山地（起伏量400～200m）
山麓地及び緩斜面
丘陵地Ⅰ（起伏量200～100m）
丘陵地Ⅱ（起伏量100m）
砂礫段丘Ⅰ
谷底平野及び氾濫平野
浜
磯
崖
壁岩
緩急点

第２図　地形分類図

第３図　　調査区位置図

時代前期から中期の大規模な集落遺跡であることが報告されている。大木式土器と円筒式土器両者が出土しており、文化圏が接触する北緯 40° 上の重要遺跡である。

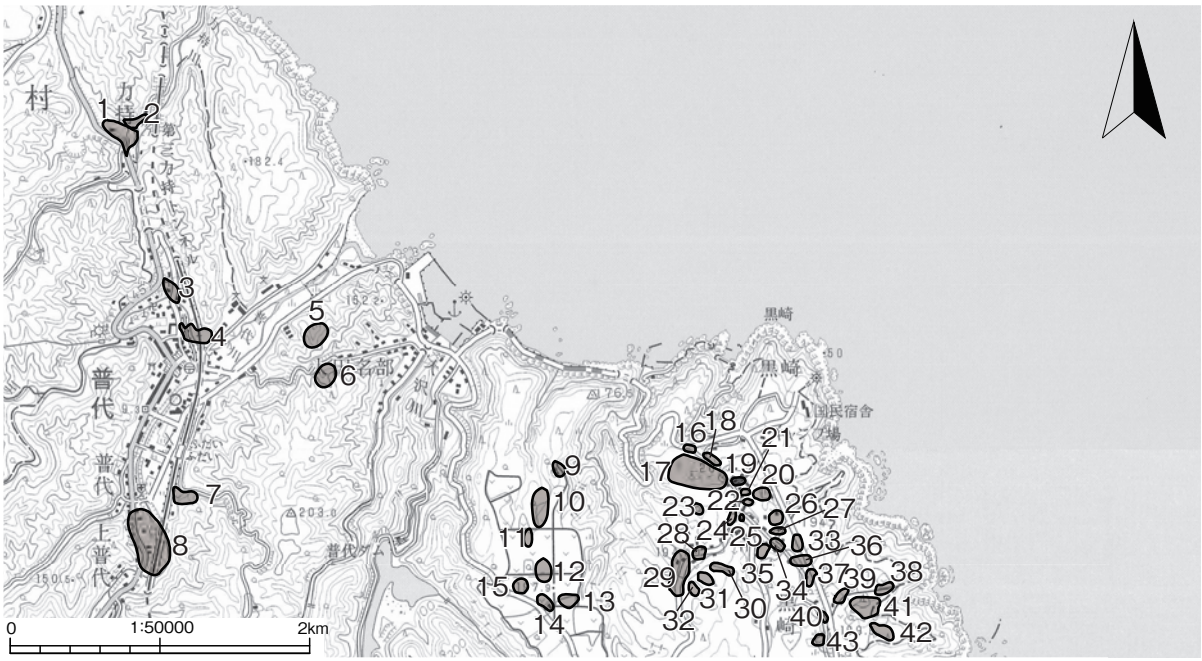
太田名部遺跡は、村営林業構造改善事業名神線開設に伴い、平成９年５月６日～８月６日に発掘調査が行われている。遺跡は、太田名部港のある太田名部地区に所在し、高位段丘（九戸段丘）が開析された標高約 100 ｍの緩斜面地に立地する。発掘調査の結果、旧石器時代から平安時代までの遺構が見つかっている。

太田名部遺跡発掘調査の検出遺構は、住居跡４棟（縄文時代前期ヵ１棟、平安時代２棟、不明１棟）、陥し穴状遺構７基、土坑４基、埋設土器１基（縄文時代中期）、焚火跡１基（旧石器時代）である。出土遺物は、縄文時代（大木２ａ式、大木２ｂ式、大木４式、大木５式、円筒上層ｃ式、大木８ａ式）、続縄文時代（後北 C2 － Ｄ式、土師器ヵ）、石鏃、石匙、尖頭器、磨石、砥石が出土している。

堀内机遺跡は、県内貝塚内容確認調査事業として平成９年９月 27・28 日に調査が行われた。遺跡は堀内地区に所在し、野田村との村境に近い。海岸線から内陸へ３㎞の安家川右岸に位置する。

調査は５箇所の試掘グリッドによって行われた。調査の結果、縄文時代前期前葉～中期中葉、晩期の遺物が出土している。力持遺跡発掘調査報告書では、「遺跡は見晴らしの良い台地に立地し、この台地は全体的に平坦気味にあり、大規模な集落遺跡が眠っていることを予見させる。」と現地踏査の結果が報告されている（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008『力持遺跡』）。なお、力持遺跡報告では、下村遺跡･下村Ⅰ遺跡について、「調査区外の畑では縄文時代中期の土器（大木８式）を多量に表採できる。所見として、この遺跡は下村遺跡と下村Ⅰ遺跡に区分されているが、地形の連続性からは両者の区分が難しく、一連の遺跡と判断される。そして、遺跡の中心部は調査地点の北側に展開するものと推定され、土器が多量に散在する状況からは、大規模な集落遺跡である可能性が窺える。」と記述がある（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008『力持遺跡』）。

（財）岩手県埋蔵文化財センター 1983『考古遺物資料集 第３集 岩手県種市町・野田村・大野村・山形村・普代村・田野畑村』
普代村教育委員会 1998『太田名部遺跡－平成９年度緊急発掘調査報告書－』普代村埋蔵文化財調査報告書第１集
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008『力持遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 510 集



国土地理院発行「陸中野田」「岩泉」を一部改変･合成

第４図　周辺の遺跡

第１表　周辺遺跡一覧

Ｎｏ．	遺跡名	種別	時代	出土遺物
1	力持	集落跡	縄文	縄文土器（前～後期）壷形土器（後期）石斧、環状耳飾、石匙
2	力持Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
3	宇留部Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
4	宇留部Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
5	普代城	城館跡	中世	空堀、帯郭
6	太田名部	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石器
7	普代	集落跡	縄文	注口土器、鈎手付壷、小形壷、縄文土器（後期）、石器
8	中村	散布地	縄文	縄文土器
9	和野山口	散布地	縄文	縄文土器（中期）、壷
10	和野山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
11	和野山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前期）
12	和野山Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前期）
13	和野山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
14	和野山Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
15	黒崎Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）
16	黒崎Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
17	黒崎Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
18	下村Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）、コア
19	下村	集落跡	縄文	縄文土器（晩期）、石鏃、石匙、石斧、石槍、石棒
20	下村Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
21	下村Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
22	下村Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
23	黒崎Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
24	黒崎Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、円筒
25	妙相寺	寺院跡	縄文・中世	縄文土器
26	下村Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
27	下村Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、土師器
28	黒崎Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器
29	黒崎Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（中・後期）
30	上村Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
31	上村Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
32	上村Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
33	上村Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器
34	下村Ⅶ	散布地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器？
35	上村Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）
36	上村Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（早期）
37	上村Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器
38	上村Ⅸ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、フレーク
39	上村Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器（早期）、貝殻文
40	上村ⅩⅥ	散布地	縄文	縄文土器（前・中期）
41	上村Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器
42	上村ⅩⅡ	散布地	縄文	縄文土器
43	上村ⅩⅠ	散布地	縄文	縄文土器（前期）

Ⅲ　調査・整理の方法

１　野　外　調　査

（１）試掘・表土除去

調査区のほとんどが現道下であるため、発掘調査開始前にアスファルト敷きを撤去する必要があった。この作業は、岩手県教育委員会生涯学習文化財課立会の下、工事業者によって８月６日まで行われた。その後、岩手県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘掘削箇所に留意しながら、砂利敷下の表土除去を８月７日から８月 22 日まで重機を用いて行った。なお、現道下には水道管が２本埋設されていた。東側が農業用水道、西側が水道管であり、これらが埋設されている範囲を残して調査を行った。なお、農業用水道管埋設前に、岩手県教育委員会によって埋設範囲の発掘調査が行われている（岩手県教委 2001）。

岩手県教育委員会 2001「10　農地開発事業普代地区関連調査　下村遺跡（JG93-2158）下村Ⅰ遺跡（JG93-2147）」『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成 12 年度）』

（２）調査区区割り設定

調査区の基準点１・２及び補点１・２の平面直角座標値と標高値は以下のとおりである。

３級基準点　基　１：X=726.145　Y=93542.344　H=197.800 m
３級基準点　基　２：X=766.787　Y=93500.452　H=196.425 m
補点１：X=736.000　Y=93526.000　H=197.424 m
補点２：X=752.000　Y=93518.000　H=197.399 m

（３）遺構検出と精査

遺構検出は試掘結果に基づき、重機による表土掘削後、地山面において行った。遺構精査は、住居跡は四分法、その他遺構については二分法を原則とした。しかし、調査区内を２本の水道管が通っており、掘削不可のため調査方法に制約があった。そのため、特に大きな住居跡についてはこの限りではない。個々の遺構は覆土の堆積状況・遺物出土状況、遺構全景の撮影を行い、断面図は人手で、平面図は電子平板によって記録を行った。遺構内の遺物は、遺構名・出土層位・地点を記録して取り上げ、遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

（４）写　真　撮　影

写真撮影は６×９判モノクロームフィルムカメラ（FUJI　GSW690 Ⅲ）１台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 6D）１台で行った。撮影では、日付･遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。

２　室　内　整　理

（１）遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板（㈱キュービック「遺構くん」システム）のデータを用いて作図し

た平面図と、調査員・野外作業員が作図した人手による断面図をデジタルデータ化して第二原図を作成した。

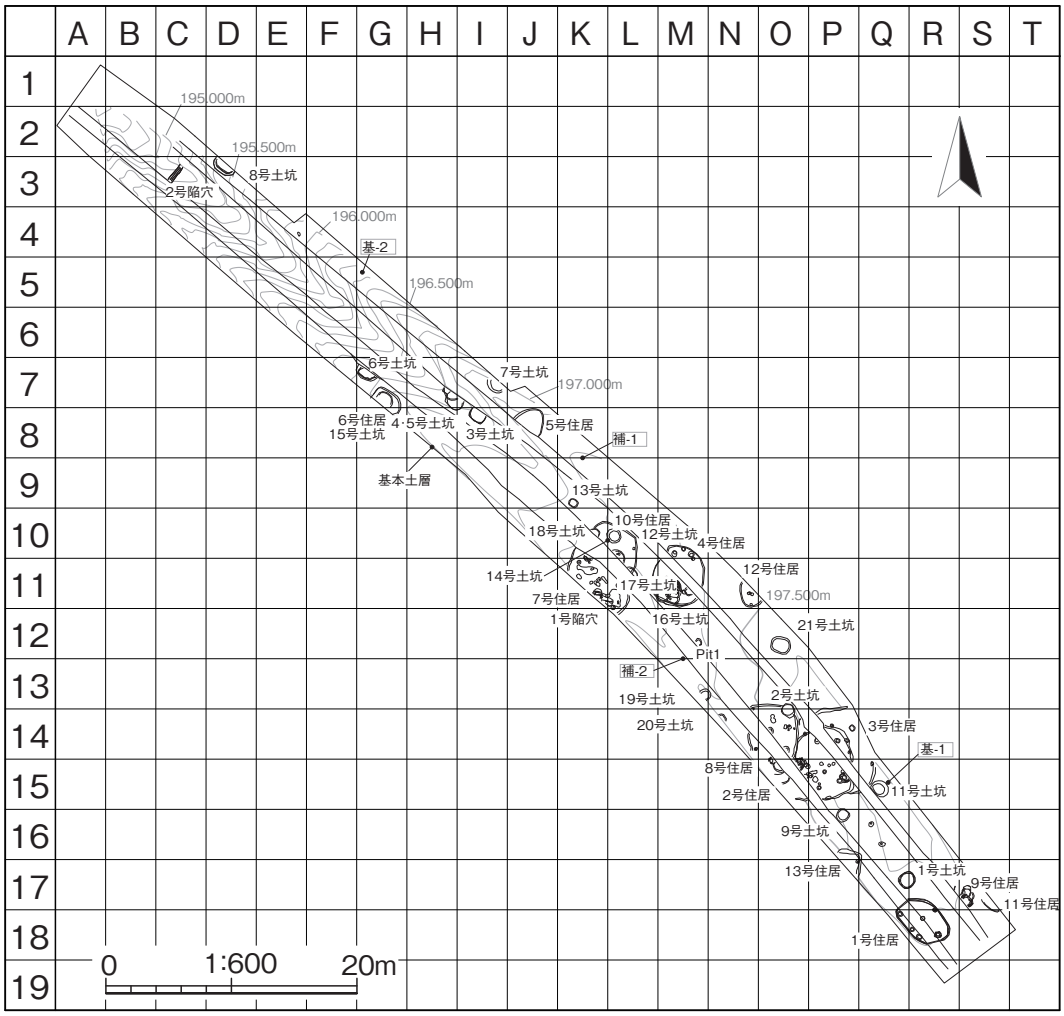
（2）遺 物 の 整 理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に収め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分に選別、掲載分は種別毎に仮番号を付して登録作業を行った。この後、実測・拓本、点検・修正、トレース作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。本書への掲載は、遺構内出土遺物を優先した。

（3）写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等は、６×９判モノクローム写真はネガとともにアルバム貼付し、デジタルカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめた。

遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフ（Canon EOS 6D）にて撮影した。



第５図　遺構配置図

Ⅳ　検出された遺構

１　調 査 の 概 要

（１）調　査　経　過

平成30年８月１日に資材搬入、翌日から試掘調査を行った。重機による表土掘削は８月７日～22日を行い、併行して人力による遺構検出作業を行った。

（２）基　本　層　序

調査区のほぼ全域が現道下であることは先に述べた。そのため、ほとんどが後世の削平を受けていた。基本層序を確認するため、調査区中央部地境の高まりを用いた。

基本層序は次のとおりである。

Ⅰａ層　10YR2/3　黒褐色シルト　粘性弱　締疎（表土）

Ⅰｂ層　10YR3/4　暗褐色シルト　粘性中　締中　褐色土粒直径５㎜～１㎝を20％含む（表土）

Ⅱ層　10YR3/4　暗褐色シルト　粘性中　締中　直径１㎝炭粒１％含む

Ⅲａ層　10YR2/3　黒褐色シルト　粘性やや弱　締中　直径５㎜炭粒１％含む

Ⅲｂ層　10YR2/2　黒褐色シルト　粘性強　締やや密

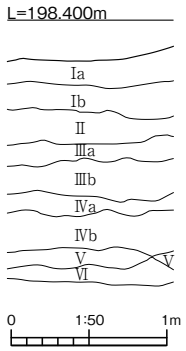
Ⅳａ層　10YR2/3　黒褐色シルト　粘性弱　締やや密　直径１～３㎜の褐色土粒３％

Ⅳｂ層　10YR3/4　暗褐色シルト　粘性中　締やや密　直径１～３㎜の褐色土粒３％、直径３㎜炭粒１％含む

Ⅴ層　10YR4/6　褐色シルト　粘性強　締やや密

Ⅵ層　10YR5/6　黄褐色シルト　粘性強　締密

Ⅴ層以下は火山灰層と考えられるが、詳細な分析は行っていない。そのため、これまでに普代村で確認されているどの火山灰に対応するかは不明である。



第６図　基本土層

２　検　出　遺　構

（１）住　　居　　跡

１号住居跡（第７図、写真図版３）

［位置･検出状況］調査区南、17Q･R、18Q･Rグリッドに位置する。表土掘削後、Ⅴ層上面で検出した。長軸方向に現水道の攪乱を受けている。

［その他の遺構との重複］　認められない。

［平面形］楕円形を呈する。

［規模］長軸4.35ｍ・短軸2.9ｍ・深さ15㎝

［覆土］黒褐色シルトが堆積しており、炭化物が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えら

れる。
［床面・壁］床面はⅤ層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は現水道攪乱を除き全周する。現道による攪乱が著しく、壁はほとんど残存していない。
［炉］２基確認した。炉１が石囲炉、炉２は地床炉である。炉１は主に板状の花崗岩を用いて 60 × 45cmの方形に組まれた石囲炉である。炉１の石は床面から深さ 16cm掘り窪めて設置されている。燃焼面は地床面から 14cm深いところで検出した。炉２の焼成面確認範囲は 38 × 30cmである。
［付属施設］柱穴状小ピット４個を確認した。配列は不規則で、主柱穴の配置は推測できない。
［出土遺物］（第 23・34 図、写真図版 19・29）土器は 1136.6 ｇ出土している。土器１はピットから出土している。石器は特殊磨石１点、敲石２点、打製石斧１点、二次加工剥片１点、礫器１点、多面体敲石２点を掲載した。
［時期］出土土器から、大木８ａ式期の可能性が考えられる。（八木）

２号住居跡（第８・９図、写真図版４・５）
［位置･検出状況］14 Ｏグリッドから 15 Ｐグリッドにかけて位置する。重機で表土除去を行ったところ、Ⅳｂ層面に暗褐色の円形プランが確認されたため、トレンチによる確認を行い、３号住居跡とともに検出した。本遺構は農業用水道管、水道管が北西方向から南東へ埋設されており、一部精査を行えなかった。また、本遺構の南西側約２ｍは確認できなかった。
［その他の遺構との重複］３号住居跡及び８号住居跡と重複している。
　３号住居跡との重複部分では断面観察により本遺構が３号住居跡を切っていることを確認し、本遺構が新しいと判断した。
　８号住居跡とは本遺構の北西部分で重複している。８号住居跡のＤ - Ｄ’断面では、本遺構床面より下部に８号住居跡の床面が確認できたため、本遺構が新しいものと考えられる。
［平面形］不整方形と考えられる。
［規模］長軸 6.0m・短軸 5.1m・深さ 32cm
［覆土］６層に分層した。１層の黒色シルトはⅢ層由来と考えられ、攪乱も見られる。２層の褐色シルトはⅣ層由来と考えられ、本遺構の床面約 80％を覆っているため、２層の褐色シルトを本遺構覆土の主体部とした。３層は壁面崩落土と考えられる。４層は３号住居跡に伴う堆積土であり、５・６層は本遺構の炉２に伴う堆積土である。堆積状況は自然堆積と考えられる。
［床面・壁］床面はⅤ層が露出した面を床面とし、概ね平坦である。壁は確認できなかった南西壁隅約２ｍを除き、直立気味に立ち上がる。
［炉］南東側の炉を炉１、西側の炉を炉２とし、合わせて２基の石囲炉を確認した。炉１は石囲部と北側に接する被熱範囲を確認した。石囲部平面形は 88 × 60cm、石囲炉内部の焼土は 35 × 33cm被熱深度１cm、被熱範囲は 25 × 15cm被熱深度８cmである。炉石による分断があるが断面（ａ - ａ’）から一体のものと考えられる。炉２の平面形は確認可能範囲で 106 × 92cm、焼土確認範囲は被熱深度８cm、38 × 28cm、炉底面の推定焼土範囲は 79 × 39cmである。炉１は 16cm、炉２は 25cm床面を掘り下げて作られている。炉１は農業用水道管、炉２は水道管によって一部確認できなかった。
［付属施設］２号・３号住居跡の範囲内から合わせて 11 個の柱穴状ピットを確認した。２号住居跡に付属すると考えられるものはピット１～６と考えられ、ピットの規模（長軸×短軸×深さcm）は、Ｐ１（43 × 29 × 52）、Ｐ２（44 × 33 × 39）、Ｐ３（29 × 26 × 20）、Ｐ４（33 × 30 × 23）、Ｐ５（34 × 32 × 21）、Ｐ６（49 × 37 × 59）。なおＰ６は炉１石囲部の一部を掘り込んでいること、Ｐ１・２・

６が炉２中軸線の延長線をはさみ対称的な位置にあることから、本遺構の最終形態として炉２とＰ１・２・６を伴う段階が想定され、炉１は古い段階の可能性がある。配置に規則性は確認できなかったが、深さのあるＰ１・Ｐ２・Ｐ６が主柱穴と考えられる。
［出土遺物］（第 23 ～ 25・34 ～ 37 図、写真図版 19 ～ 21、28 ～ 30）覆土中より土器が出土している。まとまって出土したものは９箇所に分け、番号を振り取り上げた。南壁際の床面にほぼ密着して、47.1 × 22.5㎝の自然礫１点が出土した。（戦場）
　土器で型式判断できるのは３である。口縁部が欠けているが、口縁部下にはボタン状の貼付文に刺突によって加飾が施されている。体部には直線化したＪ字状文が沈線によって描かれている。17 は注口土器である。外面全体に LR が施文されている。
　石器は石鏃１点、石匙１点、石錐１点、二次加工剥片２点、磨製石斧３点、打製石斧２点、磨製石斧未成品４点、多面体敲石２点、敲石２点、特殊磨石１点を掲載した。この他、磨製石斧１点、二次加工剥片２点、打製石斧７点、多面体敲石５点、敲石２点、特殊磨石１点、礫器１点、台石１点が出土している。土製品は粘土塊が３点出土しており、全点掲載した。
［時期］土器の多くは床面から少し高い位置から出土している。土器３の文様及び縄文施文の器形などから、遺構の時期は大木 10 式期と考えられる。（八木）

３号住居跡（第８・９図、写真図版４・５）
［位置・検出状況］14 Ｏグリッドから 15 Ｑグリッドにかけて位置する。重機で表土除去したところ、Ⅳｂ層面に暗褐色の円形プランが確認されたため、トレンチによる確認を行い２号住居跡とともに検出した。本遺構は農業用水道管が北西方向から南東へ埋設されており、一部精査を行えなかった。東側部分は調査区外へ及んでいる。
［その他の遺構との重複］２号住居跡と重複しており、２号住居跡により 1/3 程度壊されていると考えられる。
［平面形］残存する北壁が直線気味であることから全体形状は不整方形となると考えられる。
［規模］長軸 6.34 m・短軸 4.12 m（住居壁から調査区壁）・深さ 11.4㎝
［覆土］暗褐色シルトの単層である。堆積状況は自然堆積であると考えられる。
［床面･壁］床面はⅤ層が露出した面を床面としており、概ね平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。
［炉］確認できず。
［付属施設］２号・３号住居跡の範囲内から合わせて 11 個の柱穴状ピットを確認した。３号住居跡に付属すると考えられるものはピット７～ 11 であり、ピットの規模（長軸×短軸×深さ㎝）は、Ｐ７（51 × 49 × 14）、Ｐ８（32 × 25 × 8）、Ｐ９（39 × 31 × 47）、Ｐ 10（26 × 25 × 14）、Ｐ 11（31 × 28 × 16）である。これらのうち、深さのあるＰ９が主柱穴の一部であると考えられる。
［出土遺物］（第 37 図、写真図版 30）敲石が１点出土している。
［時期］土器の出土がなく、遺物からの時期判断が難しい。２号住居跡に切られているため２号住居跡より古い。（戦場）

４号住居跡（第 10・11 図、写真図版６・７）
［位置･検出状況］調査区ほぼ中央、10M･11LM グリッドに位置する。表土掘削後、Ⅴ層上面で検出した。短軸方向に農業用水道の攪乱を受けている。
［その他の遺構との重複］ 16 号土坑と重複が認められ、４号住居の方が新しい。炉東側で検出した

Ｐ１（直径 65 ×深さ 45㎝）は４号住居跡の柱穴としては大きく、床面で取り上げた土器がＰ１上面まで広がっていた。そのため、４号住居跡より古い時期の土坑の可能性があるが、４号住居跡に伴うものとして調査を行った。
［平面形］楕円形を呈する。
［規模］長軸 4.8 m・短軸４m・深さ 25㎝
［覆土］１層黒褐色シルト、２層褐色シルトが堆積している。褐色土粒が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］床面はⅤ層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は現農業用水道の攪乱を除き全周し、ほぼ直立する。
［炉］長軸 1.8 m短軸 0.9 mの複式炉を１基確認した。石の配置は散在しており現位置を保っていない可能性が考えられる。前庭部の掘り込みと前庭部の床面の硬化は著しい。炉内から遺物は多く出土していないが、中央部両脇に土器がまとまって出土している。
［付属施設］柱穴状小ピット７個を確認した。複式炉の位置及びピットの形状・位置から、Ｐ２（直径 15㎝×深さ 12㎝）・Ｐ３（25 × 68）・Ｐ４（38 × 20）・Ｐ５（30 × 36）・Ｐ６（35 × 35）が柱穴の可能性がある。この他、農業用水道下に２個残されている可能性がある。
［出土遺物］（第 25･26、34、38 図、写真図版 21･22、28、30）土器は 1732 ｇ出土している。石器は、多面体敲石１点、敲石１点、石皿３点が出土している。この他、粘土塊が１点出土している。
［時期］土器32は大木10式期の特徴を備える。他の土器は縄文施文の土器片で、口縁部が外反している。これらの特徴から、大木 10 式期の可能性が考えられる。（八木）

５号住居跡（第 11 図、写真図版８）
［位置・検出状況］調査区ほぼ中央、８Ｊグリッドに位置する。表土掘削後、Ⅴ層上面で検出した。短軸方向に農業用水道の攪乱を受けている。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］確認範囲内では楕円形を呈する。
［規模］長軸（1.8）m・短軸 2.95 m・深さ 15㎝
［覆土］褐色シルト１層が堆積している。褐色粒が少量、炭粒が微量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］床面はⅤ層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は現農業用水道の攪乱を除き全周し、ほぼ直立する。
［炉］調査範囲内では認められなかった。
［付属施設］柱穴等の付属施設は認められなかった。
［出土遺物］（第 26、38 図、写真図版 22、30）土器は 285.1 ｇ出土している。石器は剥片が１点出土している。
［時期］遺物がほとんど出土していない。土器 44 は大木８b 式もしくは榎林式と考えられる。土器 45 は前期土器片と考えられるが、磨滅しており混入と考えられる。このことから大木８b 式期の可能性がある。（八木）

６号住居跡（第 12 図、写真図版８）
［位置・検出状況］調査区北側、７Ｇ・８Ｇグリッドに位置する。表土掘削後、Ⅳ層上面で検出した。

［その他の遺構との重複］15 号土坑と重複し、６号住居跡の方が古い。
［平面形］調査範囲内では楕円形を呈する。
［規模］長軸 2.5 m・短軸 1.35 m・深さ 15㎝
［覆土］暗褐色シルト１層が堆積している。褐色粒が少量混入する。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面･壁］床面はⅤ層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は調査区外を除き全周し、ほぼ直立する。
［炉］調査範囲内では認められなかった。
［付属施設］柱穴等の付属施設は認められなかった。
［出土遺物］（第 26、38 図、写真図版 22、30）土器は 935.4 ｇ出土している。石器は二次加工剥片１点、特殊磨石１点が出土している。
［時期］出土土器は少ないが、前期前半の土器片である。それほど磨滅もしていないため、前期の可能性があるが、覆土は暗褐色土で前期前半の土とは考え難い。15 号土坑は出土土器から大木８ｂ式期と判断されることから、６号住居跡の時期は前期から大木８ｂ式以前と考えられる。（八木）

７号住居跡（第 12・13 図、写真図版９・10）
［位置・検出状況］調査区北側、10K・11K・Ｌグリッド付近に位置する。表土掘削後、Ⅴ層上面で検出した。南西側は調査区外に伸びる。北東側は水道管埋設があり、調査を行うことができなかった。
［その他の遺構との重複］１号炉付近で１号陥し穴状遺構と重複し、７号住居跡の方が新しい。10 号住居跡とは水道管埋設範囲で重複すると考えられるが、確認できなかった。なお、４号住居跡とは床面の高さが異なるため、別住居跡と考える。
［平面形］西壁が直線的で、さらに対面する東壁がほぼ平行であるため、全体の形状は方形を呈すると考えられる。
［規模］長軸 5.65 m・短軸（2.4）m・深さ 40㎝
［覆土］上層の暗褐色土１・２層と、下層の褐色土３・４層に区分される。３層は炭粒が非常に多く、上面で広範囲に炭化材を検出した。焼失住居の可能性がある。炭化材は樹種同定を行い、全てサワグルミと同定されている。また、炭化材１～３は年代測定も行った。詳細は第Ⅳ章の報告で示しているとおりであるが、炭化材１が 4,080 ± 30（yrBP）、炭化材２が 4,050 ± 30（yrBP）、炭化材３が 4,000 ± 30（yrBP）との計測結果が提示されている。
［床面･壁］床面はⅤ層が露出した面を床面としている。概ね平坦である。壁は調査区外を除き全周し、ほぼ直立する。
［炉］南東側調査区境に炉１、北側水道管境に炉２を検出した。炉１は石囲炉で、残存範囲の計測値は長軸 76㎝短軸 74㎝である。床面を 20㎝掘り下げて礫７点を据えて作られている。石囲い内部で被熱範囲を 30 × 24㎝の範囲で確認した。また、石４を外した下面においても 28 × 8㎝の範囲で被熱範囲を確認した。１号炉に用いられた石材は、炉石１頁岩（中生代・北上山地）、炉石２斑岩（中生代白亜紀・北上山地）、炉石３デイサイト（中生代白亜紀・北上山地）、炉石４斑岩（中生代白亜紀・北上山地）、炉石５細粒閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）、炉石６細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）、炉石７斑岩（中生代白亜紀・北上山地）であり、在地石材を使用していることが分かった。炉２は床面を直径 76㎝×（28）㎝×深さ 14㎝掘り下げて作られている。内部及び近辺から礫３点が出土したが、被熱の痕跡が認められず、炉２に伴う礫かは不明である。礫２はヒン岩（中生代白亜紀･

北上山地)、礫３はホルンフェルス（中生代・北上山地）である。
［付属施設］柱穴を３個確認した。Ｐ１(直径 45cm×深さ 65cm)、Ｐ２(30 × 55)、Ｐ３(30 × 60)である。
［出土遺物］（第 26・27、39 図、写真図版 22・23、30・31）土器は 935.4 ｇ出土している。石器は、石匙１点、石錘１点、多面体敲石９点、礫器１点、磨石１点、石皿１点が出土している。
［時期］床面から土器 49･50･51･55･57･58 等が出土していることから、大木 10 式期と考えられる。(八木)

８号住居跡（第 14・15 図、写真図版 11・12）
［位置・検出状況］13 Ｎグリッドから 15 Ｏグリッドにかけて位置する。２号土坑断面で本遺構を確認した。
［その他の遺構との重複］２号土坑及び２号住居跡と重複している。本遺構は２号土坑よりも古い。また、本遺構南西部断面（Ｄ - Ｄ’）において、床面より高い位置で２号住居跡の床面と壁が確認できたことから、本遺構のほうが２号住居跡より古い。
［平面形］南西部分は調査区外へと伸びているため確認できなかったが、残存する壁面は直線状に伸びているため不整方形であると考えられる。
［規模］長軸 6.28m・短軸 3.98m・深さ 21cm
［覆土］４層からなる。３層の暗褐色シルトが主体であり、１、２、３層には根攪乱も見受けられた。４層は壁面崩落土と考えられる。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］床面はⅥ層下部と考えられる面を床面としている。床面は概ね平坦であり壁は直立気味に立ち上がる。
［炉］南側の石囲炉を炉１、北側の地床炉を炉２とした。炉１の規模は 59 × 47 深さ 12cm、焼成確認範囲は 28 × 27cm、被熱深度 6cmである。炉２の焼成面は北側・南側に２分割される状態であるため、それぞれの規模を示す。北側が 26 × 31cm、被熱深度２cm、南側が 42 × 36cm、被熱深度４cmである。炉１は住居内土坑によって一部壊されている。
［付属施設］住居内土坑１基、柱穴状ピット５個が確認された。ピットの規模（長軸×短軸×深さcm）は、Ｐ１（20 × 16 × 19)、Ｐ２（58 × 30 × 60)、Ｐ３（59 × 23 × 63)、Ｐ４（35 × 30 × 50)、Ｐ５（25 × 23 × 35）であり、主柱穴と考えられるものはＰ２・Ｐ３・Ｐ４である。５個のピットのうち、ピット１～３は水道管の埋設により全容は確認できなかった。
［出土遺物］（第 27・28、39・40 図、写真図版 23・24、31）覆土中から土器が出土している。床面直上から土器２点、礫３点を取り上げた。(戦場)
　石鏃２点、石匙１点、磨製石斧２点、敲石２点、礫器１点、特殊磨石１点、磨石１点が出土している。石鏃は有茎・無茎各１点である。
［時期］２号住居跡より古く、67･68･73･75 が出土していることから、大木８b･榎林式期と考えられる。円筒上層ｄ式 74・77 は磨滅しており、混入の可能性がある。(八木)

９号住居跡（第 15 図、写真図版 12）
［位置・検出状況］17S グリッドに位置する。民家塀撤去後、Ⅵ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］調査範囲内では重複は認められない。
［平面形］大部分が調査区外の民家敷地内下にあると考えられる。また、民家植木保護のため北西側の調査を行えなかったため、全体の規模を推定することができない。
［規模］調査可能範囲内での残存値は、長軸 1.15m ×短軸 35cm×深さ 38cmである。

［覆土］暗褐色土２層からなり、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］床面はⅥ層と考えられる面を床面としている。床面は平坦であり、硬く締まっている。壁は直立気味に立ち上がる。
［炉］調査範囲内では認められなかった。
［付属施設］調査範囲内では認められなかった。
［出土遺物］（第 40 図、写真図版 31）覆土中から石鏃が１点出土している。先端及び基部茎部分が欠損している。
［時期］調査区境で検出したことから、遺構の大部分が調査区外に伸びる。土器の出土が認められず、詳細な時期を判断することができない。しかし、堆積土からは、縄文時代中期と判断される。（八木）

10 号住居跡（第 15 図、写真図版 12・13）
［位置･検出状況］10K･L グリッドにかけて位置する。重機による表土除去後、暗褐色土の広がりと、遺物が散在していたことから認知した。
［その他の遺構との重複］12・14・17・18 号土坑と重複関係が認められる。断面の観察から、12 号土坑は 10 号住居跡より古く、17・18 号土坑は 10 号住居跡より新しいと考えられる。14 号土坑は 10 号住居跡床面精査時に確認したため、10 号住居跡より古い可能性があるが確定できない。
［平面形］南西部分は調査区外へと伸びているため確認できなかったが、北東及び東壁面が直線状に伸びているため不整方形の可能性が考えられる。
［規模］長軸 475cm・短軸 218cm・深さ 10cm
［覆土］２層からなる。壁側下位に褐色土、中央上位に暗褐色土が堆積している。堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］床面はⅥ層下部と考えられる面を床面としている。床面は概ね平坦であり、壁は直立気味に立ち上がる。
［炉］12 号土坑上面で焼土を確認した。地床炉の可能性があるが、表土からの攪乱も多く確証はない。
［付属施設］認められない。
［出土遺物］（第 28 図、写真図版 24）南東壁際から土器片が出土している。
［時期］床面から少し高いところで土器片 84 が出土している。縄文施文のみではあるが、大木８b 式期の可能性が考えられる。（八木）

11 号住居跡（第 16 図、写真図版 13）
［位置･検出状況］17S グリッドに位置する。民家塀撤去後、表土直下で確認した。塀による攪乱が著しい。
［その他の遺構との重複］調査可能範囲内では認められない。
［平面形］調査区際に位置し、さらに攪乱が著しいことから全体の形状を確認することができなかった。
［規模］長軸 215cm・短軸 125cm・深さ７cm
［覆土］１層からなる。褐色土が主体であり、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］Ⅵ層を床面としている。床面は平坦であり、壁は直立気味に立ち上がる。
［炉］１基確認した。北側に被熱範囲、南側に一段掘り下げた部分があり、南側壁際に礫が多数設置されている。さらに南側は農業用水道管埋設にかかる攪乱があり、全体の形状は不明であるが、被熱範囲と礫が出土している一段低い部分に段差が認められることから、複式炉の可能性がある。被熱範囲の大きさは 85 × 62cm、南側の一段掘り下げた部分は 95 × 92cm、深さ 32cmである。礫は拳大の小

さいものが多い。
［付属施設］認められなかった。
［出土遺物］（第 28、40・41 図、写真図版 24、31）炉から土器が複数出土している。長軸を打ち欠き、刃部を作出した敲石が１点、円形の自然礫を使用した敲石が１点出土している。
［時期］民家塀下で検出したため、遺構はかなり攪乱を受けていた。土器片は底部片が出土しているが、土器片からは縄文時代中期とまでしか判断できない。炉の形態からは複式炉の可能性が考えられ、その場合中期後半と考えることができる。（八木）

12 号住居跡（第 16 図、写真図版 13・14）
［位置・検出状況］11 N・Oグリッドに位置する。Ⅳｂ層掘削時に検出した。
［その他の遺構との重複］調査範囲内では認められない。
［平面形］北東部分は調査区外へと伸びているため確認できなかったが、西壁がやや直線状に伸びているため、楕円形であると考えられる。
［規模］長軸（205）cm・短軸（168）cm・深さ 33cm
［覆土］２層からなる。下位の２層は暗褐色土、上位の１層は黒褐色土で、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］Ⅵ層と考えられる面を床面としている。床面は平坦に調整されており、壁はやや外傾しながら立ち上がる。
［炉］調査範囲のほぼ中央で地床炉１基を確認した。被熱範囲は 18.5 × 19cmである。
［付属施設］調査範囲内では認められない。
［出土遺物］（第 29、41 図、写真図版 24、31）炉と重なる位置から土器 87･88 が出土している。また、南壁際から土器 86 が出土している。土器１は、倒位の状態で出土した。打製石斧１点、多面体敲石１点、礫器１点が出土している。
［時期］復元できる土器が床面から３点出土しており、大木８ｂ式・榎林式期と考えられる。（八木）

13 号住居跡（第 16 図、写真図版 14）
［位置・検出状況］16P・17P・Q グリッドにかけて位置する。土坑として調査を始めたが、方形の平面形が推定され、床面も平らであることから住居跡として報告する。
［その他の遺構との重複］調査範囲内では認められない。
［平面形］ほぼ直角の隅を検出したため、全体の形状は方形を呈すると考えられる。
［規模］長軸（220）cm・短軸（180）cm・深さ 65cm
［覆土］４層からなる。１～３層の暗褐色土が主体であり、堆積状況からみて自然堆積と考えられる。
［床面・壁］Ⅶ層と考えられる面を床面としている。床面は平坦に調整されており、壁は直立気味に立ち上がる。
［炉］調査範囲内では検出していない。
［付属施設］ピット１個を検出した。直径 22cm深さ 52cmで、柱穴の可能性が考えられる。
［出土遺物］（第 29、41 図、写真図版 24、31）覆土中から土器が出土している。石器は、敲石が１点出土している。
［時期］遺物は少ない。土器 91 はほぼ直立する器形が推定され、大木 10 式期の可能性があるが、縄文時代中期という以上に詳細な遺構の時期判断は難しい。（八木）

（２）土　　坑

20 基検出した。調査開始時 10 号土坑としたものは、精査途中で住居跡と判断した。そのため、10 号土坑は精査途中から 13 号住居跡と変更し、本報告書では 10 号土坑を欠番とした。

１号土坑（第 17 図、写真図版 15）
［位置・検出状況］17Q・R グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］楕円形を呈する。
［規模］長軸 130・短軸 118・深さ 40㎝
［覆土］５層からなる。壁際の４・５層は褐色土、１～３層は黒褐色～暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面には凹凸があり、平滑とは言えない。
［出土遺物］（第 29 図、写真図版 24）土器片が出土している。
［時期］土器片からは縄文時代中期と考えられる。（八木）

２号土坑（第 17 図、写真図版 15）
［位置・検出状況］13O・14O グリッドに位置する。表土除去後、Ⅴ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］８号住居跡と重複する。断面観察から、２号土坑の方が古いと考えられる。
［平面形］円形を呈する。床面近くがやや広く、開口部が若干狭い。
［規模］長軸 118・短軸 98・深さ 84㎝
［覆土］７層からなる。暗褐色～黒褐色土で構成され、自然堆積と判断した。
［底面・壁］底面は平坦に調整されている。
［出土遺物］（第 29、41･42 図、写真図版 24、32）土器 95 は口縁部に無文帯がある。96 は繊維を多く含み、縄文圧痕による文様が描かれている。磨滅が著しい。二次加工剥片が１点、敲石破片が２点出土している。敲石破片は、敲きの際に剥落したものと考えられる。
［時期］土器片から考えられる時期は、縄文時代中期である。（八木）

３号土坑（第 17 図、写真図版 15）
［位置・検出状況］８I グリッドに位置する。農業用水道管と村水道管の間に位置し、上面はかなり削平されている。表土直下で検出した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］円形を呈する。断面形は、底面が広く開口部が狭いフラスコ状を呈する。
［規模］開口部長軸 127・短軸（80）、底面長軸 210・短軸（120）・深さ 108㎝
［覆土］底面に黒褐色土が堆積し、上方に向けて褐色・黄褐色土と暗褐色・黒褐色土が互層をなす。周辺からの黒褐色土の流れ込みと、壁崩落土による自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面は硬く、平滑に調整されている。壁はフラスコ状を呈するが、前述のとおり、元の壁面は崩落しており、当時の状況を残していない。
［出土遺物］（第 29、42 図、写真図版 25、32）尖底土器など、前期土器破片が出土している。石鏃１点、石匙１点、二次加工剥片１点、打製石斧４点、特殊磨石２点が出土している。

［時期］出土土器は前期初頭が中心であるが、覆土に中掫火山灰は含まれていない。このことから、縄文時代前期後半から中期の可能性が考えられる。（八木）

４号土坑（第 17 図、写真図版 15）
［位置・検出状況］７Ｈ・Ｉグリッド付近に位置する。３号土坑同様、農業用水道管と村水道管の間に位置し、上面はかなり削平されている。表土直下で検出した。
［その他の遺構との重複］５号土坑と重複し、４号土坑の方が古い。なお、平成 13 年度に県教育委員会生涯学習文化課が発掘調査を行った際、極近くから溝状の陥し穴状遺構が検出されている。堆積状況の類似性から、４号土坑はその遺構の一部である可能性がある。
［平面形］調査範囲内では円形を呈する。
［規模］長軸 140・短軸 100・深さ 62㎝
［覆土］底面 13 層は暗褐色土、９～ 12 層は褐色土・黄褐色土で構成される。褐色土・黄褐色土は壁面の崩落の可能性が高く、自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面は硬く、平滑に調整されている。
［出土遺物］（第 29、42 図、写真図版 25、32）前期の土器片が数点出土している。打製石器が１点出土している。
［時期］５号土坑に切られているため、５号土坑より古い。遺物はごく少なく、堆積土の大部分が壁崩落土であるため堆積土から想定することが難しい。（八木）

５号土坑（第 17 図、写真図版 15）
［位置･検出状況］７Ｈグリッドに位置する。３･４号土坑同様､農業用水道管と村水道管の間に位置し、上面はかなり削平されている。表土直下で検出した。
［その他の遺構との重複］４号土坑と重複し、５号土坑の方が新しい。
［平面形］円形と推測される。
［規模］開口部長軸 134・短軸（58）・深さ 68㎝、底面長軸 178・短軸（60）㎝である。
［覆土］１～８層からなり､暗褐色･黒褐色土が堆積している｡壁面と考えられる褐色土が認められない。
［底面・壁］底面は硬く、平滑に調整されている。壁面も硬く締まっており、本来の形状を保っていると考えられる。
［出土遺物］（第 29 図、写真図版 25）７層付近から土器 104 が出土している。内面のミガキ調整は著しいが、焼成が甘くボロボロと壊れやすい。
［時期］土器 104 から縄文時代中期と考えられる。（八木）

６号土坑（第 18 図、写真図版 15）
［位置・検出状況］７Ｇグリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］調査範囲内では不整円形を呈する。
［規模］開口部長軸 190・短軸 80・深さ 142㎝、底面長軸 204・短軸（138）㎝。
［覆土］10 ～ 14 層の黒褐色・暗褐色土が自然堆積した後、褐色土と暗褐色の互層堆積と、４・５・７層の壁崩落土が重なって堆積している。全体的に自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁は本来の壁が崩落したため凹凸がある。

［出土遺物］（第 30・31、42 図、写真図版 25・26、32）１層から土器片が多く出土している。石器は特殊磨石１点、打製石斧２点が出土している。
［時期］底面出土の土器 114 から、大木８b 式期と考えられる。（八木）

７号土坑（第 18 図、写真図版 16）
［位置・検出状況］７I グリッドに位置する。調査区境に位置し、さらに電柱に近接するため安全性確保のため完掘していない。底面近くの堆積土及び深さは、検土杖で確認したものである。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］調査範囲内では円形を呈する。
［規模］開口部長軸 130・短軸 80・深さ 128㎝。
［覆土］暗褐色土・黒褐色土で構成され、部分的に黄褐色土が堆積していることから、自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面まで掘削していないが、検土杖では非常に硬く締まっていることが分かった。壁面は硬くしまっており、堆積土に黄褐色土が少なかったことからも本来の壁の形状を保持していると考えられる。
［出土遺物］（第 32、42・43 図、写真図版 26、32）前期土器破片・中期土器が出土している。石器は石鏃１点、石匙１点、磨製石斧１点、敲石１点が出土している。
［時期］前期土器破片は覆土上位から出土しており、流れ込みの可能性がある。土器 124 から、大木８b・榎林式期と考えられる。（八木）

８号土坑（第 18 図、写真図版 16）
［位置・検出状況］３D グリッドに位置する。現道アスファルト舗装下の敷砂利を撤去し、確認した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］調査範囲内では円形を呈する。
［規模］開口部長軸 185・短軸（75）・深さ 198㎝、底面長軸 209・短軸（50）㎝。
［覆土］一部壁際に褐色土が堆積しているが、大部分は暗褐色・黒褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁も非常に硬く締まっており、壁崩落土がほとんど認められないことから鑑みても、本来の形状を保持していると考えられる。
［出土遺物］（第 32 図、写真図版 26）土器片１点が出土している。
［時期］土器 129 から、縄文時代中期と考えられる。（八木）

９号土坑（第 19 図、写真図版 16）
［位置・検出状況］16P グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］楕円形を呈する。
［規模］長軸 102・短軸 81・深さ 79㎝
［覆土］底面近くに壁崩落土があるが、大部分は暗褐色土が堆積した自然堆積である。
［底面・壁］底面はやや凹凸が認められる。壁はほぼ直立している。
［出土遺物］（第 43 図、写真図版 32）土器は出土していない。石器は二次加工剥片が１点出土している。

［時期］土器が出土していないため詳細な時期は判断できないが､縄文時代中期と考えられる。（八木）
11 号土坑（第 19 図、写真図版 16）
［位置・検出状況］15Q グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］円形を呈する。
［規模］長軸 130・短軸 116・深さ 42㎝
［覆土］３層からなる。大部分を占める１層は暗褐色土で、２・３層は土坑掘削の際に生じた土が再堆積した可能性があり、全体として自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面は平ら、壁はほぼ直立する。
［出土遺物］（第 32、43 図、写真図版 26、32）土器が出土している。石器は二次加工剥片１点、打製石斧１点が出土している。
［時期］土器 130 から、大木８a 式期と考えられる。（八木）

12 号土坑（第 19 図、写真図版 16）
［位置・検出状況］10L・11L グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］４号住居跡と重複しており、12 号土坑の方が古い。
［平面形］調査範囲内では円形を呈する。
［規模］開口部長軸 136・短軸（48）・深さ 134㎝、底部長軸 190・短軸 78㎝。
［覆土］３層からなる。暗褐色土と黄褐色土が互層をなしており、自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面は硬く、平滑に調整されている。壁面も硬く締まっており、本来の形状を保持していると考えられる。
［出土遺物］出土していない。
［時期］４号住居跡より古いことが言える。縄文時代中期と考えられる。（八木）

13 号土坑（第 19 図、写真図版 16・17）
［位置・検出状況］９K グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］円形を呈する。
［規模］開口部長軸 77・短軸 64・深さ 88㎝、底部長軸 190・短軸（112）㎝。
［覆土］褐色土で構成され、一度に堆積していると考えられる。
［底面・壁］底面は非常に硬く、平滑に調整されている。壁面も硬く締まっており、本来の形状を保持していると考えられる。
［出土遺物］（第 32、34、43 図、写真図版 27、28、32）覆土下位から土器 135 が出土している。二次加工剥片１点、打製石斧１点、礫器１点が出土している。この他、粘土塊が１点出土している。
［時期］土器 135 から考えられる時期は、大木８b 式期である。（八木）

14 号土坑（第 20 図、写真図版 17）
［位置・検出状況］10L グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］10 号住居跡と重複している。10 号住居跡床面精査時に検出した。
［平面形］円形を呈する。

［規模］長軸 120・短軸 110・深さ 39㎝
［覆土］２層からなる。下位に黒褐色土、上位に褐色土が堆積している。
［底面・壁］底面はほぼ平らである。壁はほぼ直立する。
［出土遺物］（第 32 図、写真図版 27）土器 139 が出土している。口縁部に沈線による刻み文様が施されている。（八木）
［時期］土器 139 から考えられる時期は、榎林式期である。

15 号土坑（第 20 図）
［位置・検出状況］７Ｇグリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］6 号住居跡と重複しており、15 号土坑の方が新しい。
［平面形］円形を呈する。
［規模］開口部長軸 138・短軸（72)・深さ 154㎝
［覆土］暗褐色土と褐色～黄褐色土が細かな互層堆積をしている。自然堆積と考えられる。
［底面･壁］底面は非常に硬く､平滑に調整されている｡壁面の中位括れ部以下は特に硬く締まっており、本来の形状を保持していると考えられる。
［出土遺物］（第 33、43・44 図、写真図版 27、32・33）底面から土器が多く出土している。二次加工剥片１点、石錐１点、打製石斧２点、敲石１点、多面体敲石１点、礫器２点が出土している。
［時期］土器 140 から考えられる時期は大木８b 式期である。また､円筒上層ｄ式破片も出土しており、時期は近い。（八木）

16 号土坑（第 20 図、写真図版 17）
［位置・検出状況］11M グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］４号住居跡と重複しており、16 号土坑の方が古い。
［平面形］円形を呈する。
［規模］長軸 106・短軸 97・深さ 58㎝
［覆土］褐色土からなる。
［底面・壁］底面はやや硬く、平滑に調整されている。壁面はほぼ直立する。
［出土遺物］出土していない。
［時期］４号住居跡床面下から検出したため、大木 10 式期より古いことが言える。（八木）

17 号土坑（第 20 図、写真図版 17）
［位置・検出状況］11L グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］10 号住居跡と重複しており、17 号土坑の方が古い。
［平面形］調査範囲内では楕円形を呈する。
［規模］長軸 114・短軸 28・深さ 30㎝
［覆土］暗褐色土を主体とする、自然堆積と考えられる。
［底面・壁］底面はやや凹凸がある。壁はオーバーハング気味に立ち上がる。
［出土遺物］出土していない。
［時期］縄文時代中期（八木）

18 号土坑（第 21 図、写真図版 17）
［位置・検出状況］10K グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］10 号住居跡と重複し、18 号土坑の方が古い。
［平面形］円形を呈する。
［規模］長軸 80・短軸 38・深さ 50㎝
［覆土］暗褐色土単層からなる。
［底面・壁］底面は平滑に調整されており、壁はほぼ直立する。
［出土遺物］出土していない。
［時期］縄文時代中期（八木）

19 号土坑（第 21 図、写真図版 18）
［位置・検出状況］13M グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］楕円形を呈する。
［規模］長軸 92・短軸（63）・深さ 24㎝
［覆土］黒褐色土単層からなる。褐色土粒を含み、かなり軟らかい。
［底面・壁］底面・壁面はすり鉢状を呈する。
［出土遺物］（第 33、45 図、写真図版 28、33）土器底部破片 152 が出土している。石器は打製石斧が１点出土している。
［時期］縄文土器が出土しているが、検出時遺構の輪郭が明確であったこと、また、覆土の状況から近世以降の可能性がある。（八木）

20 号土坑（第 21 図、写真図版 18）
［位置・検出状況］14N グリッドに位置する。Ⅴ層上面で検出した。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］不整円形を呈する。
［規模］長軸（78）・短軸（27）・深さ 24㎝
［覆土］19 号土坑と同じ黒褐色土単層からなる。かなり軟らかい。
［底面・壁］底面・壁面はすり鉢状を呈する。
［出土遺物］出土していない。
［時期］検出土器の状況及び覆土は 19 号土坑に酷似する。近世以降の可能性がある。（八木）

21 号土坑（第 21 図、写真図版 18）
［位置・検出状況］12O グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］認められない。
［平面形］方形を呈する。
［規模］長軸 158・短軸 128・深さ 30㎝
［覆土］底面に褐色土が堆積し、大部分は暗褐色土で覆われている。暗褐色土には褐色土粒が多く混入しており、自然堆積とは考え難い。
［底面・壁］底面は凹凸なく平坦に調整されているが、硬くはない。壁は緩やかに立ち上がる。

［出土遺物］（第 33 図､写真図版 28）土器（153）が出土している。器壁が薄く､緻密な作りを呈している。口縁部がないが、胴部に施文された縄文の節は小さい。
［時期］出土土器から、大木８ｂ式期と考えられる。（八木）

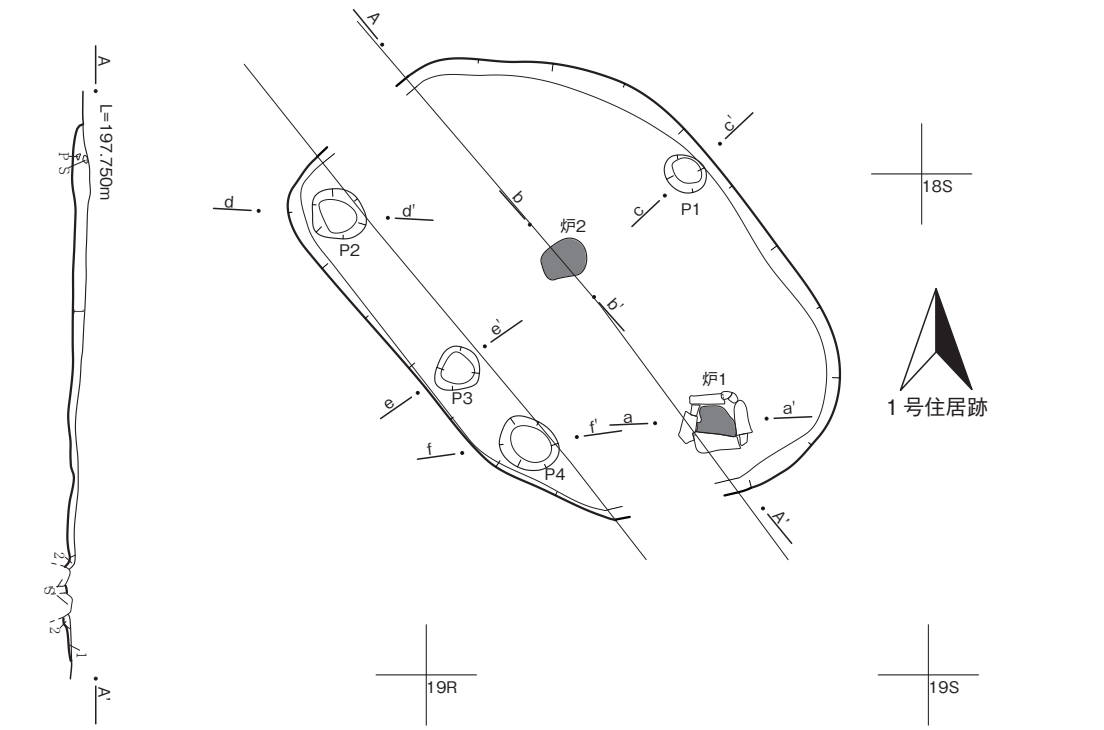
（３） 陥し穴状遺構

１号陥し穴状遺構（第 22 図、写真図版 14）
［位置・検出状況］11K グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］７号住居跡と重複しており、断面観察から、１号陥し穴状遺構の方が古いと判断した。
［平面形］溝状を呈する。
［規模］長軸（104）・短軸 60・深さ 100cm
［覆土］褐色土が堆積している。
［底面・壁］長軸の壁は僅かにオーバーハングする。短軸壁は直立気味に立ち上がる。
［出土遺物］出土していない。
［時期］出土遺物はないが、断面観察から７号住居跡より古いと考えられるため、中期後葉以前の可能性がある。（八木）

２号陥し穴状遺構（第 22 図、写真図版 14）
［位置・検出状況］３Ｃグリッドに位置する。調査区北側は水道管による攪乱が著しく、地表面から深さ 50cm程度まで削平されていた。検出面はⅥ層である。
［その他の遺構との重複］重複は認められない。
［平面形］溝状を呈する。
［規模］長軸（180）・短軸 40・深さ 100cm
［覆土］黒褐色土が堆積している。
［底面・壁］長軸の壁は水道管下に伸びるため、未確認である。短軸壁は直立気味に立ち上がる。
［出土遺物］（第 33 図、写真図版 28）土器片が１点出土している。
［時期］土器及び堆積土から縄文時代中期の可能性がある。（八木）

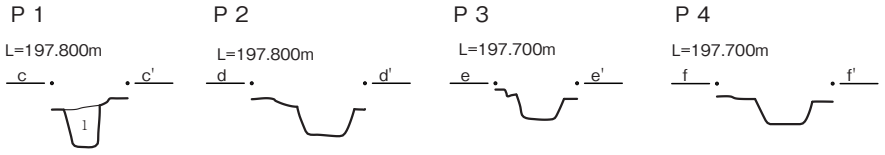
（４） 柱穴状小土坑

ピット１（第 21 図、写真図版 14）
［位置・検出状況］12M グリッドに位置する。
［その他の遺構との重複］重複は認められない。
［平面形］円形を呈する。
［規模］長軸 58・短軸（40）・深さ 40cm
［覆土］暗褐色・褐色土が堆積している。柱穴痕は認められない。
［底面・壁］底面は平滑ではない。壁は僅かにオーバーハングする。
［出土遺物］（第 45 図、写真図版 33）敲打痕が著しい石器が１点出土している。
［時期］土器が出土していないが、堆積土からは縄文時代中期の可能性が考えられる。（八木）



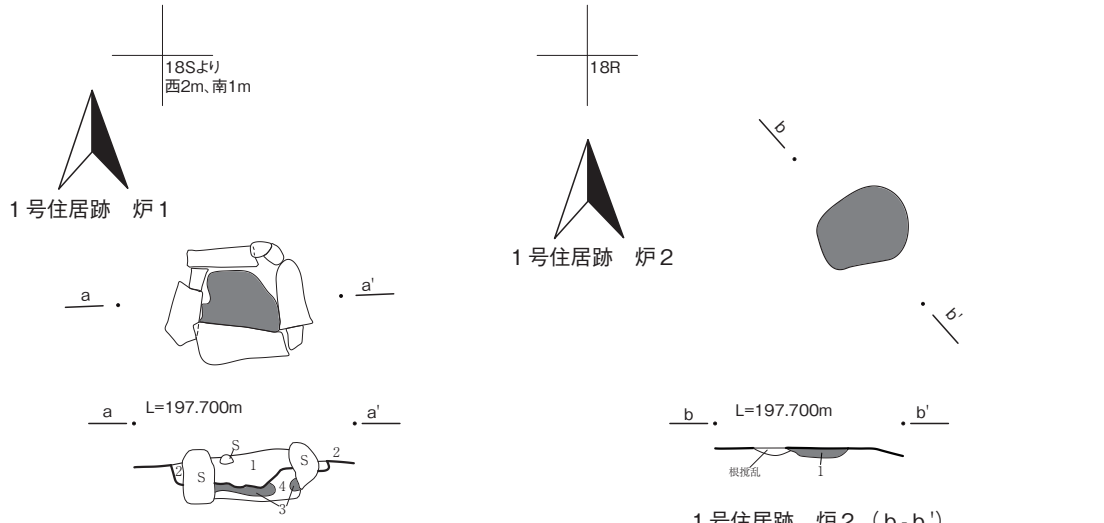
1号住居跡（A-A'）
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや有　締有
　炭化物１％・10YR3/4暗褐色シルト25％・10YR4/6褐色シルト５％含む
2　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや有　締有
　10YR4/6褐色シルト１％含む（炉石掘り方）

焼土範囲



1号住居跡　P１（c-c'）
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　締有　炭化物１％・土器出土

0　1：60　2m

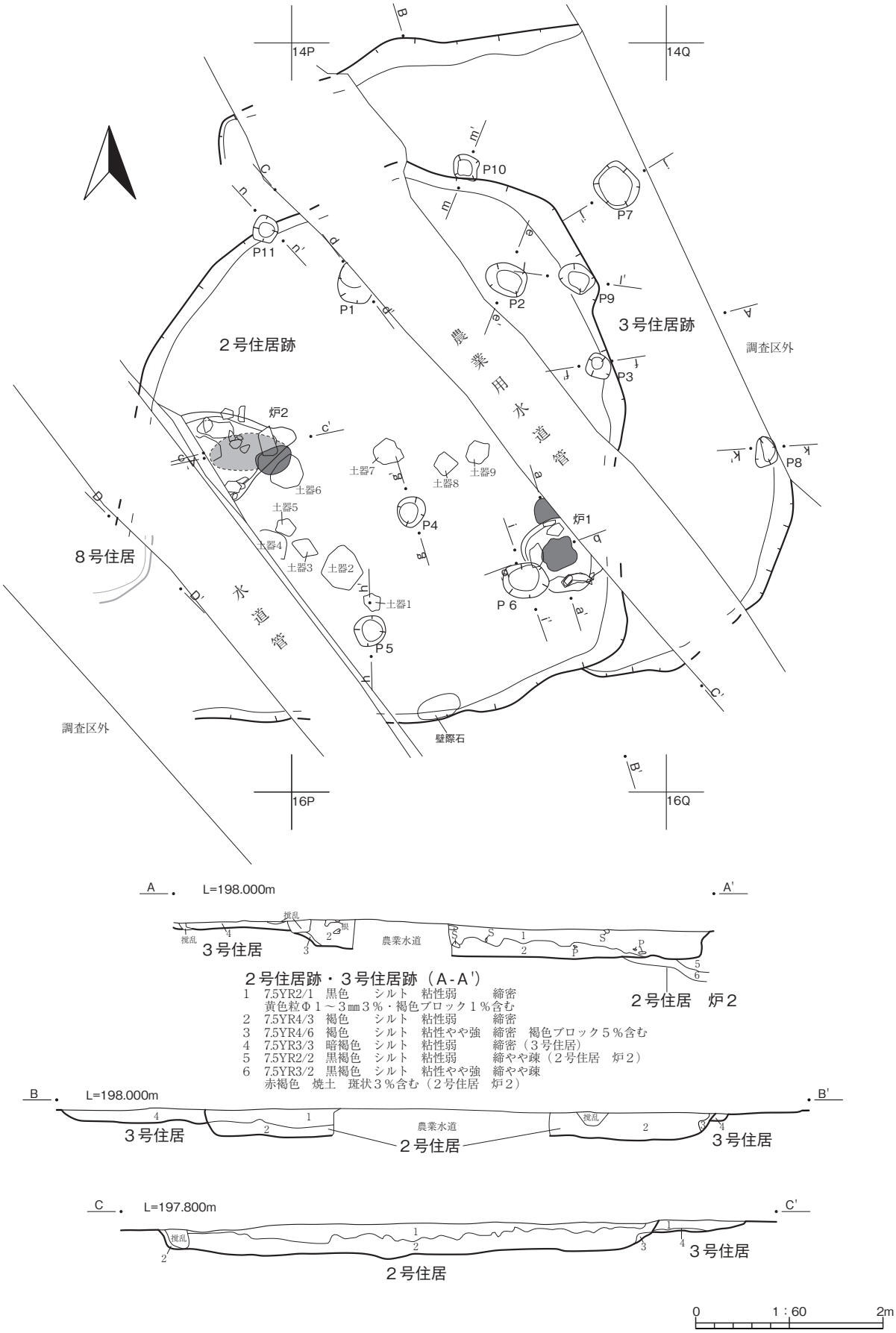


1号住居跡　炉１（a-a'）
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　締有
　10YR4/4　褐色シルトブロック40％・焼土ブロック５％・炭化物１％含む
2　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　締有
3　５YR5/6　明褐色　焼土　粘性弱　締有
4　10YR4/6　褐色　シルト　粘性弱　締有

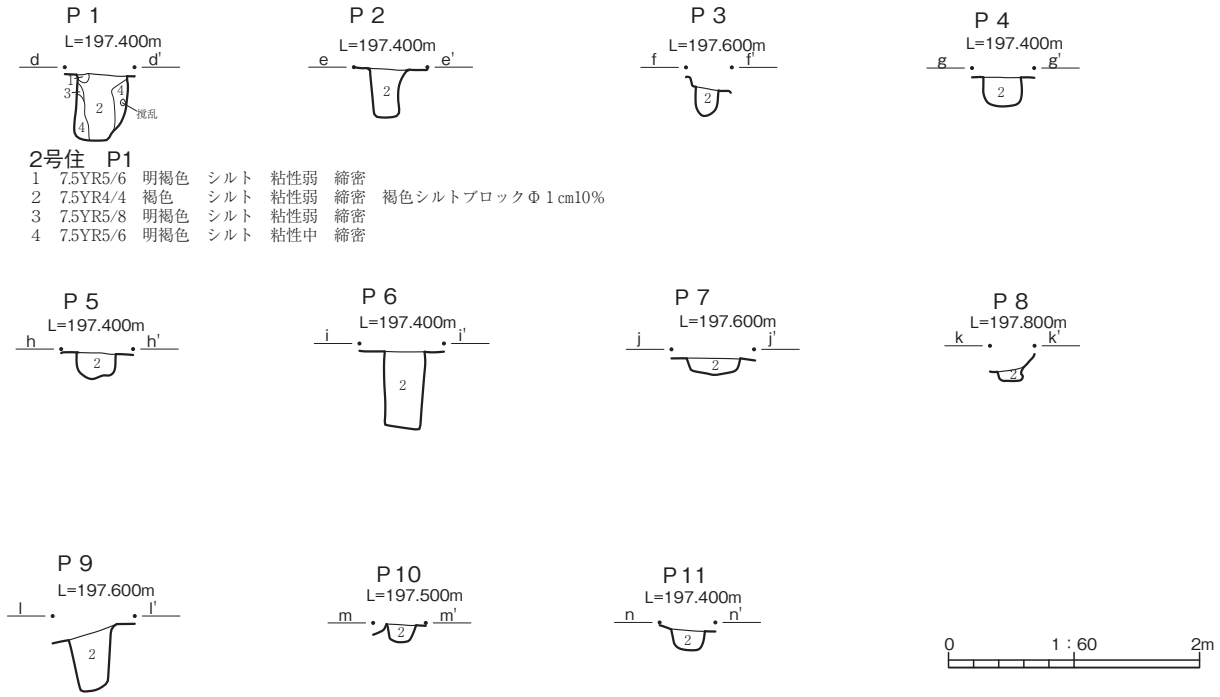
1号住居跡　炉２（b-b'）
1　５YR4/8　赤褐色　焼土　粘性弱　締有
　根撹乱　10YR3/2　黒褐色　シルト

0　1：30　1m

第７図　１号住居跡

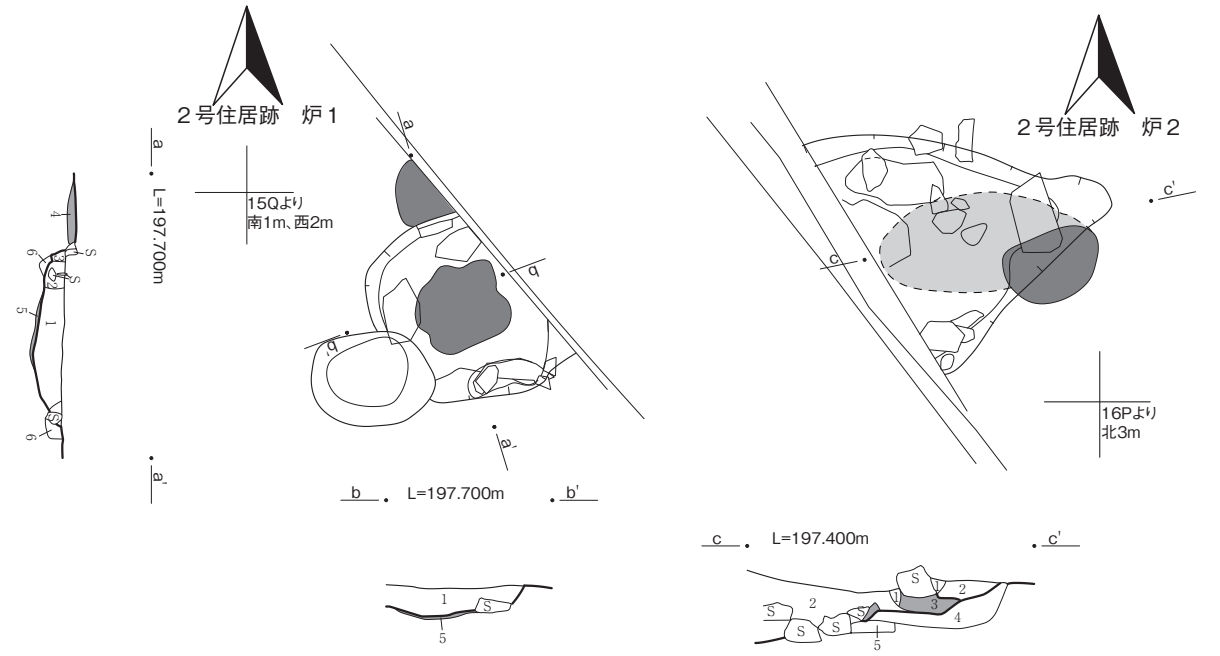

14P
14Q
16P
16Q
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
２号住居跡
３号住居跡
８号住居
農業用水道管
水道管
調査区外
調査区外
炉1
炉2
土器1
土器2
土器3
土器4
土器5
土器6
土器7
土器8
土器9
壁際石
A
A'
L=198.000m
撹乱
３号住居
農業水道
２号住居　炉２
２号住居跡・３号住居跡（A-A'）
1　7.5YR2/1　黒色　シルト　粘性弱　締密
黄色粒Φ１～３㎜３％・褐色ブロック１％含む
2　7.5YR4/3　褐色　シルト　粘性弱　締密
3　7.5YR4/6　褐色　シルト　粘性やや強　締密　褐色ブロック５％含む
4　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　締密（３号住居）
5　7.5YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　締やや疎（２号住居　炉２）
6　7.5YR3/2　黒褐色　シルト　粘性やや強　締やや疎
赤褐色　焼土　斑状３％含む（２号住居　炉２）
B
B'
L=198.000m
３号住居
２号住居
農業水道
撹乱
３号住居
C
C'
L=197.800m
撹乱
２号住居
３号住居
0
1：60
2m

第８図　２・３号住居跡（１）



2号住　P1

1　7.5YR5/6　明褐色　シルト　粘性弱　締密
2　7.5YR4/4　褐色　シルト　粘性弱　締密　褐色シルトブロックΦ１㎝10％
3　7.5YR5/8　明褐色　シルト　粘性弱　締密
4　7.5YR5/6　明褐色　シルト　粘性中　締密



２号住居跡　炉１（A-A'・B-B'）

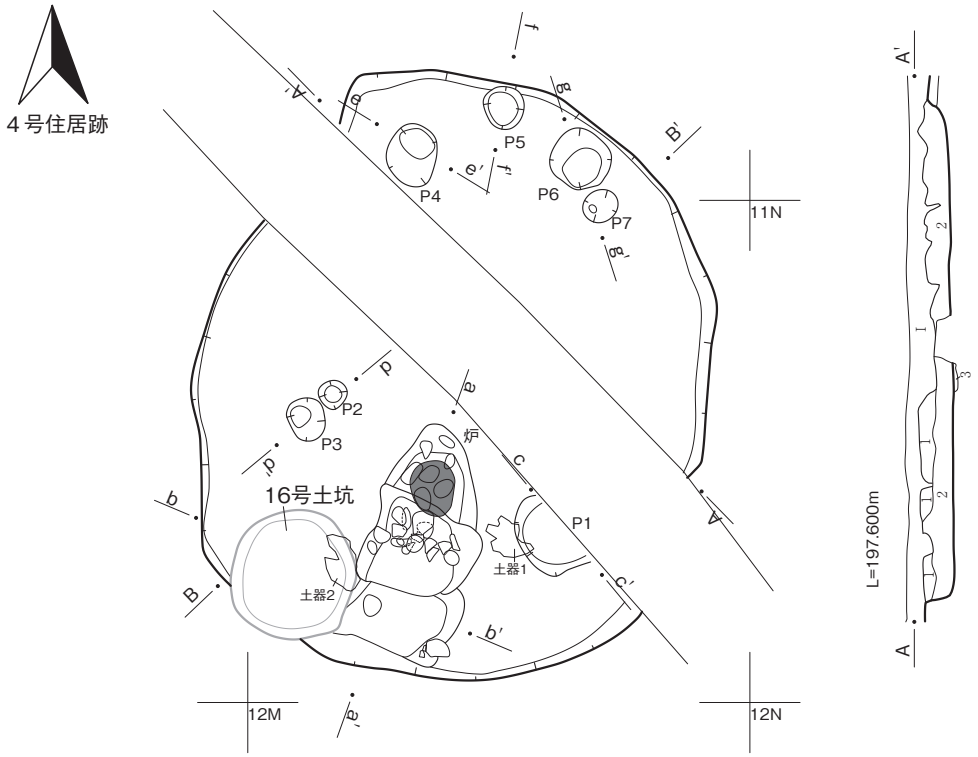
1　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや弱　締密　褐色ブロックΦ２㎝３％含む
2　7.5YR2/3　極暗褐色　シルト　粘性やや弱　締密
3　7.5YR3/2　黒褐色　シルト　粘性やや弱　締やや密
4　2.5YR5/8　明赤褐色　焼土　粘性弱　締密
5　7.5YR4/6　赤褐色　焼土　粘性弱　締やや密
6　7.5YR5/6　明褐色　シルト　粘性やや弱　締やや密

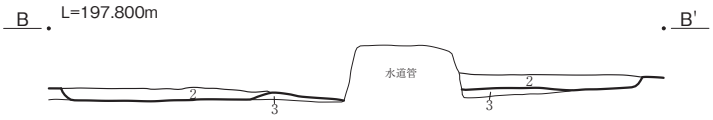
２号住　２号炉（c-c'）

1　7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱　　締密
2　7.5YR4/6 褐色　シルト 粘性やや弱 締密
　赤褐色焼土粒Φ３～５㎜３％・炭化粒１㎜１％含む
3　2.5YR4/8 赤褐色 焼土　粘性弱　　締密
4　7.5YR5/6 明褐色 シルト 粘性弱　　締密
　赤褐色焼土粒Φ５㎜５％含む
5　7.5YR5/8 明褐色 シルト 粘性やや強 締やや密

0　1：30　1m

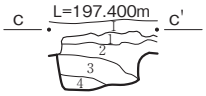
第９図　２・３号住居跡（２）





4号住居跡（A-A'・B-B'）

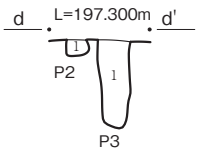
I　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや強　締密　砂利含む（水道管埋設土）
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや強　締密　褐色粒Φ１～２㎜３％含む
2　10YR4/4　褐色　シルト　粘性中　締密　褐色粒Φ２㎜３％含む
3　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性強　締密　均質（地山）



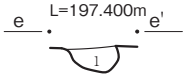
4号住居跡　P１（c-c'）

I　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性弱　締密
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　締中
　褐色粒Φ１㎜３％含む
2　10YR4/4　褐色　シルト　粘性中　締やや疎
　炭Φ１㎜～0.5cm１％含む
3　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性強　締やや密
4　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締中
　褐色シルトブロックΦ３～４cm斑状含む

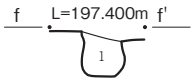
P２・３



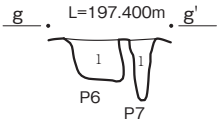
P４



P５



P６・７

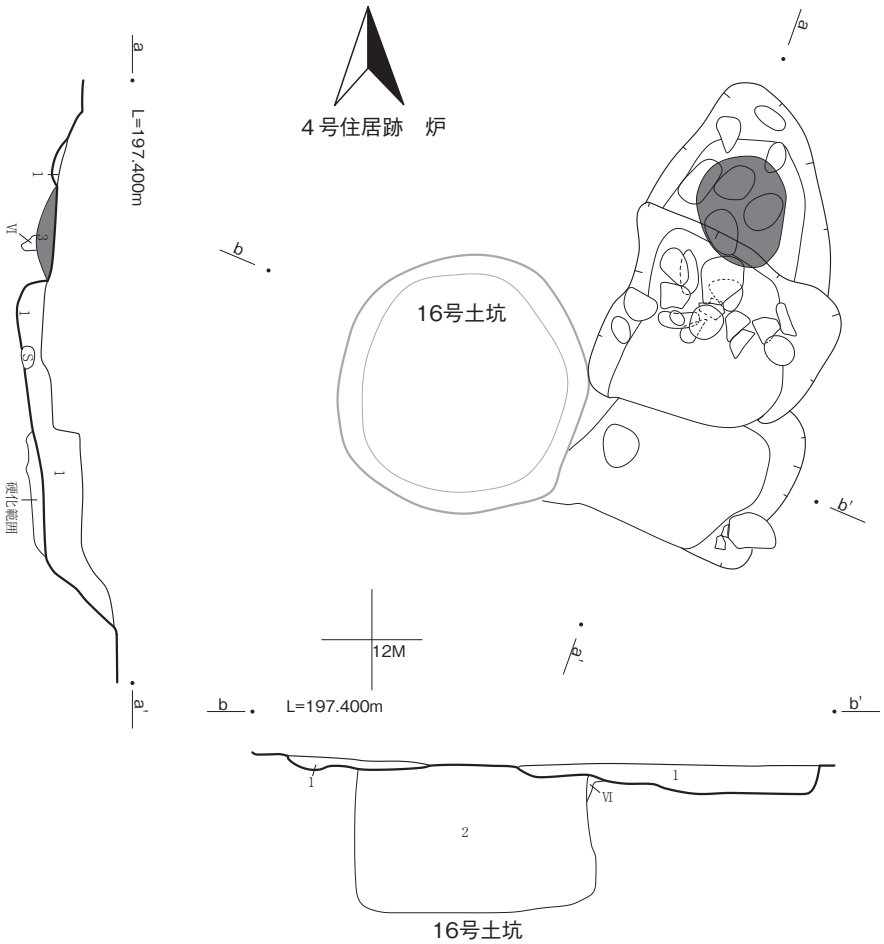


4号住居跡　P２～７

1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締やや疎
　褐色粒Φ２㎜３％・炭Φ２㎜１％含む

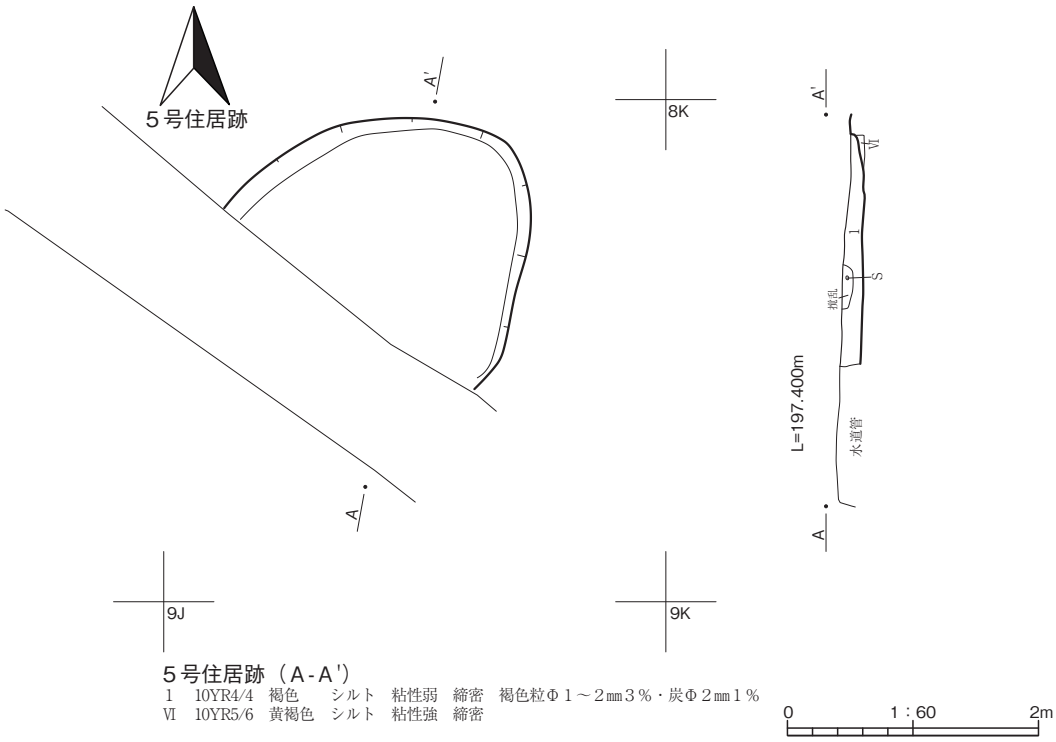
0　1：60　2m

第10図　４号住居跡（１）



4号住居跡　炉（a-a'・b-b'）
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや強　締中
2　10YR4/4　褐色　シルト　粘性やや強　締やや密（16号土坑）褐色粒Φ1㎜10%含む
3　5YR4/8　赤褐色　シルト　粘性強　締やや疎
Ⅵ　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性強　締密

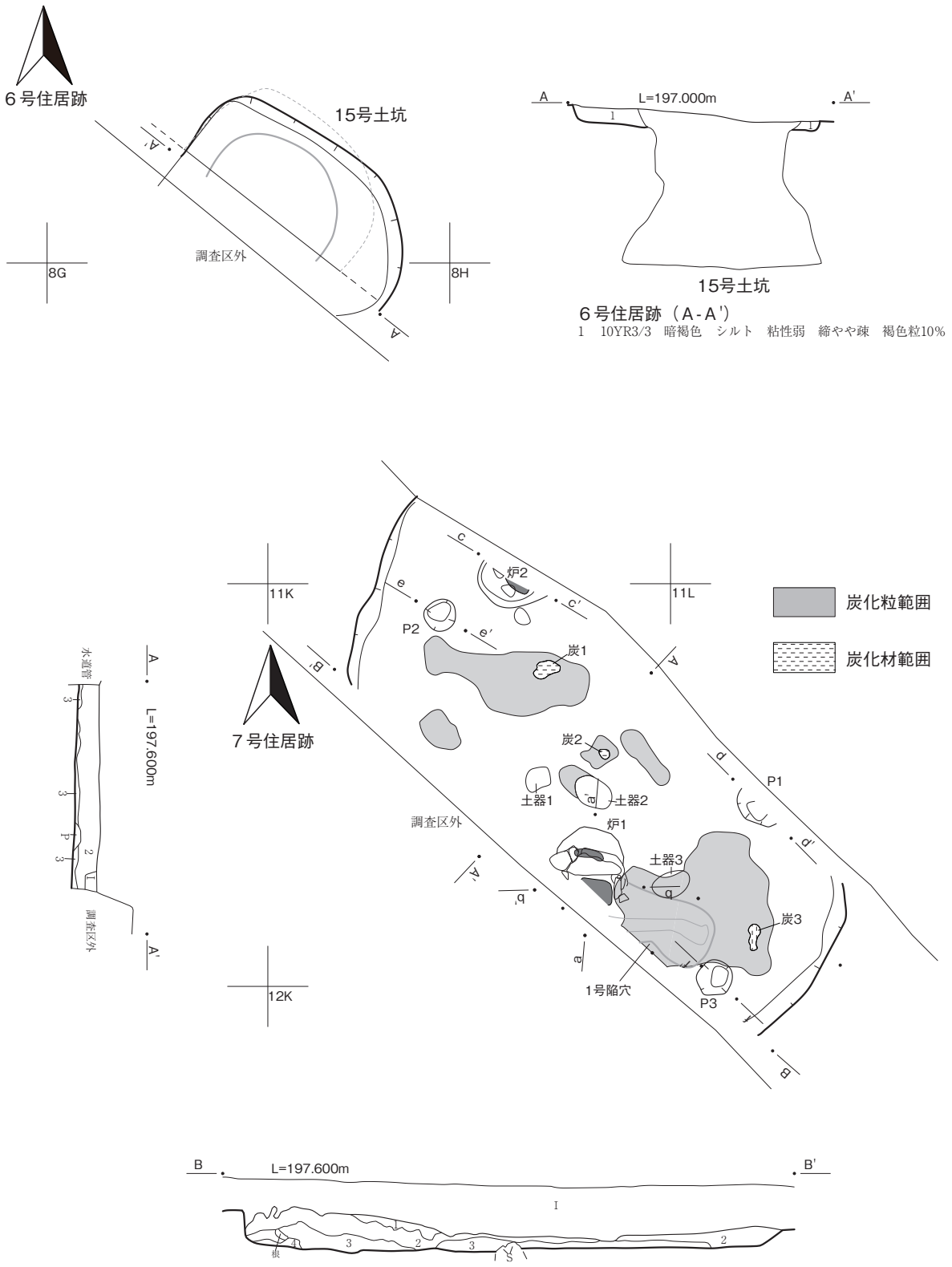
0　1：30　1m



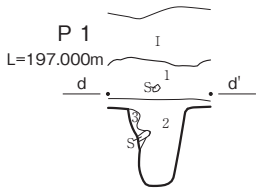
5号住居跡（A-A'）
1　10YR4/4　褐色　シルト　粘性弱　締密　褐色粒Φ1～2㎜3%・炭Φ2㎜1%
Ⅵ　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性強　締密

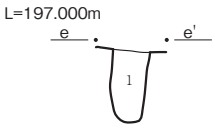
0　1：60　2m

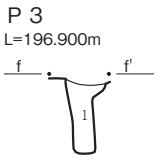
第11図　4号住居跡（2）・5号住居跡



第12図　6号住居跡・7号住居跡（1）







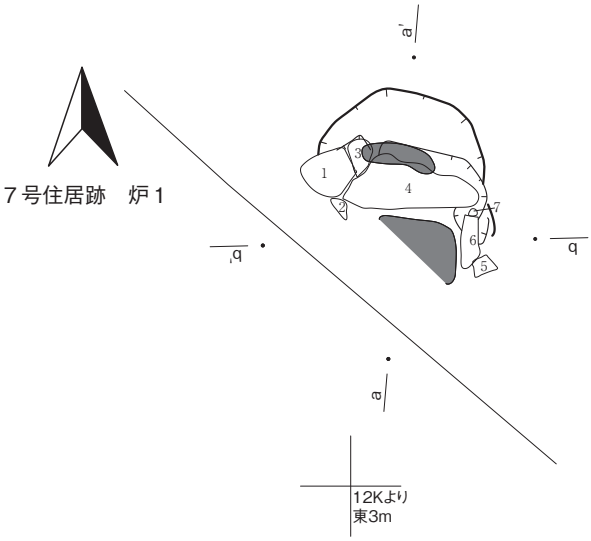
７号住居跡　Ｐ１（d-d'）

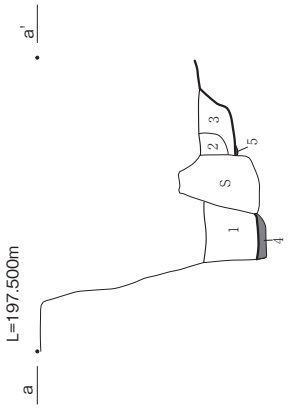
1　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや強　締やや疎
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　　締中
　炭粒Φ１㎜１％含む
3　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性強　　締中
　炭粒多く含む
Ⅰ　10YR3/4　暗褐色　シルト　褐色ブロックΦ１～３cm50％含み斑状を成す

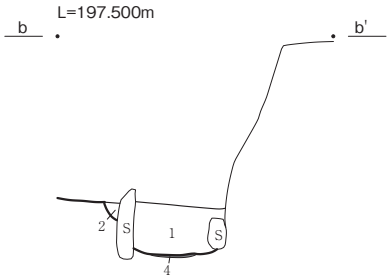
７号住居跡　Ｐ２・３（e-e'・f-f'）

1　10YR4/4　褐色　シルト　粘性強　締やや疎
　褐色粒Φ２㎜３％・炭粒Φ２㎜３％

0　1：60　2m

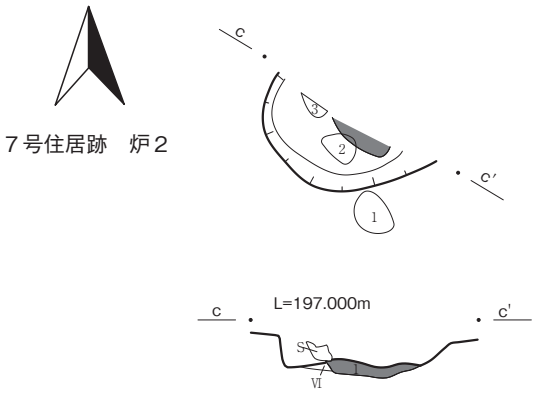






７号住居跡　炉１（a-a'・b-b'）

1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締疎
　褐色粒Φ５㎜３％・炭２㎜３％
2　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性強　締中
　焼土粒Φ３㎜３％・炭粒Φ３㎜３％
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締中
　炭粒Φ２㎜３％・焼土粒Φ５㎜１％
4　５YR4/8　赤褐色　シルト　粘性弱　締密
5　５YR4/8　赤褐色　シルト　粘性弱　締やや疎

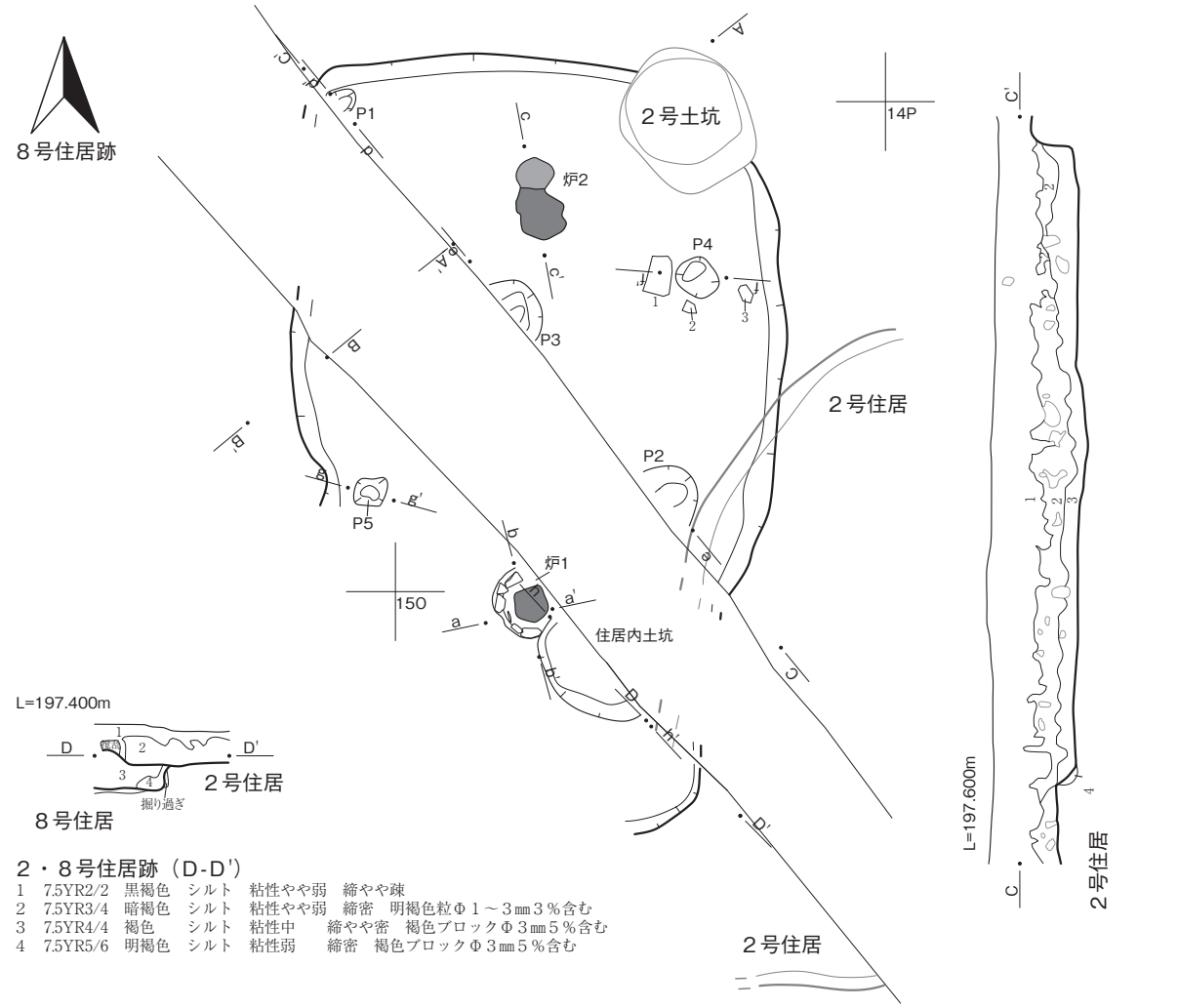


７号住居跡　炉２（c-c'）

1　５YR4/8　赤褐色　シルト　粘性弱　締
Ⅵ　10YR4/6　褐色　　シルト　粘性強　締中

0　1：30　1m

第13図　７号住居跡（２）

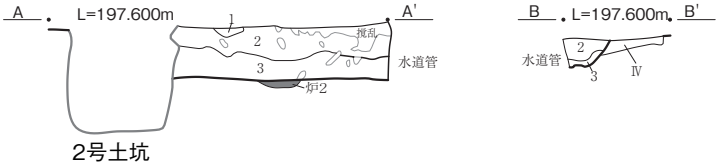


2・8号住居跡（D-D'）

1　7.5YR2/2　黒褐色　シルト　粘性やや弱　締やや疎
2　7.5YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや弱　締密　明褐色粒Φ１～３㎜３％含む
3　7.5YR4/4　褐色　シルト　粘性中　締やや密　褐色ブロックΦ３㎜５％含む
4　7.5YR5/6　明褐色　シルト　粘性弱　締密　褐色ブロックΦ３㎜５％含む

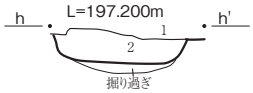
8号住居跡（C-C'）

1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　締密
2　10YR4/6　褐色　シルト　粘性やや強　締密
明褐色シルトブロック５％含む
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや強　締密
明褐色シルトブロック５％含む
4　7.5YR6/8　橙色 シルト　粘性弱　締密
（掘り過ぎ）



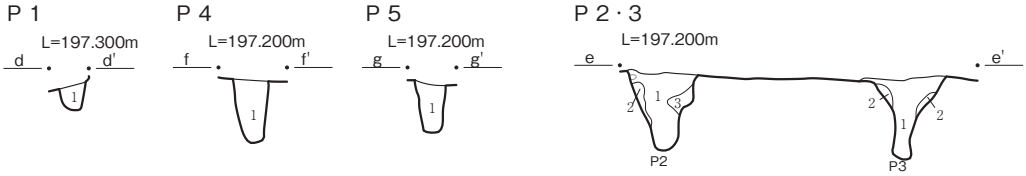
8号住居跡（A-A'・B-B'）

1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　締密
暗褐色ブロックΦ１～５㎜20％含む
2　10YR4/6　褐色　シルト　粘性やや強　締密
褐色ブロックΦ３～５㎜10％・明黄色粒Φ１～３㎜５％含む
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや強　締密
黄褐色ブロックΦ３～５㎜10％・暗赤色粒Φ１～２㎜炉周辺に含む



8号住居内土坑（h-h'）

1　7.5YR2/2　黒褐色　シルト　粘性やや強　締やや密
2　7.5YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　締密
明褐色粒１～３㎜３％
3　7.5YR5/8　明褐色　シルト　粘性強　締密（掘り過ぎ）



8号住居跡　P１・４・５（d-d'・f-f'・g-g'）

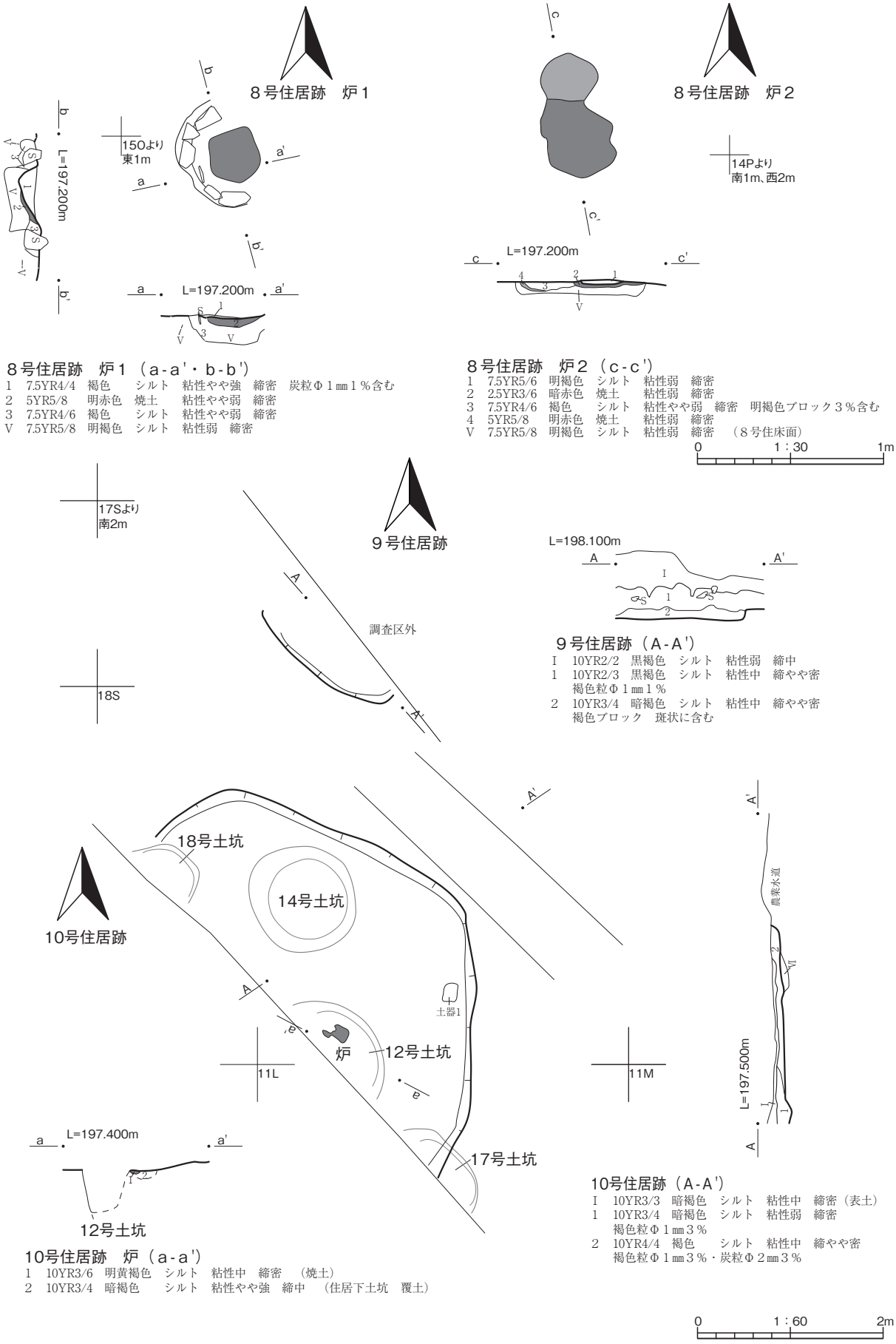
1　7.5YR4/6　褐色　シルト　粘性やや強　締疎

8号住居跡　P２・３（e-e'）

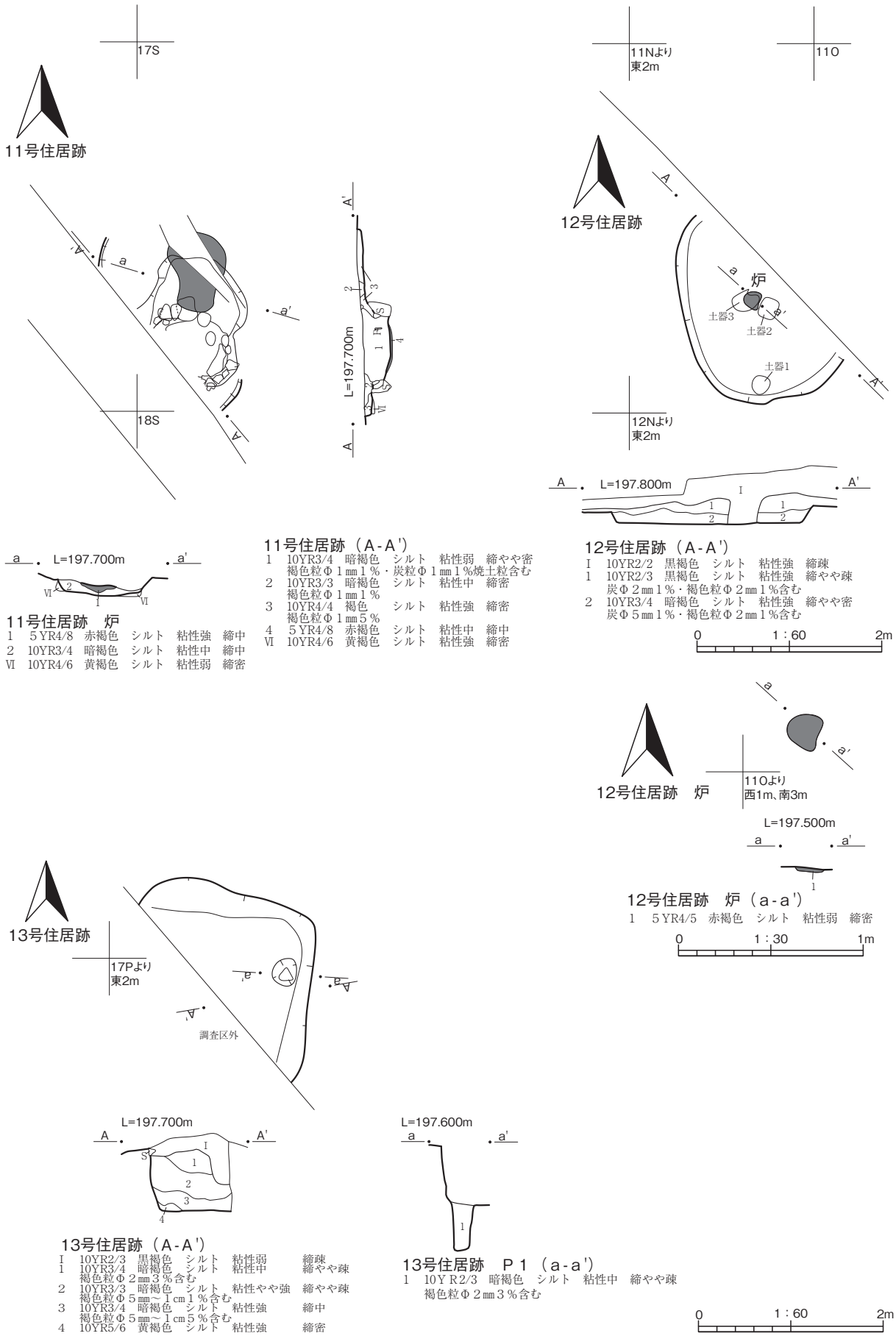
P2 1　7.5YR4/6　褐色　シルト　粘性やや強　締疎　明褐色ブロックΦ１～３㎜10％含む
2　7.5YR5/8　明褐色　シルト　粘性やや弱　締密
3　7.5YR5/8　明褐色　シルト　粘性やや弱　締密　黒褐色ブロックΦ１㎜３％
P3 1　7.5YR4/6　褐色　シルト　粘性やや弱　締やや疎　明褐色ブロックΦ１～３㎜５％含む
2　7.5YR5/6　明褐色　シルト　粘性強　締密　暗褐色ブロックΦ１～３㎜10％含む

0　1：60　2m

第14図　８号住居跡（１）



第15図　8号住居跡（2）・9・10号住居跡



11号住居跡　炉

1　5YR4/8　赤褐色　シルト　粘性強　締中
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　締中
Ⅵ　10YR4/6　黄褐色　シルト　粘性弱　締密

11号住居跡（A-A'）

1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　締やや密
　褐色粒Φ１㎜１％・炭粒Φ１㎜１％焼土粒含む
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　締密
　褐色粒Φ１㎜１％
3　10YR4/4　褐色　シルト　粘性強　締密
　褐色粒Φ１㎜５％
4　５YR4/8　赤褐色　シルト　粘性中　締中
Ⅵ　10YR4/6　黄褐色　シルト　粘性強　締密

12号住居跡（A-A'）

Ⅰ　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性強　締疎
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性強　締やや疎
　炭Φ２㎜１％・褐色粒Φ２㎜１％含む
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締やや密
　炭Φ５㎜１％・褐色粒Φ２㎜１％含む

12号住居跡　炉（a-a'）

1　５YR4/5　赤褐色　シルト　粘性弱　締密

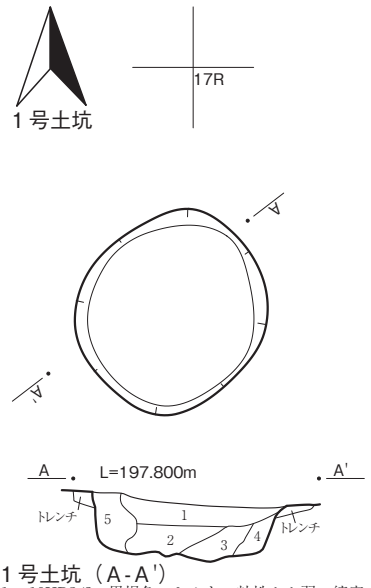
13号住居跡（A-A'）

Ⅰ　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性弱　締疎
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　締やや疎
　褐色粒Φ２㎜３％含む
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや強　締やや疎
　褐色粒Φ５㎜～１㎝１％含む
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締中
　褐色粒Φ５㎜～１㎝５％含む
4　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性強　締密

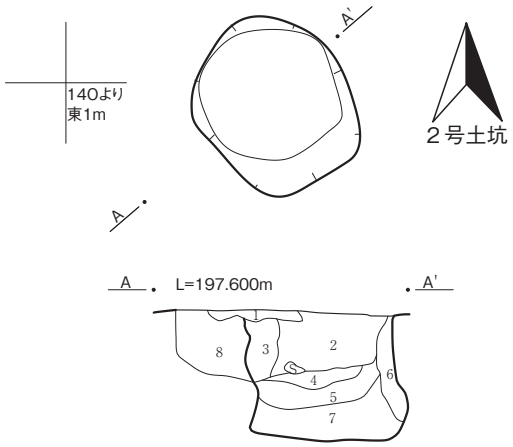
13号住居跡　Ｐ１（a-a'）

1　10ＹＲ2/3　暗褐色　シルト　粘性中　締やや疎
　褐色粒Φ２㎜３％含む

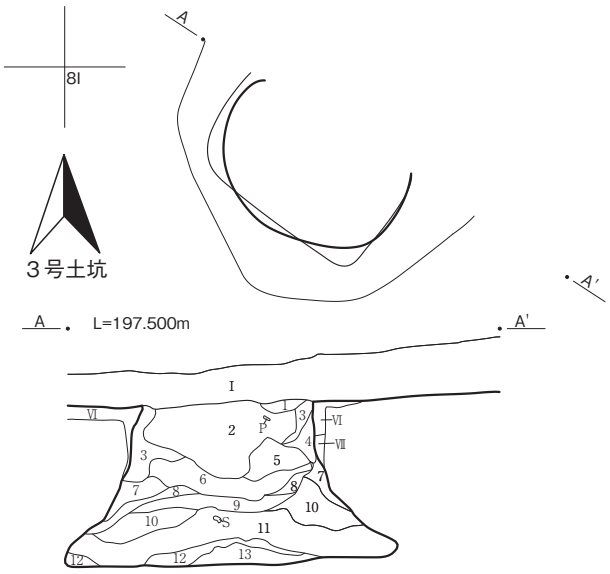
第16図　11～13号住居跡



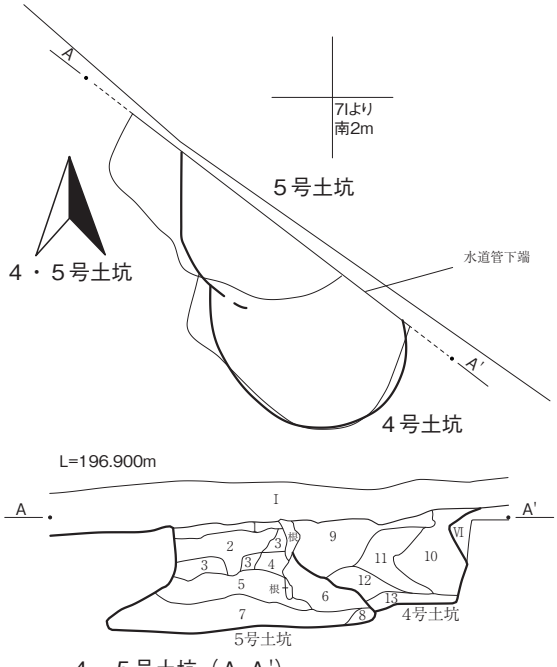
1号土坑（A-A'）
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや弱　締密 炭化物１％
　　10YR3/3　暗褐色　シルト20％含む
2　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性やや弱　締密
　　10YR4/6　褐色　　シルト粒１％
　　10YR3/3　暗褐色　シルト10％含む
3　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや強　締密
　　10YR5/8　黄褐色　シルト10％含む
4　10YR4/6　褐色　　シルト　粘性やや強　締密
　　10YR2/3　黒褐色　シルト２％含む
5　10YR4/6　褐色　　シルト　粘性弱　締やや強
　　10YR3/3　暗褐色　シルトブロック30％まばらに含む



2号土坑（A-A'）
1　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　締密　褐色粒Φ２㎜３％含む
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　締やや密
　　褐色粒Φ２～３㎜３％・炭粒Φ２㎜３％含む
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　締中
　　褐色シルトブロック状に含む・炭粒Φ２㎜３％含む
4　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや強　締中　褐色シルトブロック状に含む
5　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性強　締やや疎　小礫含む
6　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締やや疎　褐色粒含む
7　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締疎　炭粒３％含む
8　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性弱　締密（８号住居跡）



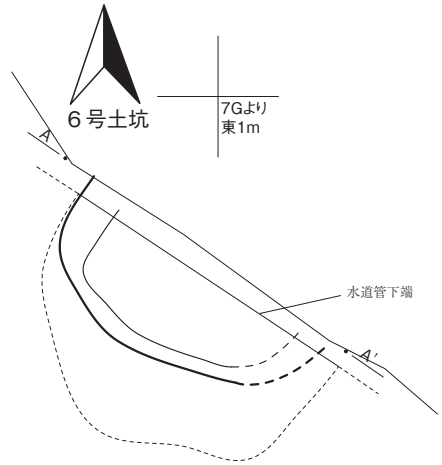
3号土坑（A-A'）
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　締やや密　褐色粒Φ２㎜縞状に20％含む
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性弱　締中　褐色粒Φ２㎜３％・炭Φ２㎜１％・土器入る
3　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性弱　締疎　暗褐色シルト斑状成す
4　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性弱　締疎　炭Φ１㎜１％含む
5　10YR3/4　暗褐色　10YR5/6　黄褐色　縞状シルト　粘性弱　締疎　炭Φ１㎜１％含む
6　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　締やや密　炭Φ１㎜１％・土器入る
7　10YR4/6　褐色　　シルト　粘性やや強　締やや疎
8　10YR4/6　褐色　　10YR3/4　暗褐色　縞状シルト　粘性中　締疎　炭Φ１㎜３％
9　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性強　締疎　ボソボソ
10　10YR4/6　褐色　　シルト　粘性強　締疎　均質　ボソボソ
11　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　締やや疎　炭Φ１㎜１％
12　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性強　締やや密
13　10YR2/3　黒褐色　10YR4/4　褐色　縞状シルト　粘性強　締中　炭Φ１㎜１％
Ⅰ　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　締密
Ⅵ　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性中　締密
Ⅶ　10YR4/6　褐色　　シルト　粘性強　締やや密

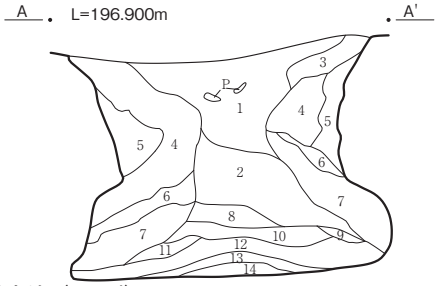


4・5号土坑（A-A'）
4・5号土坑（9～13層4号土坑、1～8層5号土坑）
Ⅰ　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　締密
1　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　締中
　　褐色土粒φ１㎜５％・褐色土ブロックφ１㎝含む
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや強　締やや疎
3　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性弱　締中
　　褐色土と暗褐色土が斑状をなす
4　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性強　締やや密
5　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性強　締やや疎
6　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや強　締中
7　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　締やや密
　　炭粒φ１㎜１％含む
8　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　締疎　炭粒φ１㎜３％含む
9　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性弱　締中
　　褐色土粒φ２㎜３％・炭粒φ２㎜１％含む
10　10YR4/4　褐色　　シルト　粘性弱　締中
11　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性弱　締やや密
12　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性弱　締やや密
13　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　締やや疎
　　炭粒φ２㎜１％含む
Ⅵ　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性中　締密

0　1：50　2m

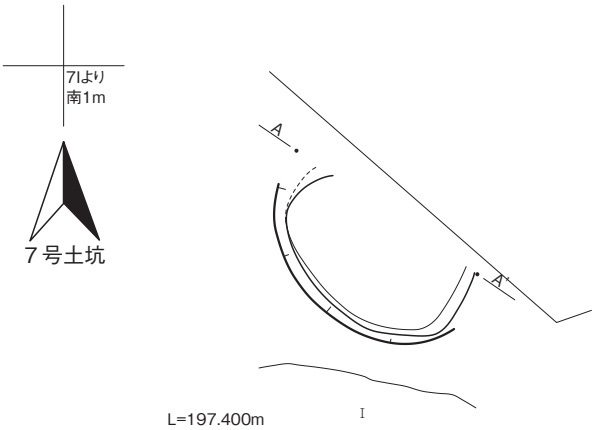
第17図　１～５号土坑

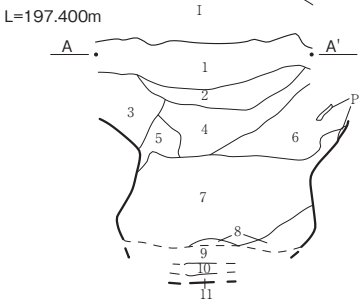




6号土坑（A-A'）

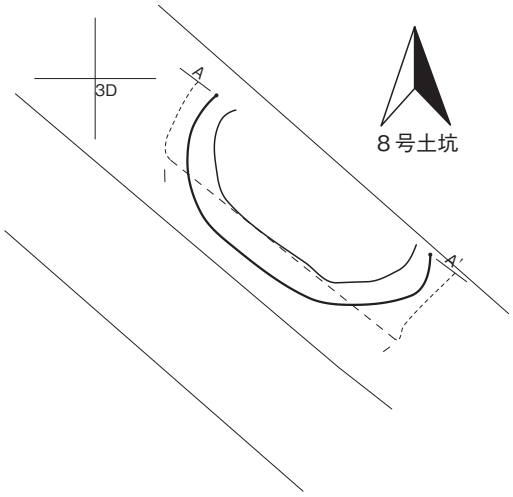
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締密	褐色ブロックΦ２～３㎜１％・炭Φ１cm１％
2	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性強	締やや密	褐色シルト少量入る
3	10YR4/4	褐色	シルト	粘性弱	締密	～3/3 暗褐色 シルト 斑状
4	10YR4/4	褐色	シルト	粘性弱	締疎	～3/3 暗褐色 シルト 斑状
5	10YR4/4	褐色	シルト	粘性弱	締疎	
6	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	～4/4 褐色 シルト 斑状
7	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性弱	締疎	
8	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締中	炭多量
9	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性強	締中	
10	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性強	締中	焼土混じり
11	10YR2/2	黒褐色	シルト	粘性強	締疎	
12	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性強	締疎	
13	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	
14	10YR2/2	黒褐色	シルト	粘性強	締疎	土器多

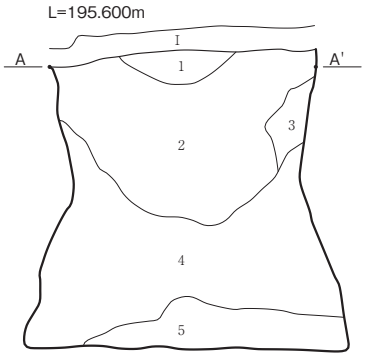




7号土坑（A-A'）

1	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性中	締やや密	褐色粒Φ１～２㎜10％
2	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性中	締やや密	褐色ブロックΦ３cm20％
3	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性弱	締中	褐色粘土Φ0.5～１cm20％
4	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性弱	締中	褐色ブロックΦ５cm50％
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性弱	締中	褐色粒Φ0.5～１cm10％・炭Φ１cm１％
6	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性弱	締中	褐色粒0.5cm１％・炭Φ0.5㎜１％
7	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性中	締やや密	10YR4/4褐色シルトと互層をなす
8	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性中	締疎	
9	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性中	締やや疎	
10	10YR4/6	褐色	シルト	粘性強	締やや密	
11	10YR2/2	黒褐色	シルト	粘性強	締やや密	褐色粒Φ１㎜１％



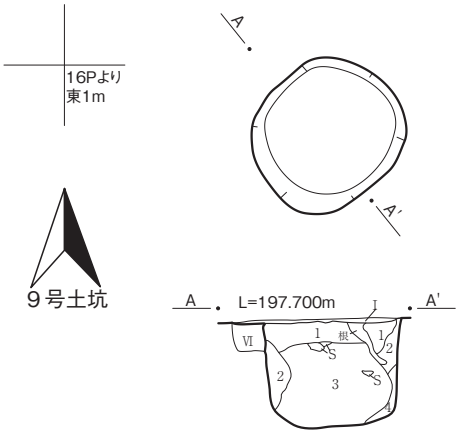


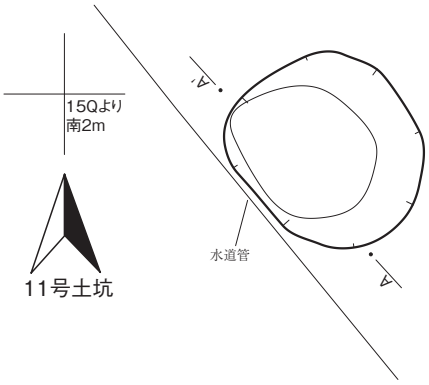
8号土坑（A-A'）

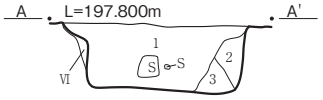
1	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性強	締密	褐色シルトΦ３㎜３％
2	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締やや密	褐色シルト・炭Φ１cm10％
3	10YR4/6	褐色	シルト	粘性強	締中	暗褐色斑状をなす
4	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締中	
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締やや密	

0　1：50　2m

第18図　６～８号土坑





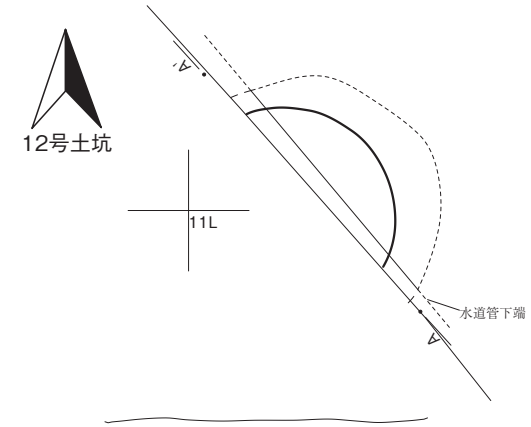


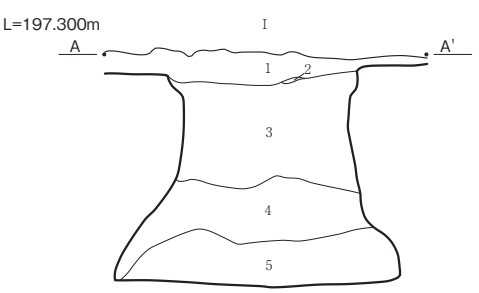
9号土坑（A-A'）

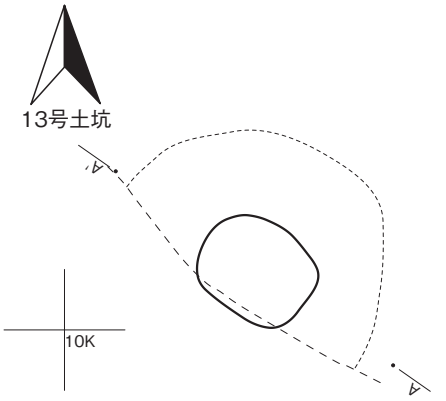
Ⅰ	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	締密	
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	締密	炭Φ２㎜３％
2	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性中	締密	
3	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性中	締中	
4	10YR5/8	黄褐色	シルト	粘性中	締やや疎	
Ⅵ	10YR4/4	褐色	シルト	粘性やや弱	締密	

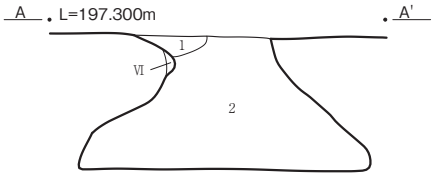
11号土坑（A-A'）

1	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性やや強	締密
	炭Φ５㎜５％・褐色粒Φ２～３㎜５％含む				
2	10YR4/6	褐色	シルト	粘性強	締中
3	10YR4/4	褐色	シルト	粘性強	締中
Ⅵ	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性強	締密







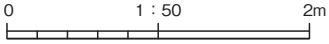


12号土坑（A-A'）

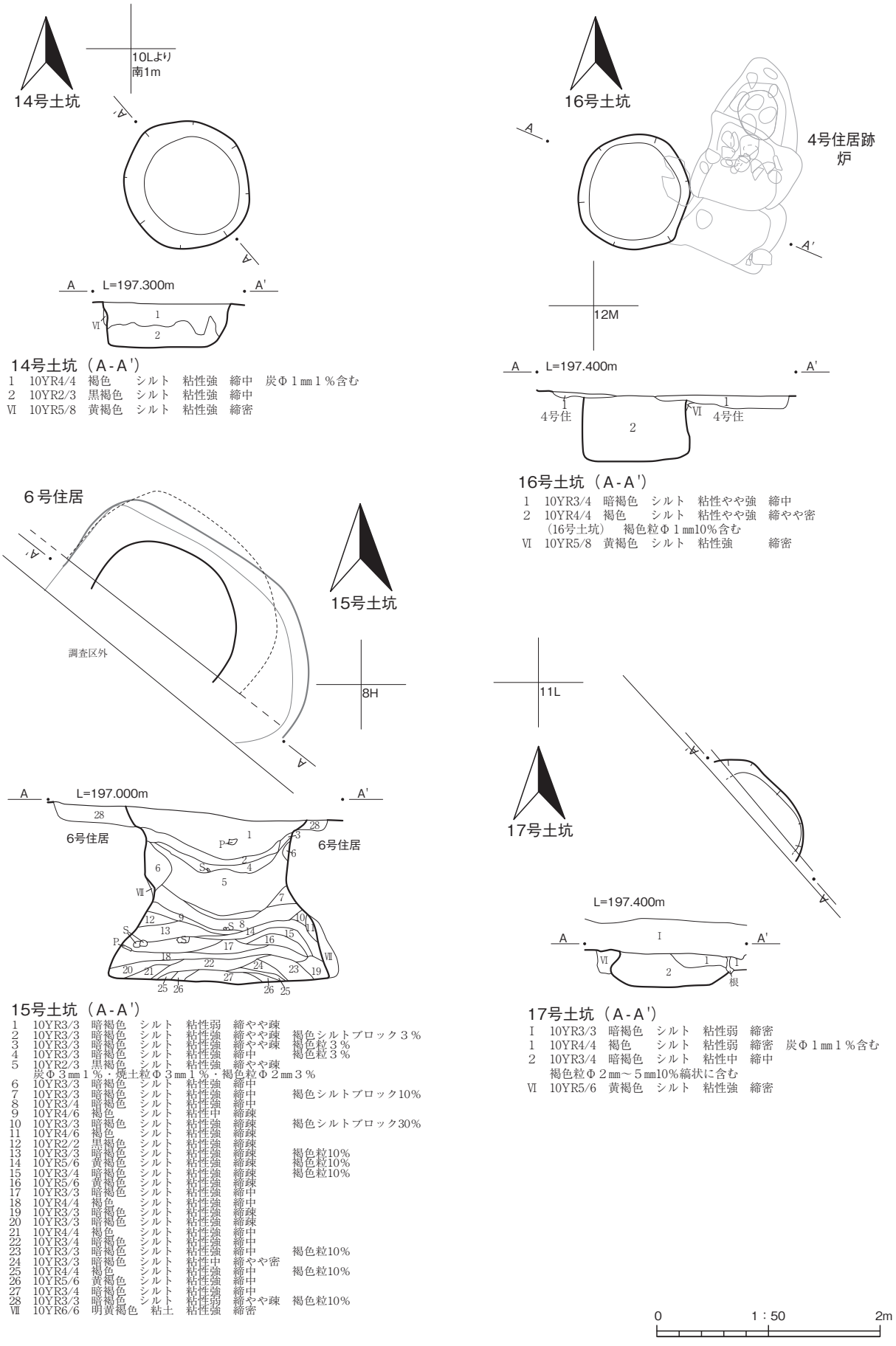
Ⅰ	10YR2/2	黒褐色	シルト	粘性やや強	締やや密	
1	10YR4/4	褐色	シルト	粘性やや強	締密	
2	10YR4/8	赤褐色	シルト	粘性弱	締密	
3	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締やや密	10YR4/6褐色ブロック斑状20％に含む
4	10YR5/8	黄褐色	シルト	粘性強	締やや疎	10YR3/4暗褐色シルト部分的に含む
5	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	10YR4/6褐色ブロック斑状に含む

13号土坑（A-A'）

1	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性やや強	締密
2	10YR4/4	褐色	シルト	粘性やや強	締密
	炭Φ５㎜１％・土器中層に入る				
Ⅵ	10YR6/8	明黄褐色	シルト	粘性強	締密



第19図　9・11～13号土坑



14号土坑（A-A'）

1	10YR4/4	褐色	シルト	粘性強	締中	炭Φ１㎜１％含む
2	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性強	締中	
Ⅵ	10YR5/8	黄褐色	シルト	粘性強	締密	

16号土坑（A-A'）

1	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性やや強	締中	
2	10YR4/4	褐色	シルト	粘性やや強	締やや密	
	（16号土坑）	褐色粒Φ１㎜10％含む				
Ⅵ	10YR5/8	黄褐色	シルト	粘性強	締密	

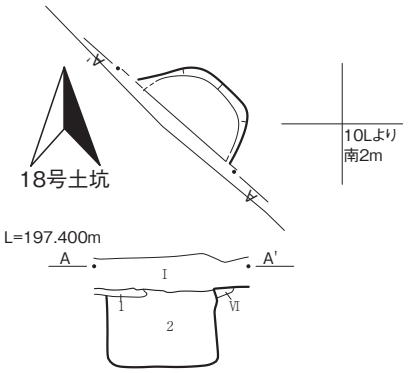
15号土坑（A-A'）

1	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性弱	締やや疎	
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締やや疎	褐色シルトブロック３％
3	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締やや疎	褐色粒３％
4	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締中	褐色粒３％
5	10YR2/3	黒褐色	シルト	粘性強	締やや疎	
	炭Φ３㎜１％・焼土粒Φ３㎜１％・褐色粒Φ２㎜３％					
6	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締中	
7	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締中	褐色シルトブロック10％
8	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締中	
9	10YR4/6	褐色	シルト	粘性中	締疎	
10	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	褐色シルトブロック30％
11	10YR4/6	褐色	シルト	粘性強	締疎	
12	10YR2/2	黒褐色	シルト	粘性強	締疎	
13	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	褐色粒10％
14	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性強	締疎	褐色粒10％
15	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	褐色粒10％
16	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性強	締疎	
17	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締中	
18	10YR4/4	褐色	シルト	粘性強	締中	
19	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	
20	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締疎	
21	10YR4/4	褐色	シルト	粘性強	締中	
22	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締中	
23	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性強	締中	褐色粒10％
24	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	締やや密	
25	10YR4/4	褐色	シルト	粘性強	締中	褐色粒10％
26	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性強	締中	
27	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性強	締中	
28	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性弱	締やや疎	褐色粒10％
Ⅶ	10YR6/6	明黄褐色	粘土	粘性強	締密	

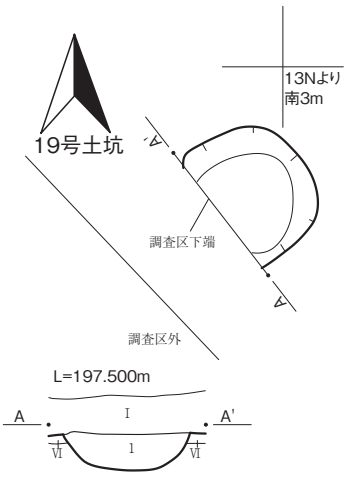
17号土坑（A-A'）

Ⅰ	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性弱	締密	
1	10YR4/4	褐色	シルト	粘性弱	締密	炭Φ１㎜１％含む
2	10YR3/4	暗褐色	シルト	粘性中	締中	
	褐色粒Φ２㎜～５㎜10％縞状に含む					
Ⅵ	10YR5/6	黄褐色	シルト	粘性強	締密	

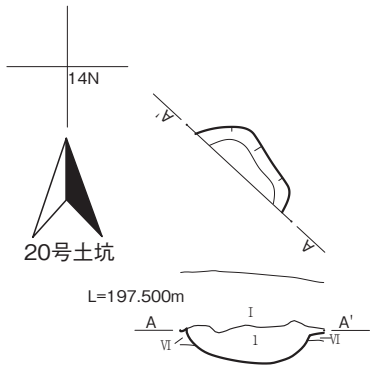
第20図　14～17号土坑



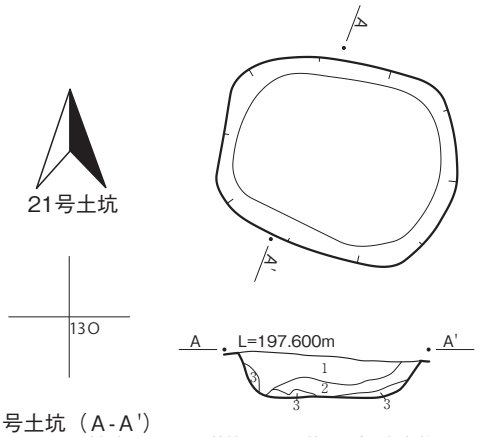
18号土坑(A-A')
Ⅰ　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　締密
1　10YR4/4　褐色　シルト　粘性弱　締密　炭Φ１㎜１％含む
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　締中　褐色粒Φ２㎜～５㎜10％縞状に含む
Ⅵ　10YR5/6　黄褐色　シルト　粘性強　締密



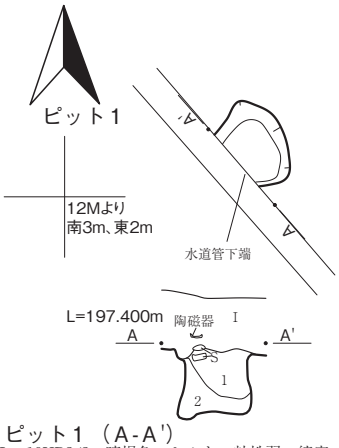
19号土坑(A-A')
Ⅰ　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　締疎
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　締疎　褐色粒Φ１㎝３％含む
Ⅵ　10YR4/6　褐色　シルト　粘性中　締中



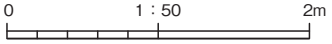
20号土坑（A-A'）
Ⅰ　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　締疎
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　締疎　褐色粒Φ１㎝３％含む
Ⅵ　10YR4/6　褐色　シルト　粘性中　締中



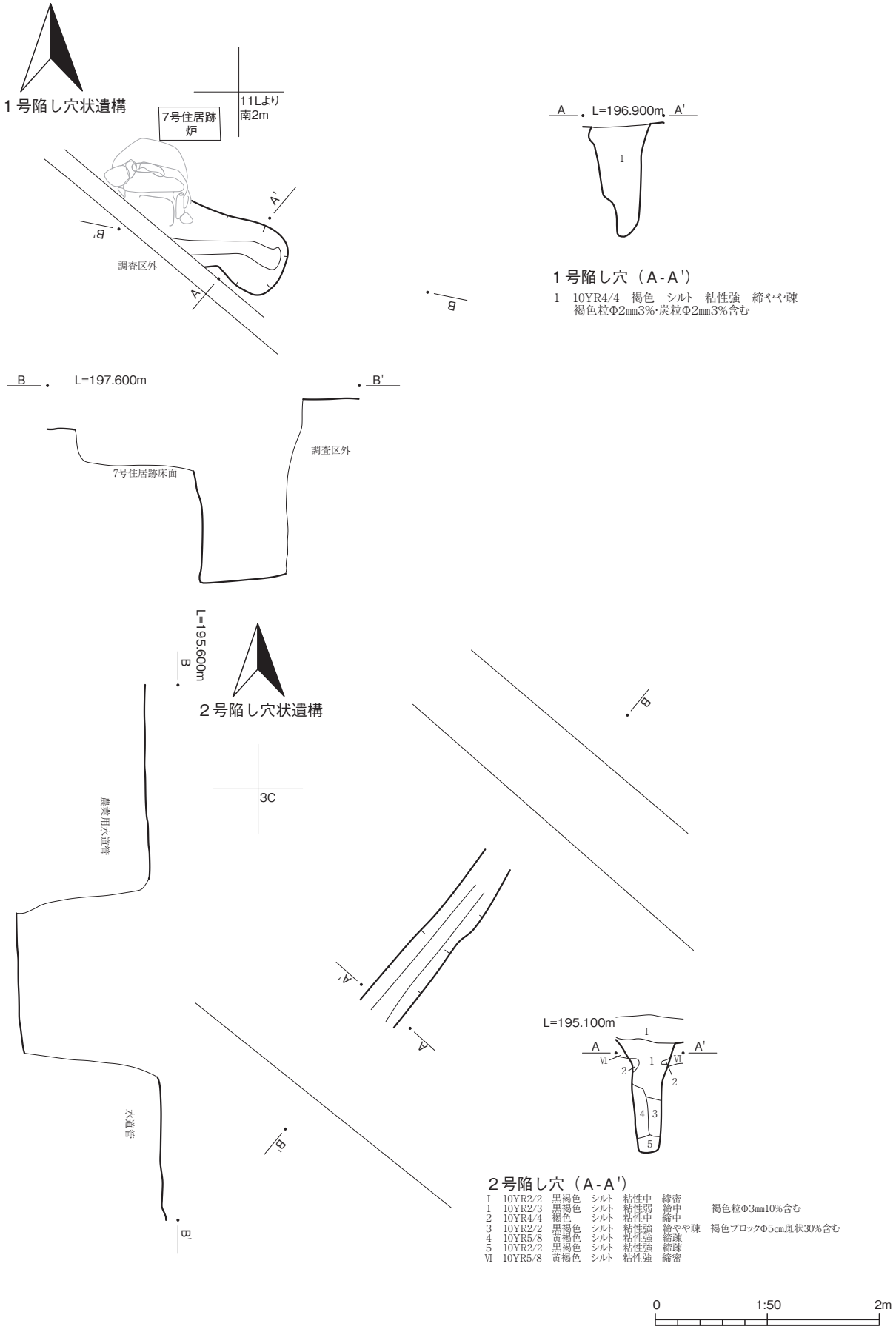
21号土坑（A-A'）
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　締やや密　褐色粒Φ２㎜10％含む
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや強　締やや疎　褐色粒Φ２㎜20％含む
3　10YR4/4　褐色　シルト　粘性中　締中
褐色ブロックΦ10㎝20％斑状をなす



ピット１（A-A'）
Ⅰ　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　締密
1　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性強　締中　褐色粒Φ１㎝10％含む
2　10YR4/4　褐色　シルト　粘性強　締中



第21図　18～21号土坑・ピット１



第22図　1・2号陥し穴状遺構

Ⅴ　出　土　遺　物

今回の調査で出土した遺物の総量は、土器大コンテナ（42 × 32 × 40㎝）５箱、石器類中コンテナ（42 × 32 × 30㎝）４箱、土製品５点、コハク片２点、骨砕片１点である。

１　土　　器

縄文時代前期・中期の土器が出土している。

Ⅰ群　前期　胎土に繊維を多く含む斜縄文、尖底部などをまとめた。総数は多くないが、５・６号住居跡・３・７号土坑から磨滅した土器片が出土している。45・48・96・98 ～ 100・102・115・116・126・146・148 が該当する。

Ⅱ群　中期　今回の調査で出土した土器の大部分を占める。分類基準は、宮城県七ヶ浜町大木囲貝塚出土基準資料『考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料－山内清男編年基準資料－東北大学総合学術博物館研究紀要第５号』・『柿ノ木平遺跡・関根遺跡－浅岸地区区画整理事業関連発掘調査報告書Ⅳ－』等・青森県史編年に拠る。

Ａ類　大木８ａ式　１号住居跡から口縁部片１が出土している。口縁部文様帯は隆沈線による文様を描く。10・11・130 等が該当する。

Ｂ類　円筒上層式　８号住居跡で数片出土している。74･77 が該当し、円筒上層ｃ式と考えられる。

Ｃ類　大木８ｂ式・榎林式　今回調査出土資料の大部分を占める。８・12 号住居跡、６・７・13・15 号土坑からまとまって出土している。67・72・75・86・87・105・108・111・114・135・140 等が該当する。

Ｄ類　大木９式　７号住居跡から極少量出土している。55 ～ 57 が該当する。

Ｅ類　大木 10 式・大木 10 式併行期　胴下半部に最大径をもつ深鉢形土器が多く、下村遺跡では縄文施文の土器が主体を占める２号住居跡４～９、４号住居跡 38・39、７号住居跡 49 ～ 51・58 が該当する。

２　土　製　品

２・４号住居跡及び 13 号土坑から粘土塊が５点出土している。指跡等の痕跡は認められない。

３　石　　器

石器は、石鏃７点、石匙５点、石錐３点、二次加工剥片 23 点、石錘１点、磨製石斧・磨製石斧未成品 14 点、打製石斧 28 点、多面体敲石 37 点、磨石７点、敲石 15 点、凹石３点、石皿６点、特殊磨石７点、礫器 13 点、台石４点、砥石１点が出土している。掲載にあたっては、遺構内出土石器を優先し、86 点掲載した。

石器器種構成及び器種別石材を第２・３表に示した。剥片石器 20％、礫石器 80％で、礫石器が多数を占める。器種組成はグラフのとおりで､多面体敲石 21％､打製石斧 16％､敲石９％､磨製石斧８％､礫器７％の順に多い。石材は、石鏃・石匙等剥片石器は頁岩、磨製石斧・打製石斧等はホルンフェルス･花崗岩類が主体で､磨製石斧製作に使用したと考えられる多面体敲石は 37 点全てチャートである。原産地は全て北上山地で、器種によって石材選別していることが考えられる。

第２表　出土地点別石器数

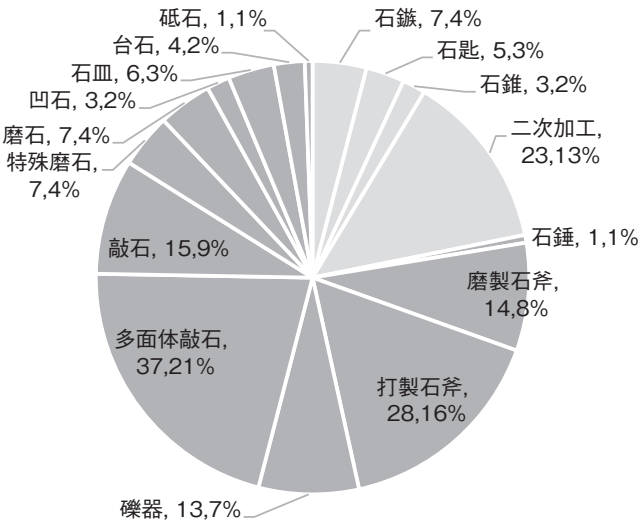
	石鏃		石匙		石錐		二次加工		剥片		石錘		磨製石斧		磨製石斧未成品		打製石斧		礫器		多面体敲石		敲石		特殊磨石		磨石		凹石		石皿		台石		砥石	
	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数
１号住居跡							1	1									1	1	1	1	2	2	1	0	1	1	1	0								
２号住居跡	1	1	1	1	1	1	6	2					4	3	4	4	9	2	1	0	7	2	4	2	2	1							2	0		
３号住居跡																							1	1									1	0		
４号住居跡																					1	1	1	0							3	2				
５号住居跡									1	1																										
６号住居跡							1	1																	1	1										
７号住居跡			1	1							1	1							1	1	9	1					1	1			1	1				
８号住居跡	2	2	1	1									2	1					1	1			2	1	1	0	1	0								
９号住居跡	1	1																																		
10 号住居跡																																				
11 号住居跡																							3	2												
12 号住居跡																	1	1	1	1	1	1														
13 号住居跡																							1	1												
１号土坑																																				
２号土坑							1	1													2	1														
３号土坑	1	1	1	1			1	0									4	1							2	1										
４号土坑																	1	1															1	0		
５号土坑																																				
６号土坑																	2	2							1	1										
７号土坑	1	1	1	1									1	1									1	1												
８号土坑																																				
９号土坑							1	1																												
11 号土坑							1	1									1	1																		
12 号土坑																																				
13 号土坑							1	0									1	1	1	1																
14 号土坑																																				
15 号土坑					1	1	1	1									2	1	2	2	1	1	1	1			1	1							1	0
16 号土坑																																				
17 号土坑																																				
18 号土坑																																				
19 号土坑																	1	1																		
20 号土坑																																				
21 号土坑																																				
ピット１																			1	1																
遺構外	1	1			1	1	9	0					3	0	4	0	5	2	4	0	13	0	1	1			2	0	3	1	2	0				

器種別合計	石鏃		石匙		石錐		二次加工		剥片		石錘		磨製石斧		磨製石斧未成品		打製石斧		礫器		多面体敲石		敲石		特殊磨石		磨石		凹石		石皿		台石		砥石	
	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数	総数	掲載数
	7	7	5	5	3	3	23	8	1	1	1	1	10	5	4	4	28	14	13	8	36	9	16	10	8	5	6	2	3	1	6	3	4	0	1	0

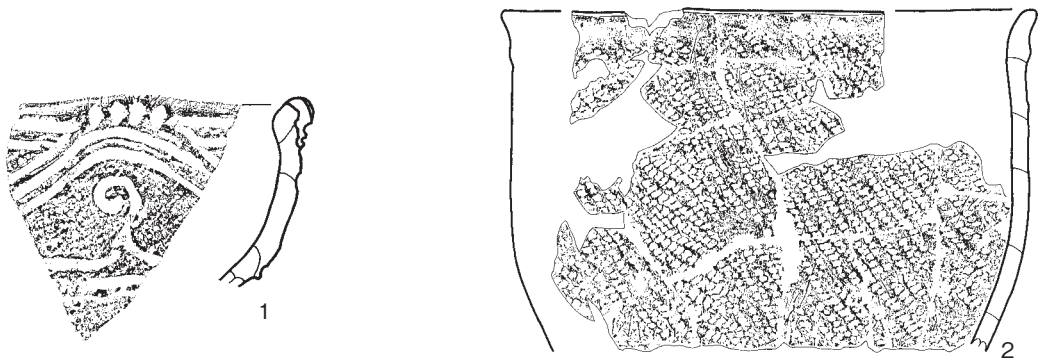
第３表　石器器種別石材

	頁岩	ホルンフェルス	ヒン岩	細粒花崗閃緑岩	細粒閃緑岩	花崗岩	チャート	砂岩	破砕岩	デイサイト	石英斑岩	流紋岩	凝灰岩
石鏃	5	2											
石匙	5												
石錐	3												
二次加工剥片	16	3						1				1	
石錘				1									
磨製石斧	1	2	1	4	2								
磨製石斧未成品		1		5	1			1					
打製石斧	2	7	7	4	4			3			1		
礫器		7	1	1	1		1	1	1				
多面体敲石							36						
敲石	1	1		1	1	1	1	10					
特殊磨石				3	1			2		2			
磨石					2	2		2					
凹石		1						2					
石皿			1	1				3					1
台石				1		1		2					
砥石								1					

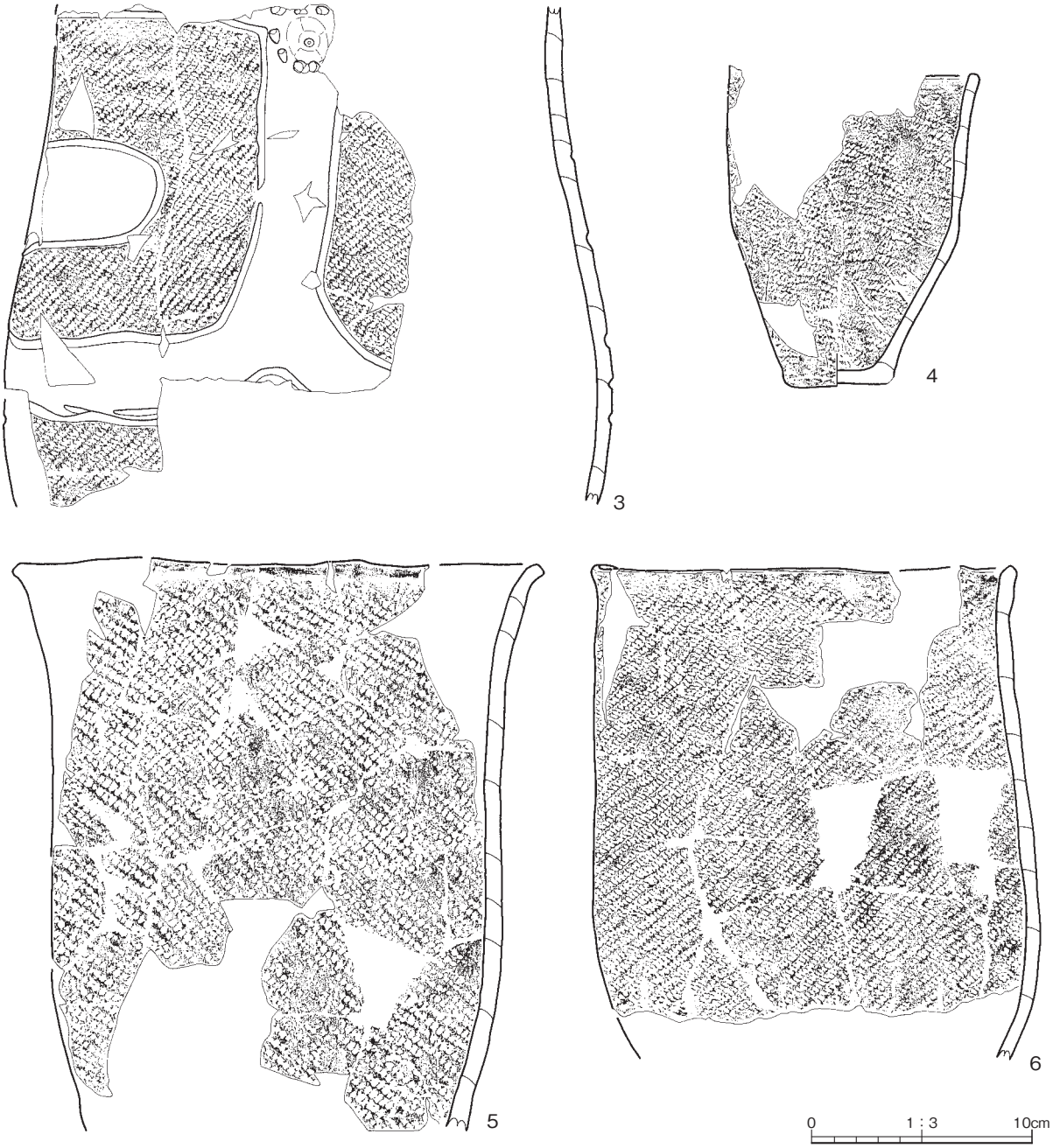
※二次加工剥片は２点石質鑑定を行っていない。



1号住居跡

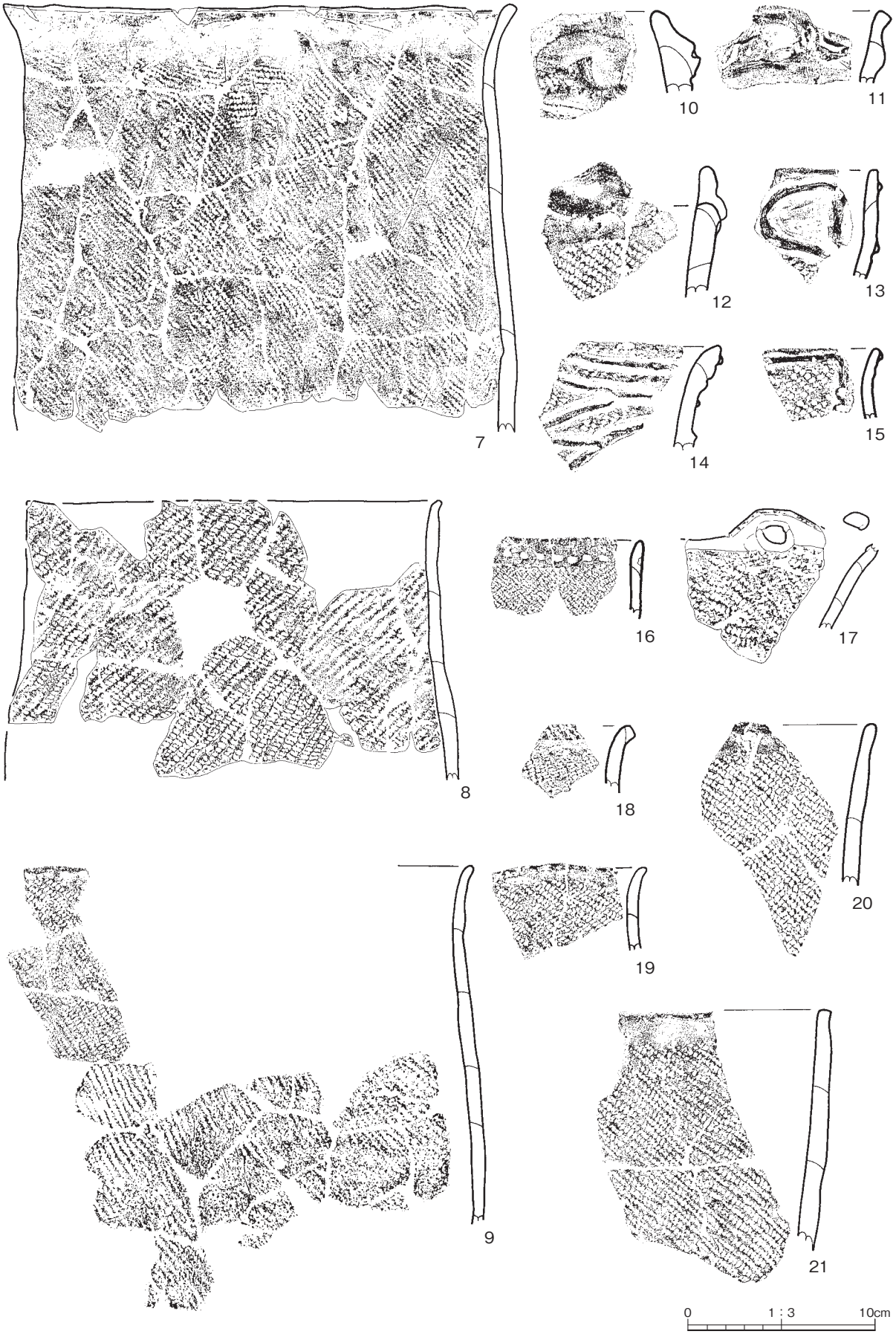


2号住居跡①



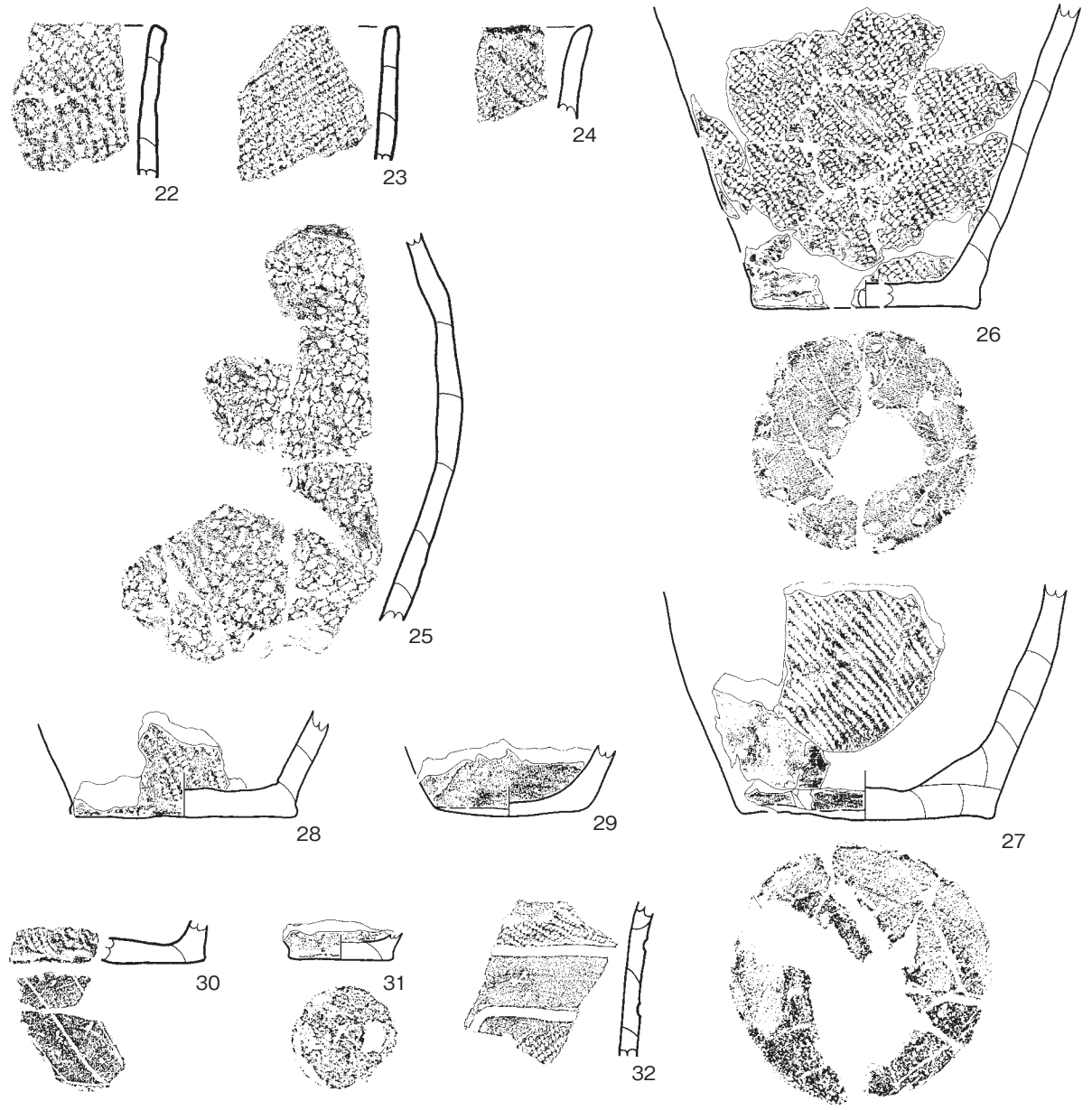
第23図　1・2号住居跡出土土器

２号住居跡②

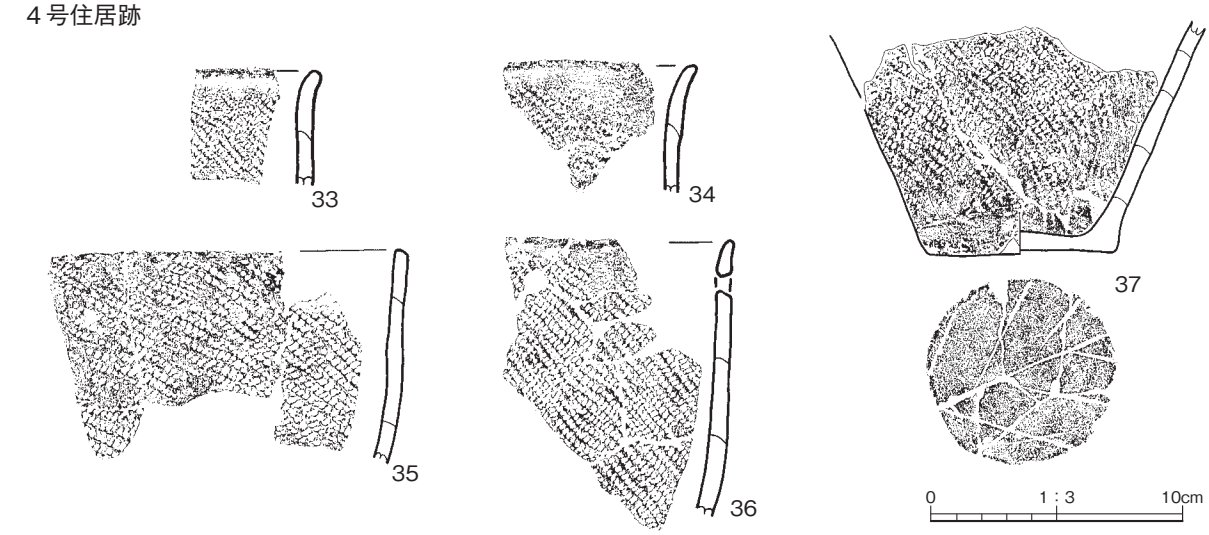


第24図　2号住居跡出土土器

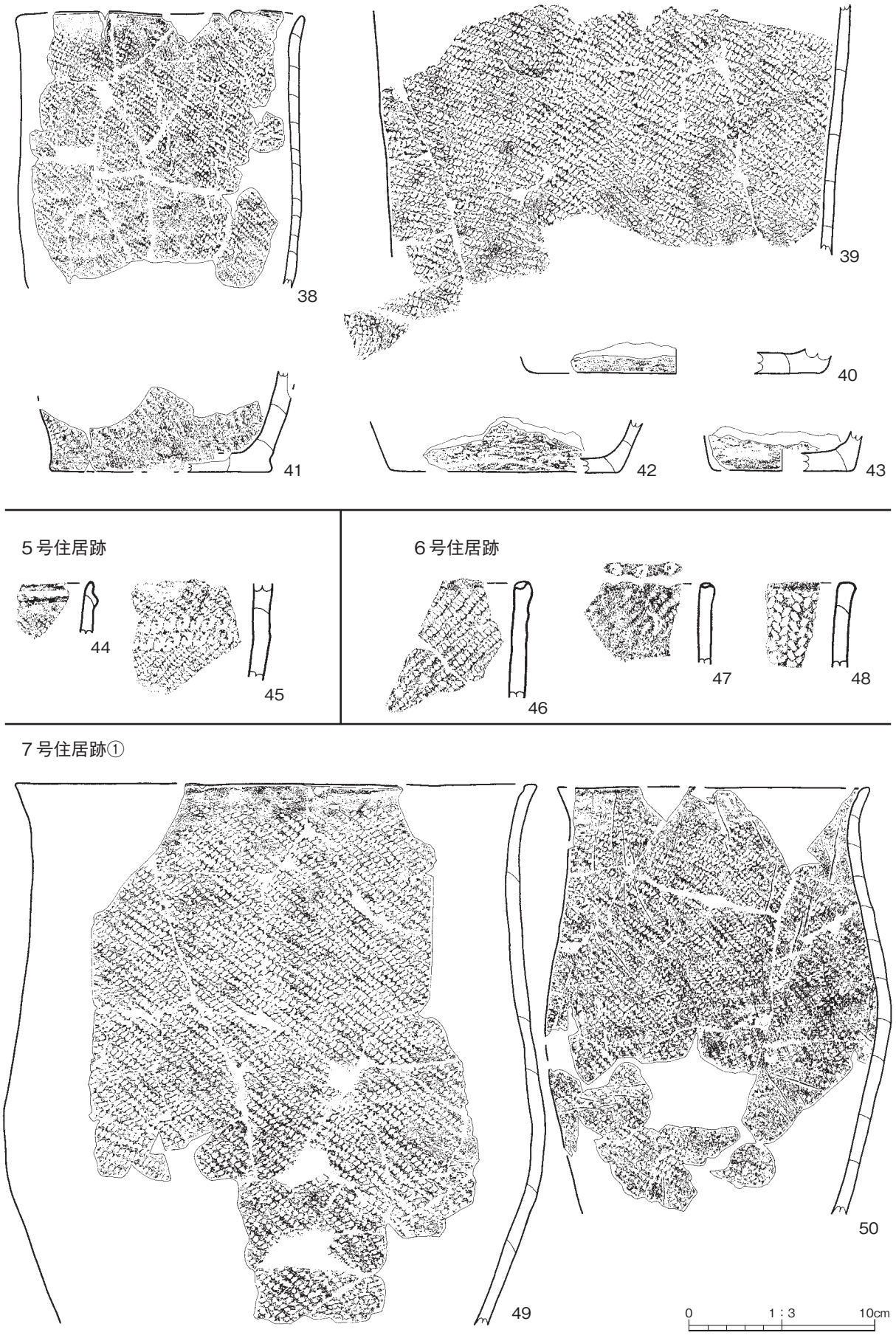
２号住居跡③



４号住居跡

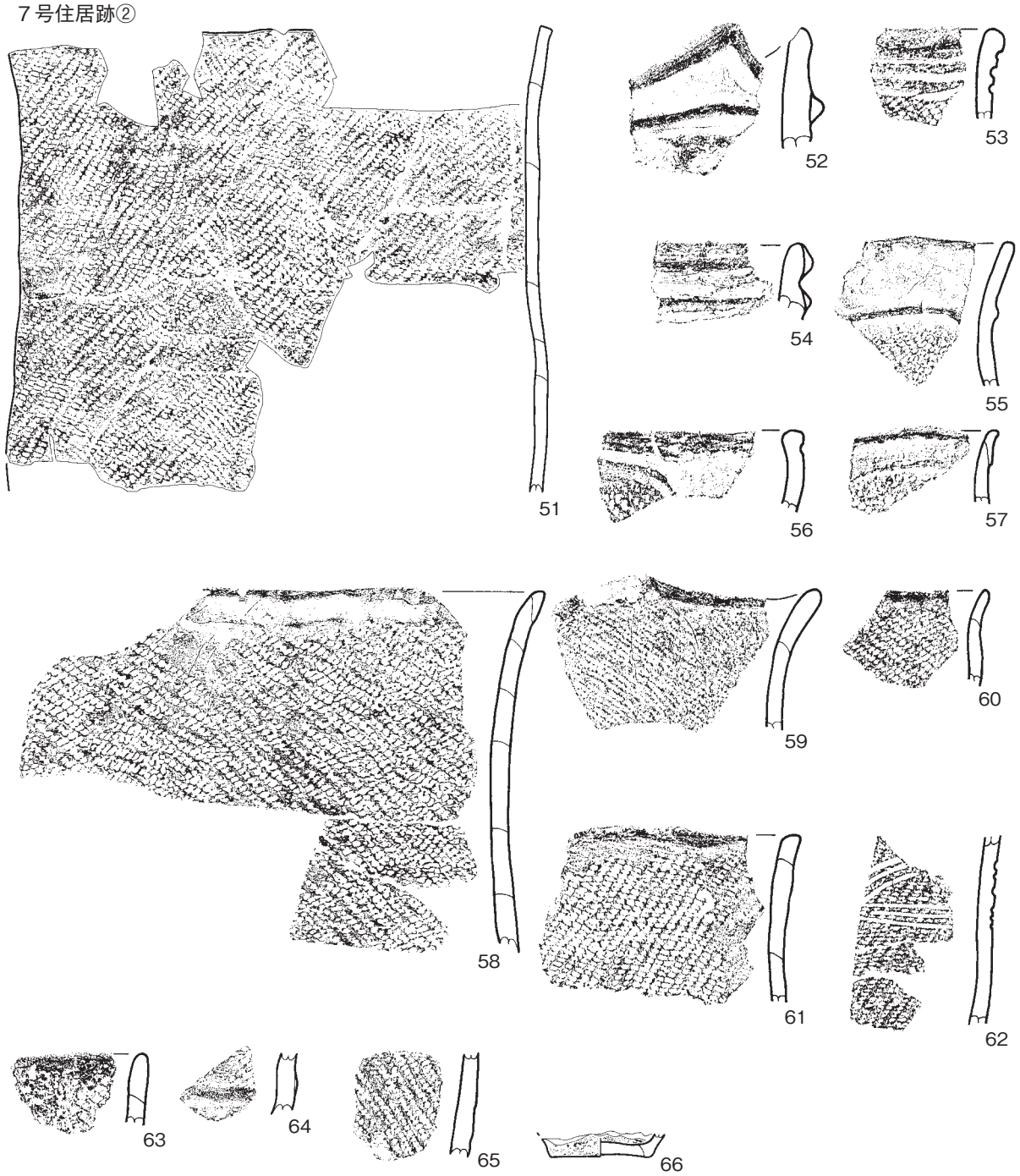


第25図　２・４号住居跡出土土器

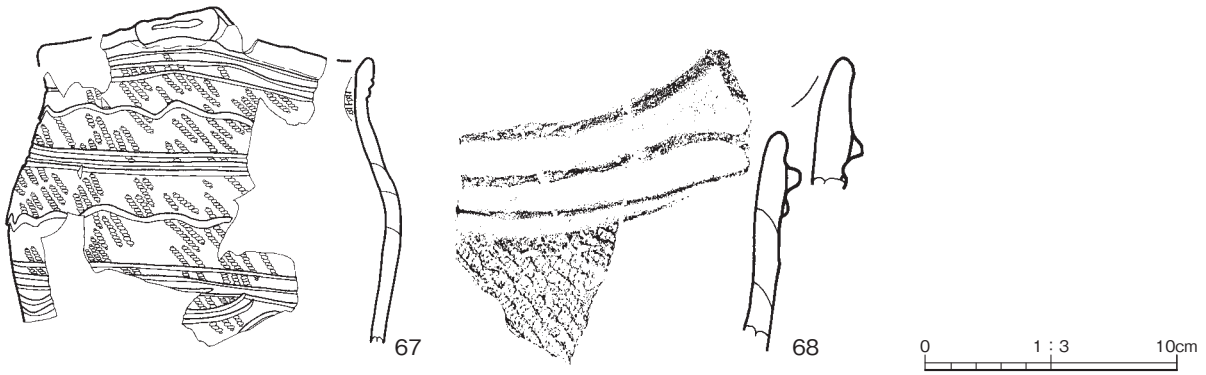


第26図　4～7号住居跡出土土器

7号住居跡②

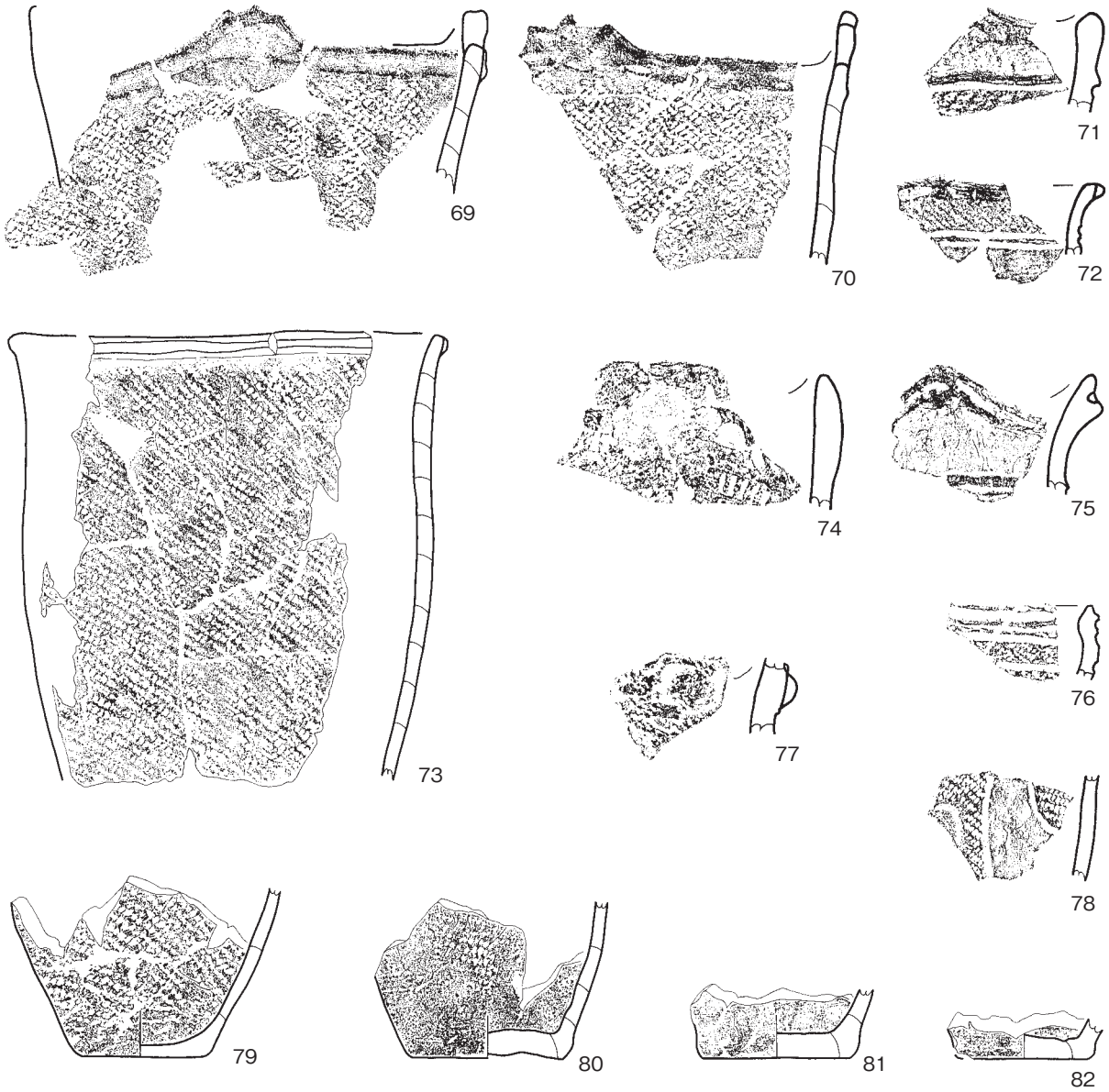


8号住居跡



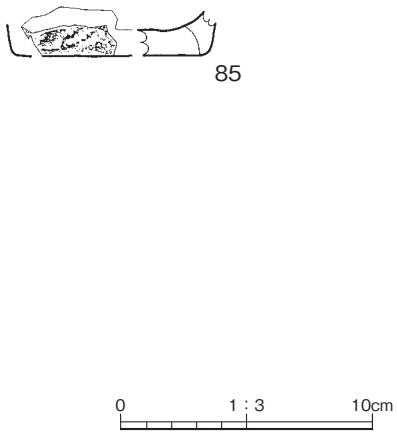
第27図　7・8号住居跡出土土器

8号住居跡

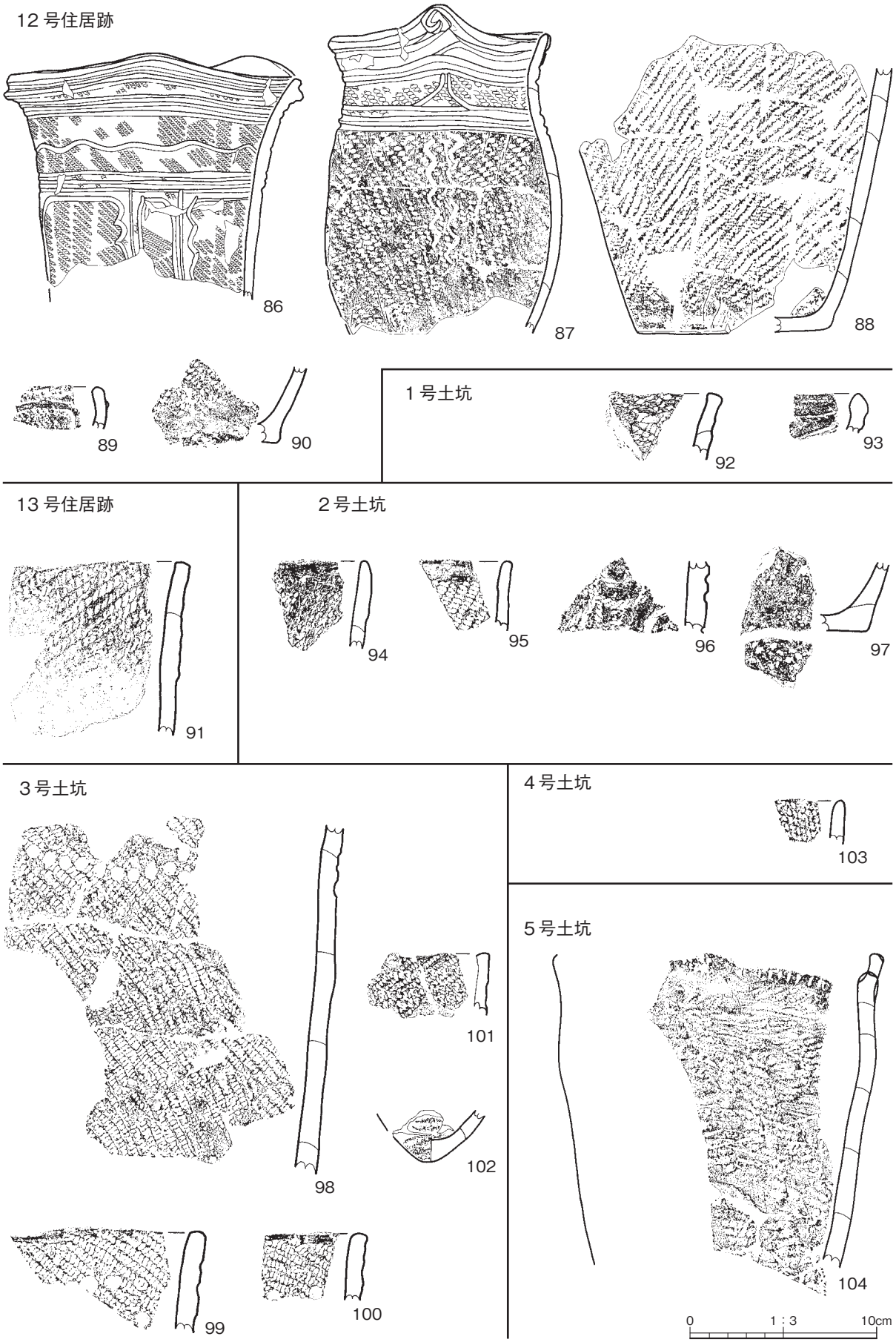


10号住居跡

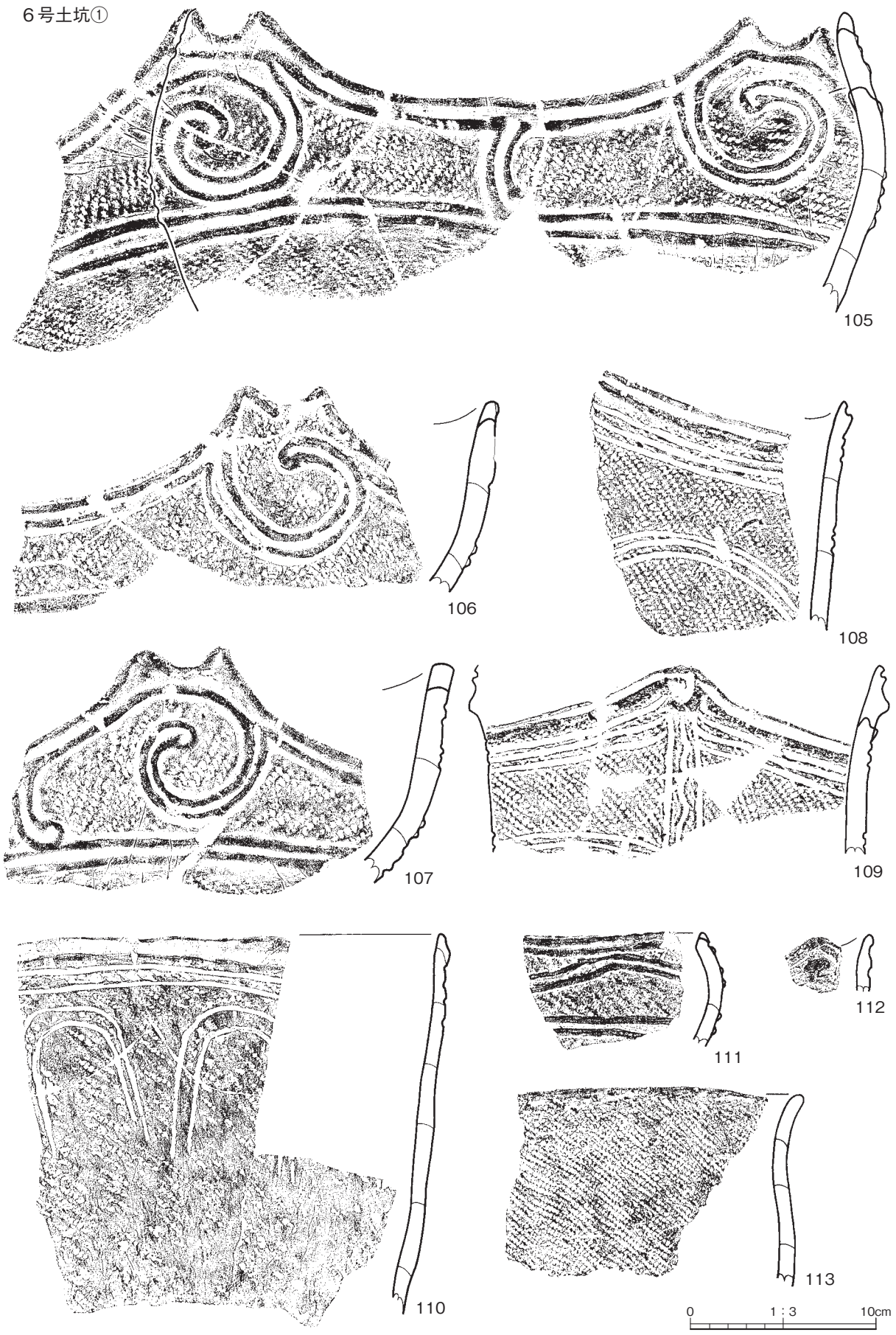
11号住居跡



第28図　8・10・11号住居跡出土土器

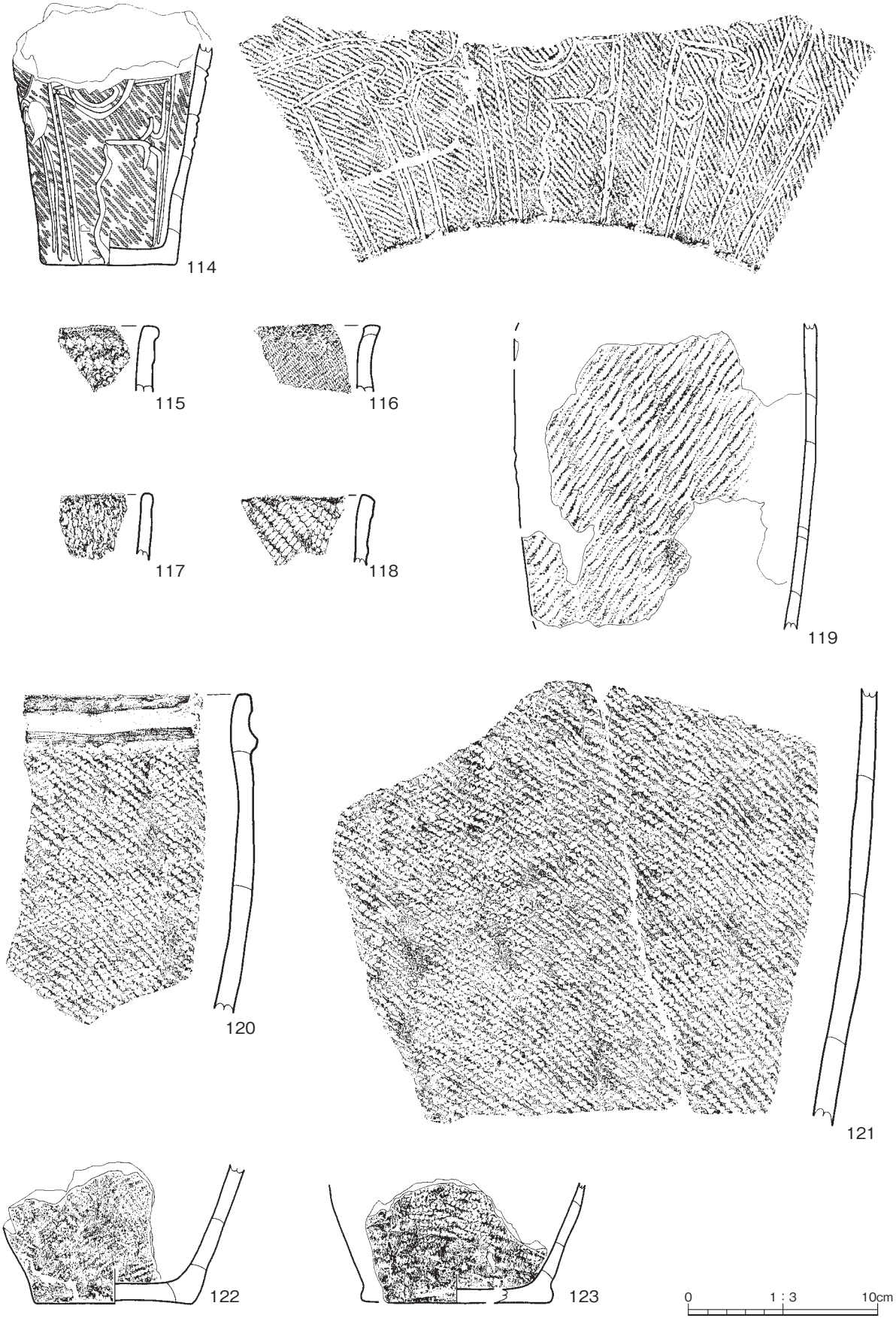


第29図　12・13号住居跡、1～5号土坑出土土器

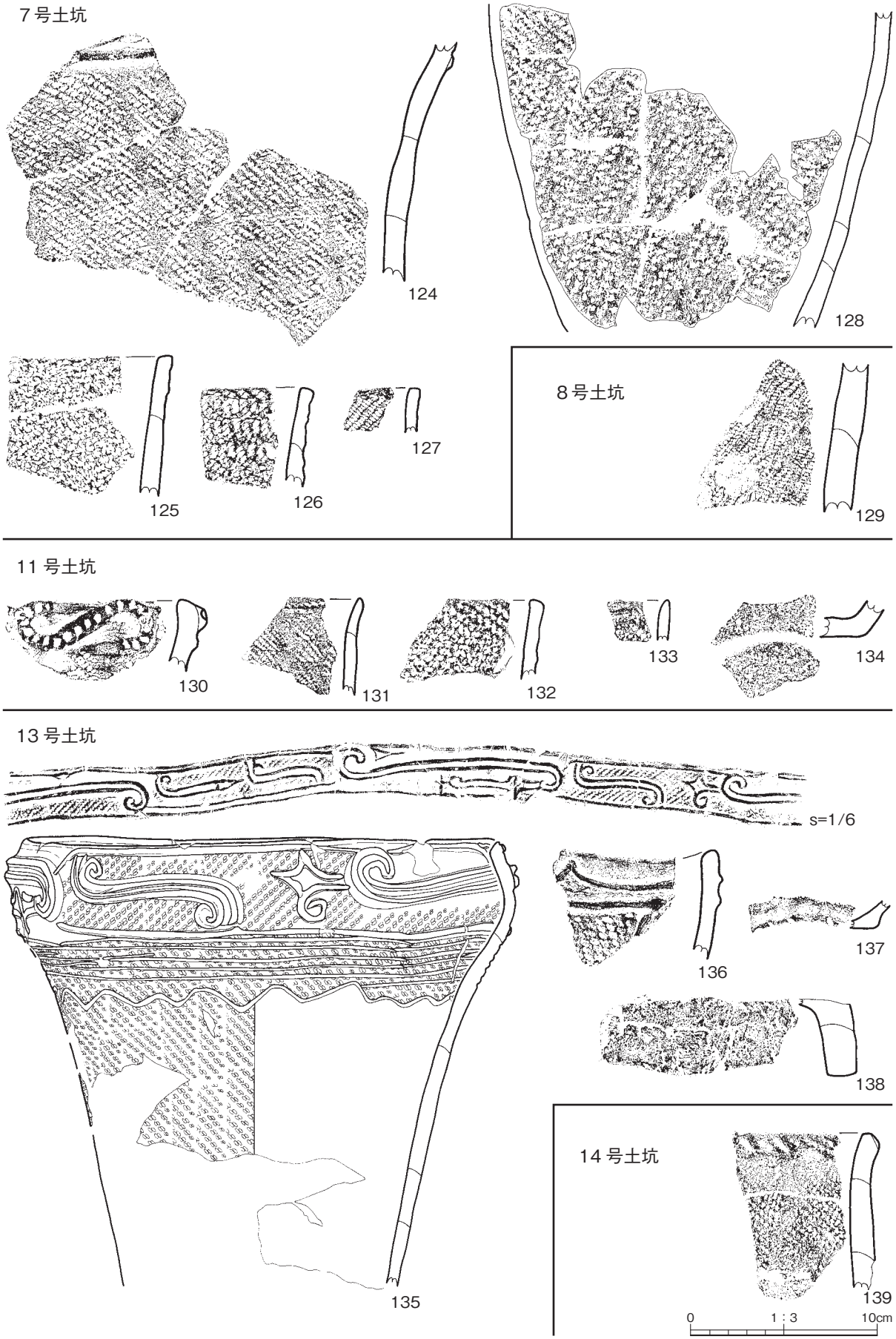


第30図　6号土坑出土土器（1）

6号土坑②



第31図　6号土坑出土土器（2）



第32図　7・8・11・13・14号土坑出土土器

15 号土坑

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

19 号土坑

152

21 号土坑

153

154

155

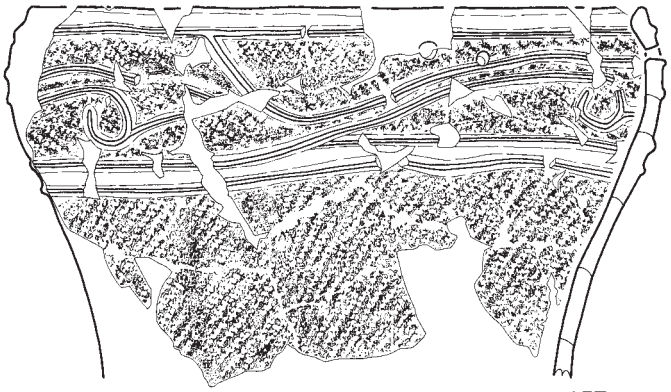
2 号陥し穴

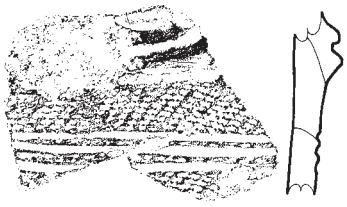
156

0　1：3　10cm

第33図　15・19・21号土坑、2号陥し穴状遺構出土土器

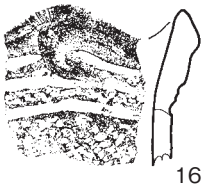
遺構外


157


158

159

160


161

162

163

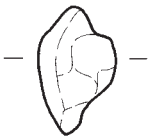
164

165

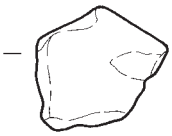
166

167

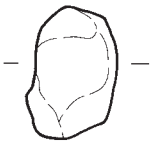
0　1：3　10cm



168

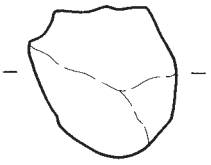
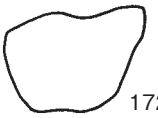


169



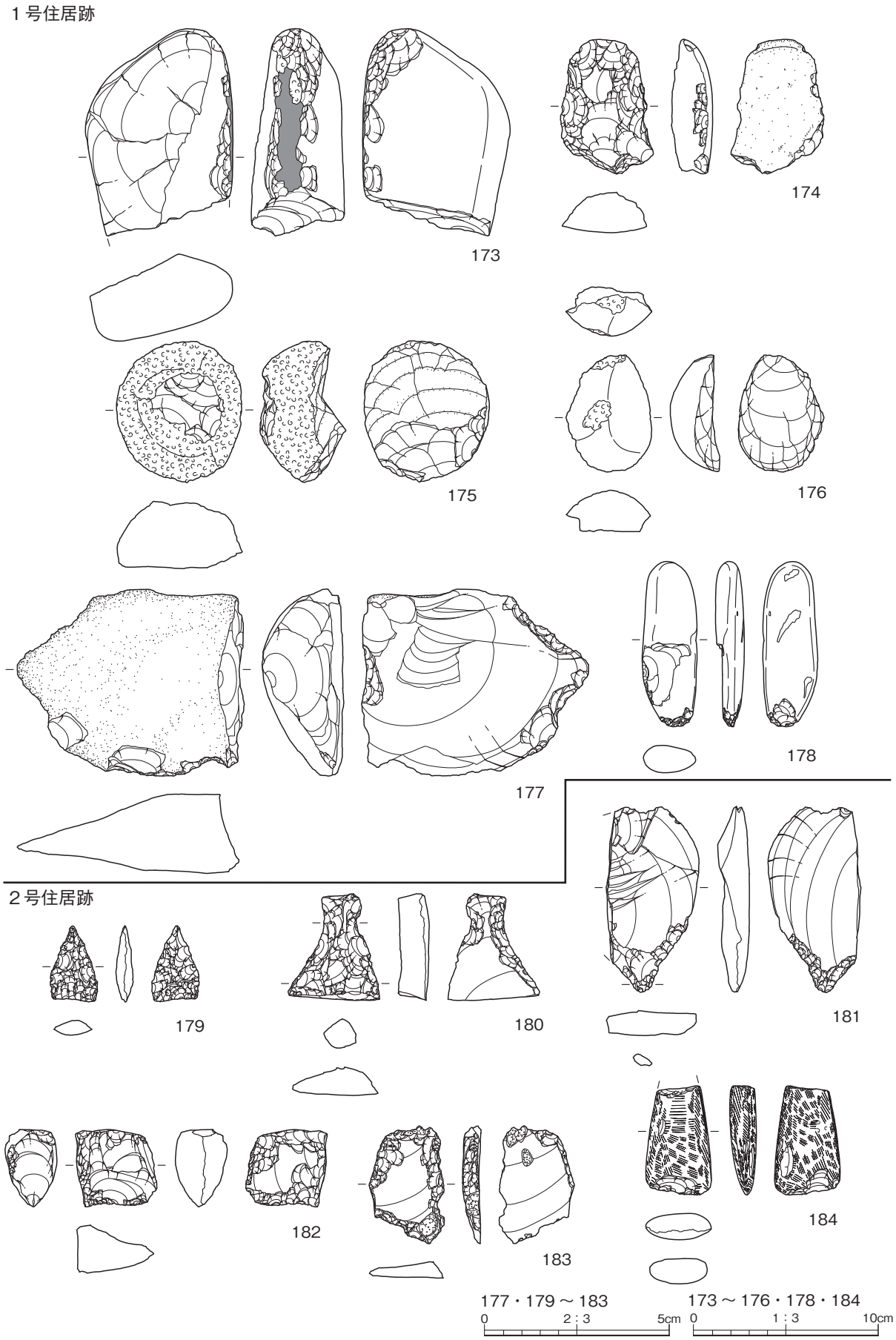
170

171

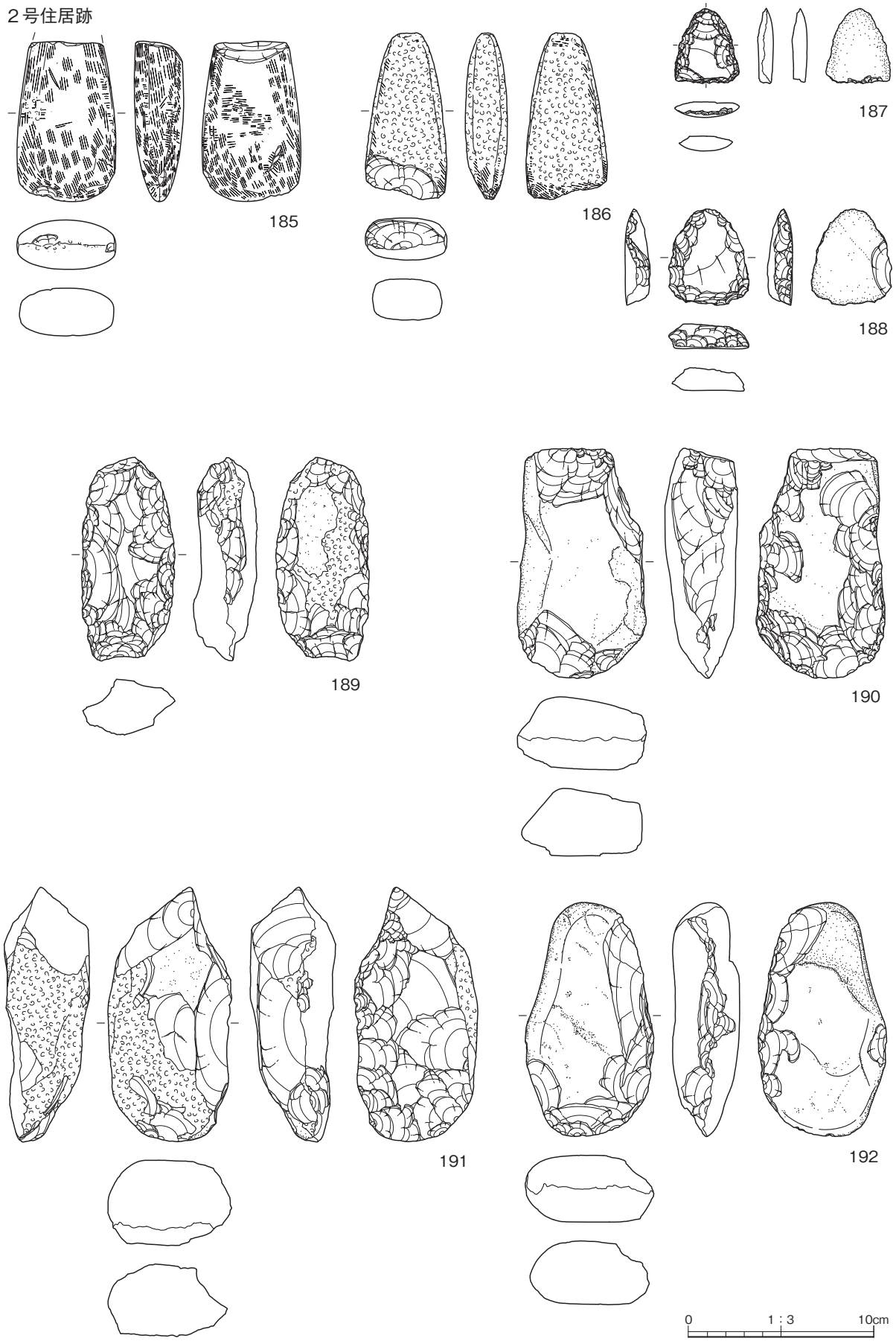


172

0　2：3　5cm

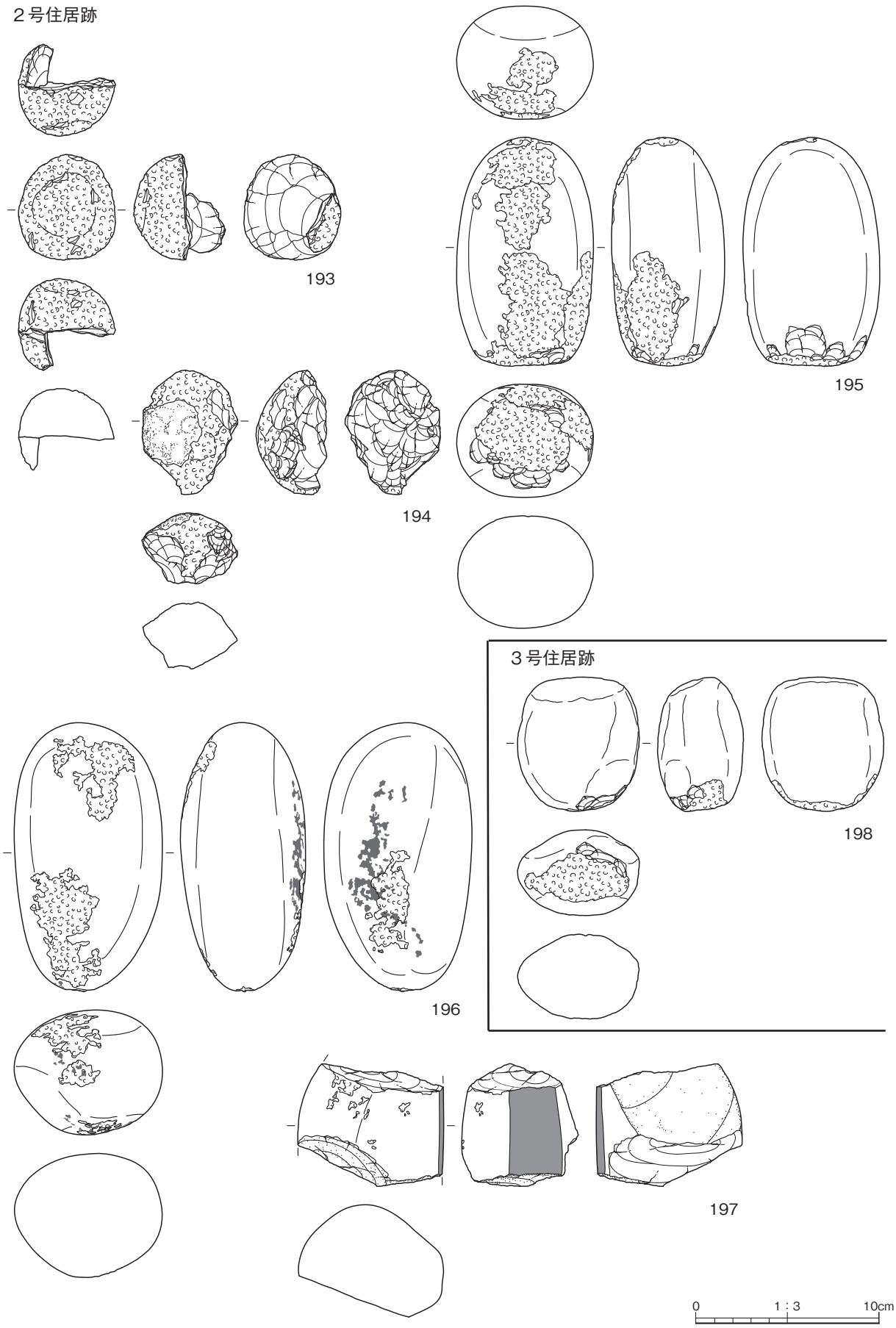
第34図　遺構外出土土器・陶器・土製品



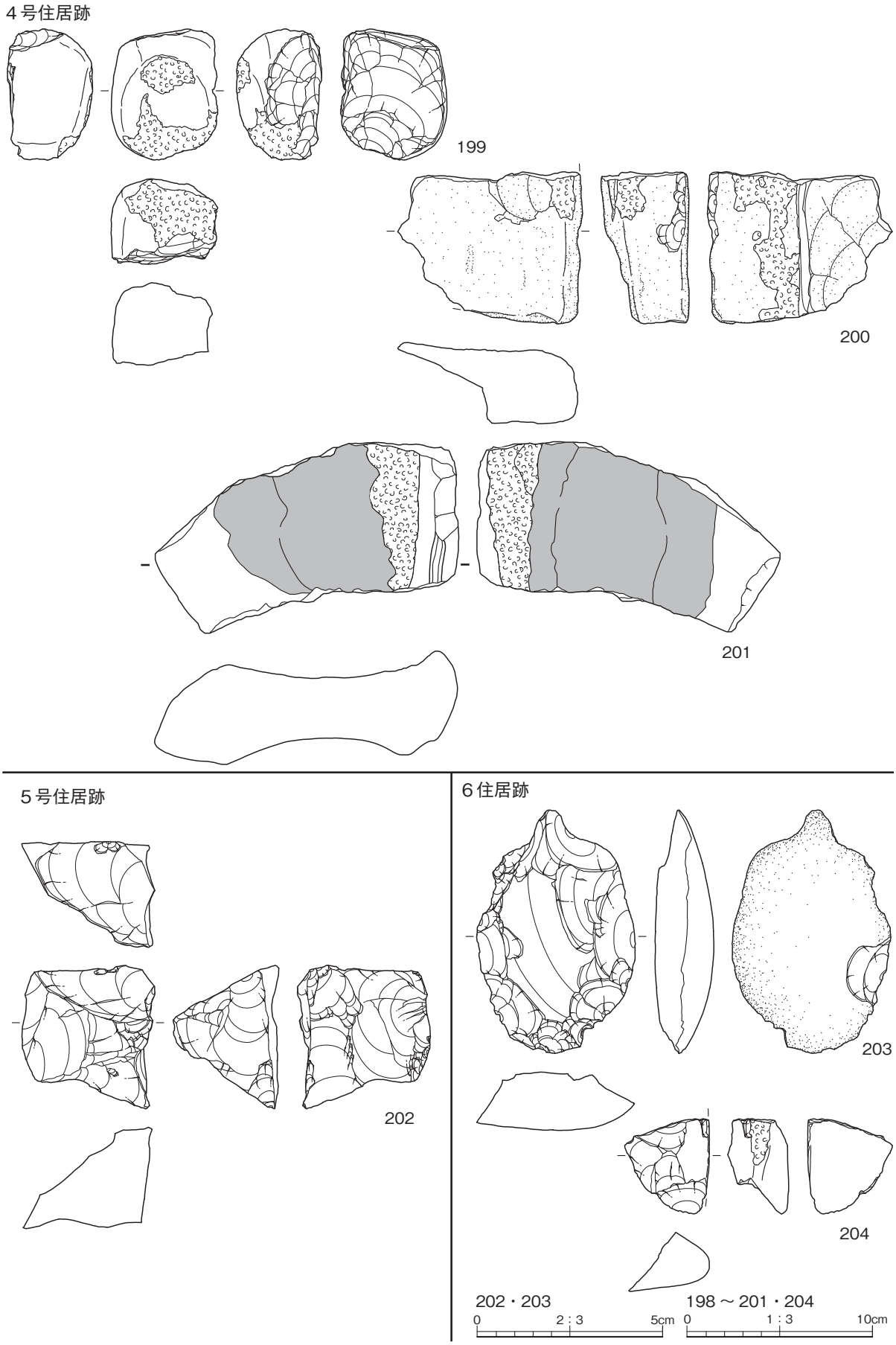
第35図　1・2号住居跡出土石器



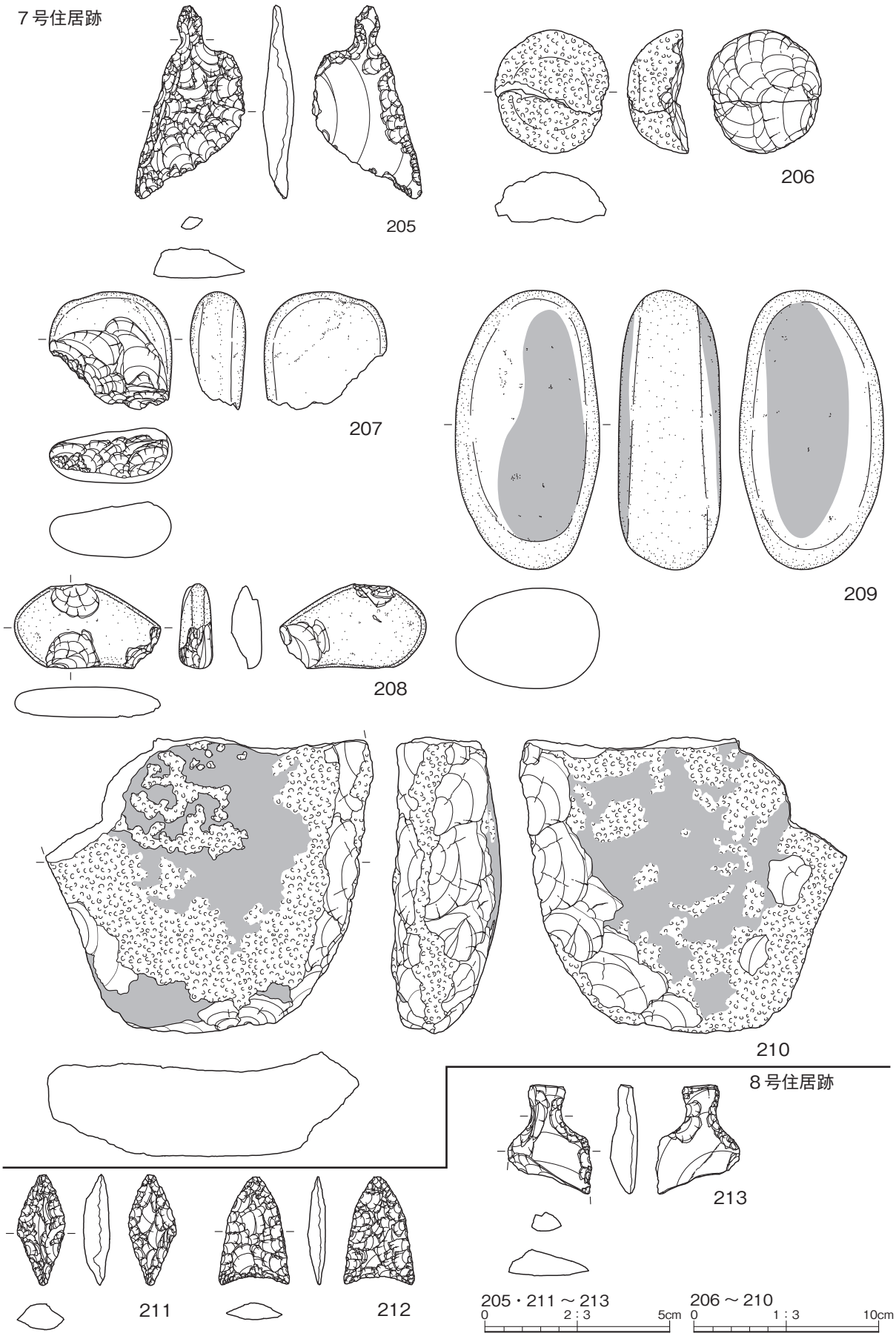
第36図　２号住居跡出土石器



第37図　２・３号住居跡出土石器

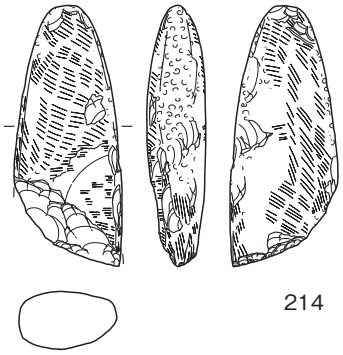


第38図　4～6号住居跡出土石器

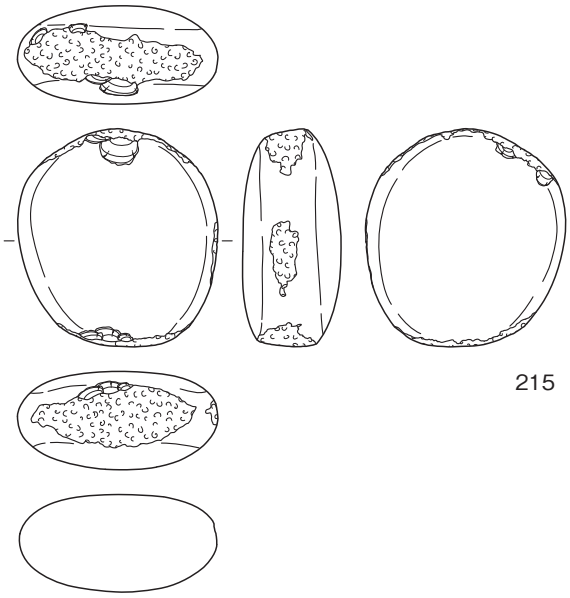


第39図　7・8号住居跡出土石器

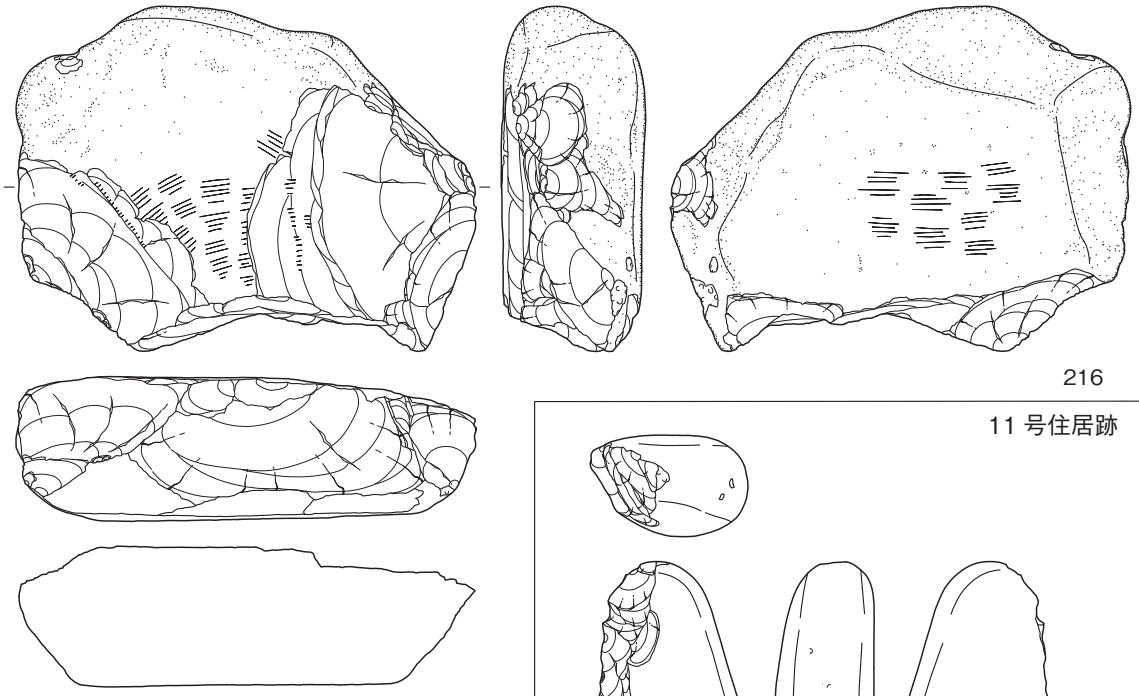
8号住居跡



214

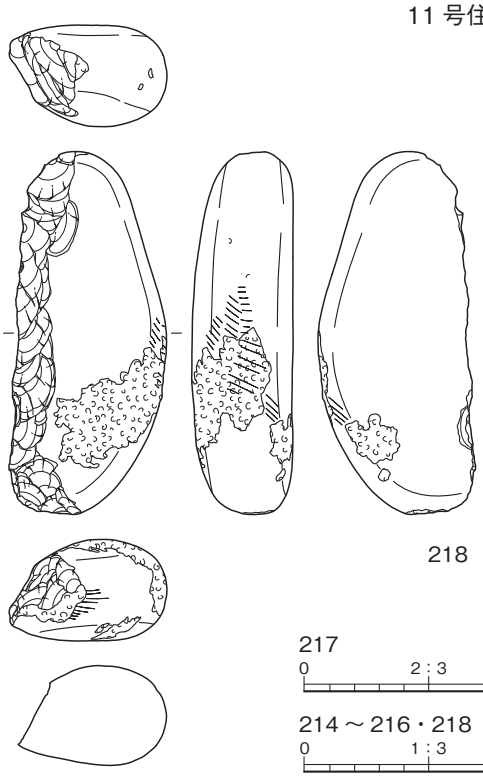


215



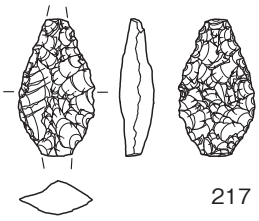
216

11号住居跡



218

9号住居跡



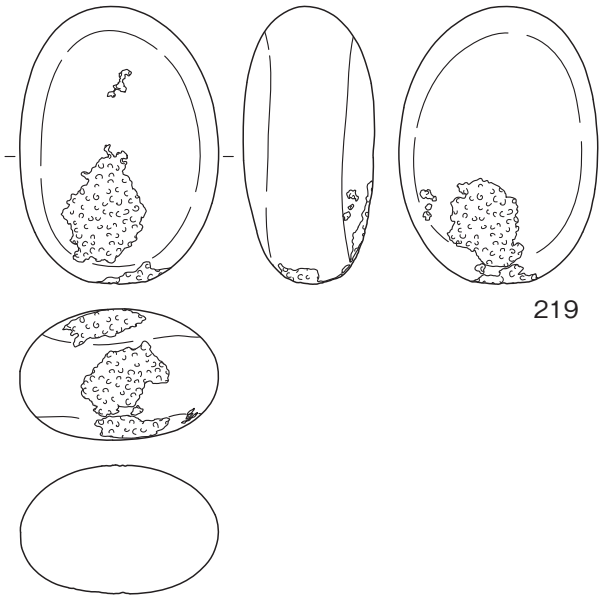
217

217
0　2：3　5cm

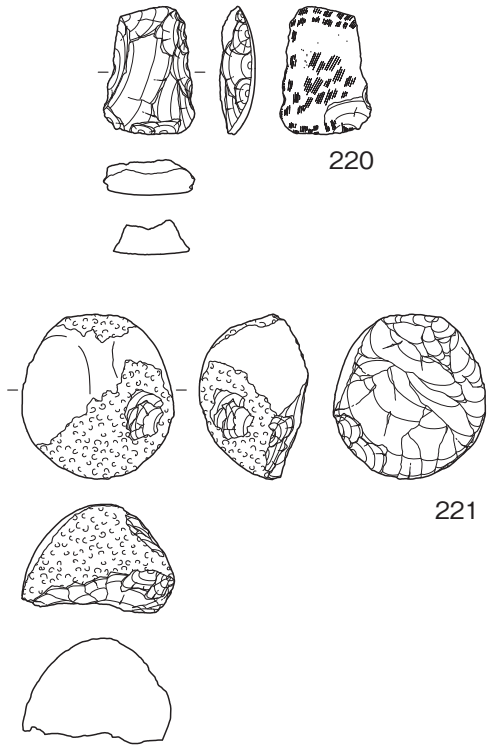
214～216・218
0　1：3　10cm

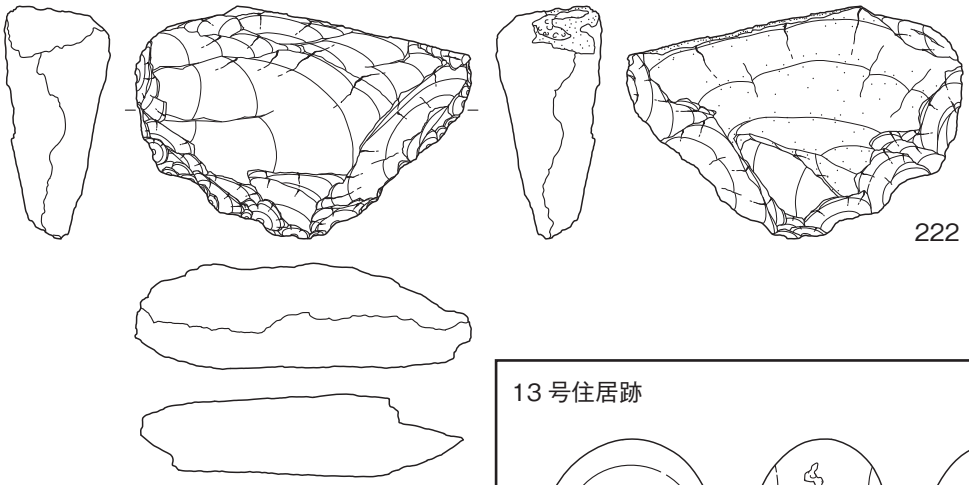
第40図　8・9・11号住居跡出土石器

11 号住居跡

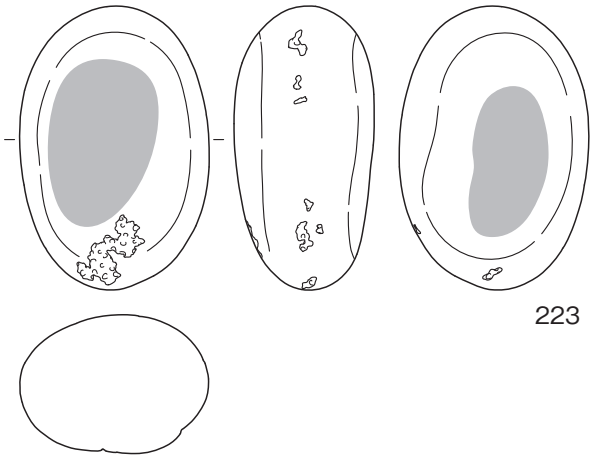


12 号住居跡

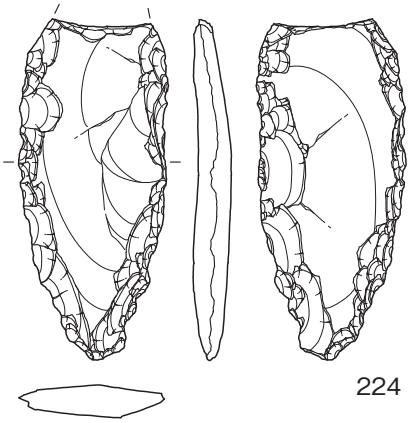




13 号住居跡

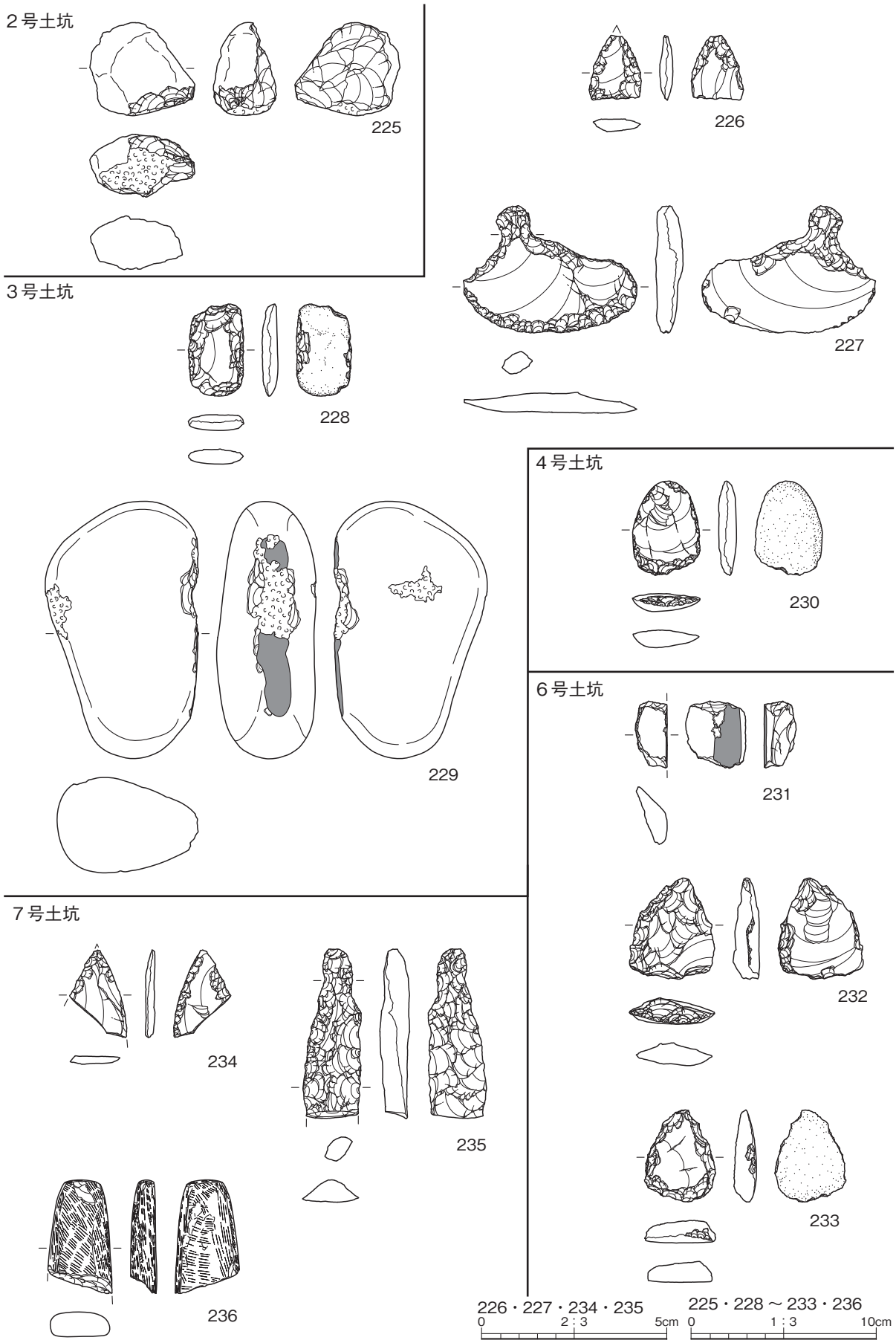


2 号土坑

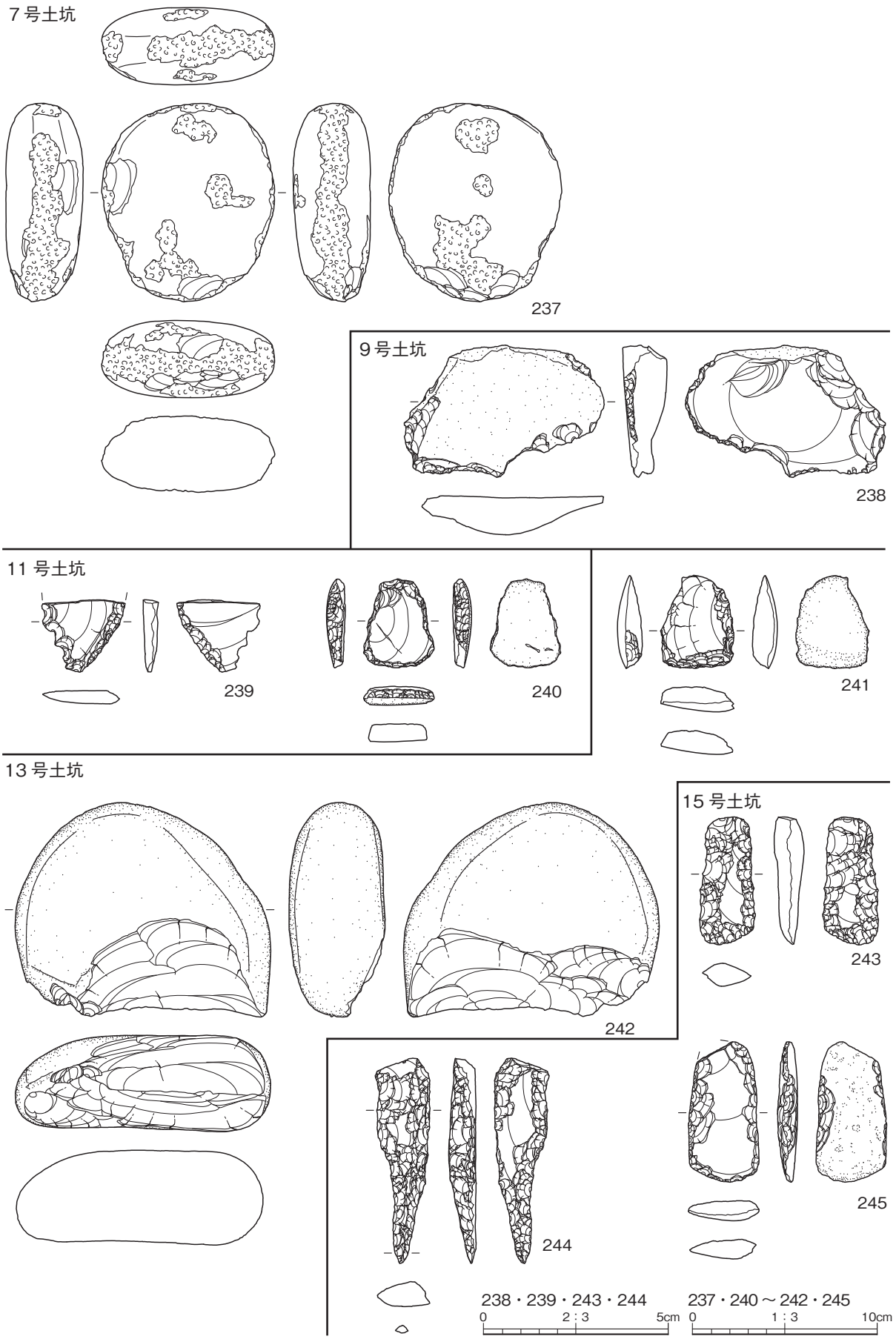


224　0　2：3　5cm　219～223　0　1：3　10cm

第41図　11～13号住居跡、２号土坑出土石器

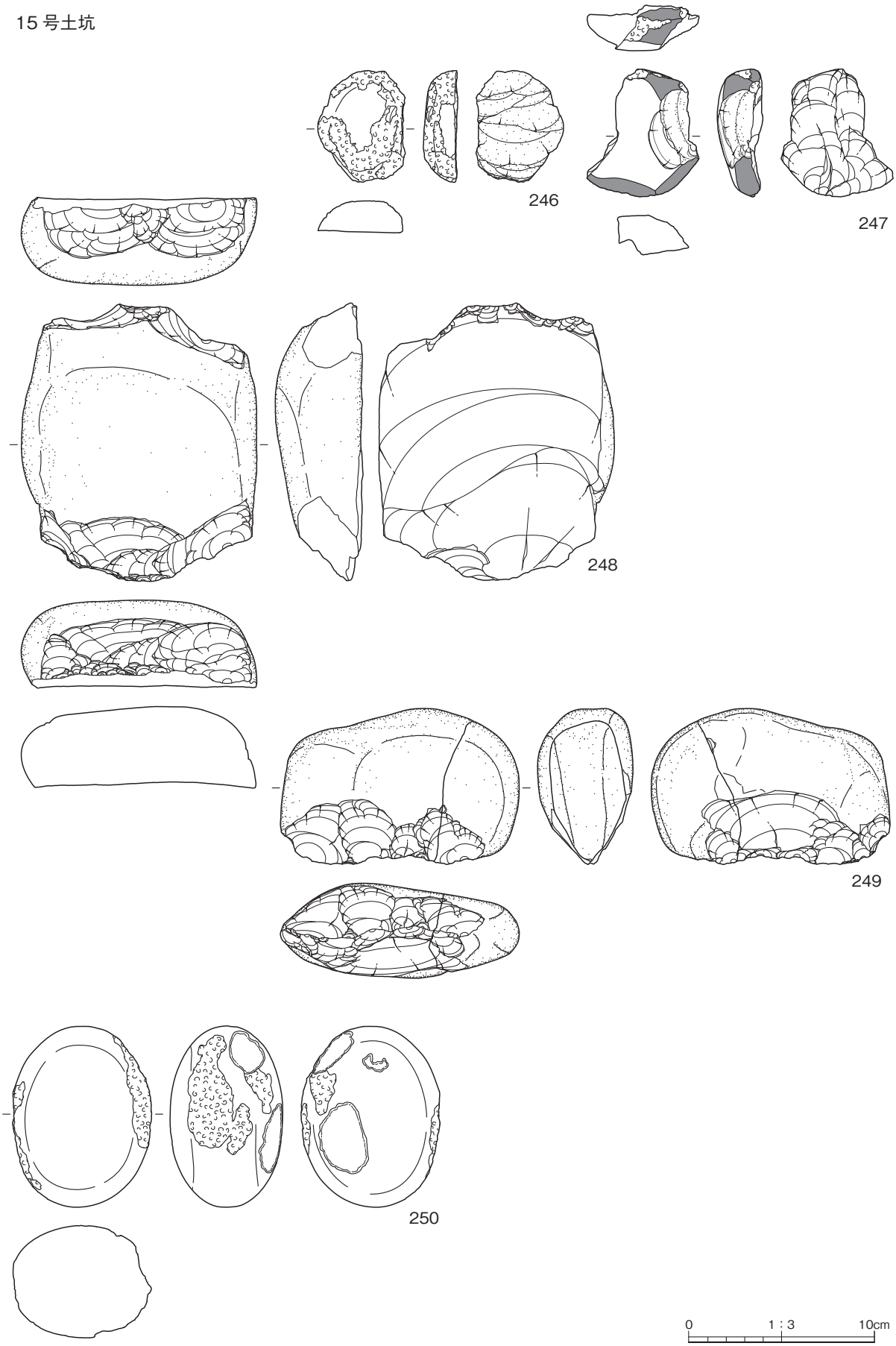


第42図　2～4・6・7号土坑出土石器

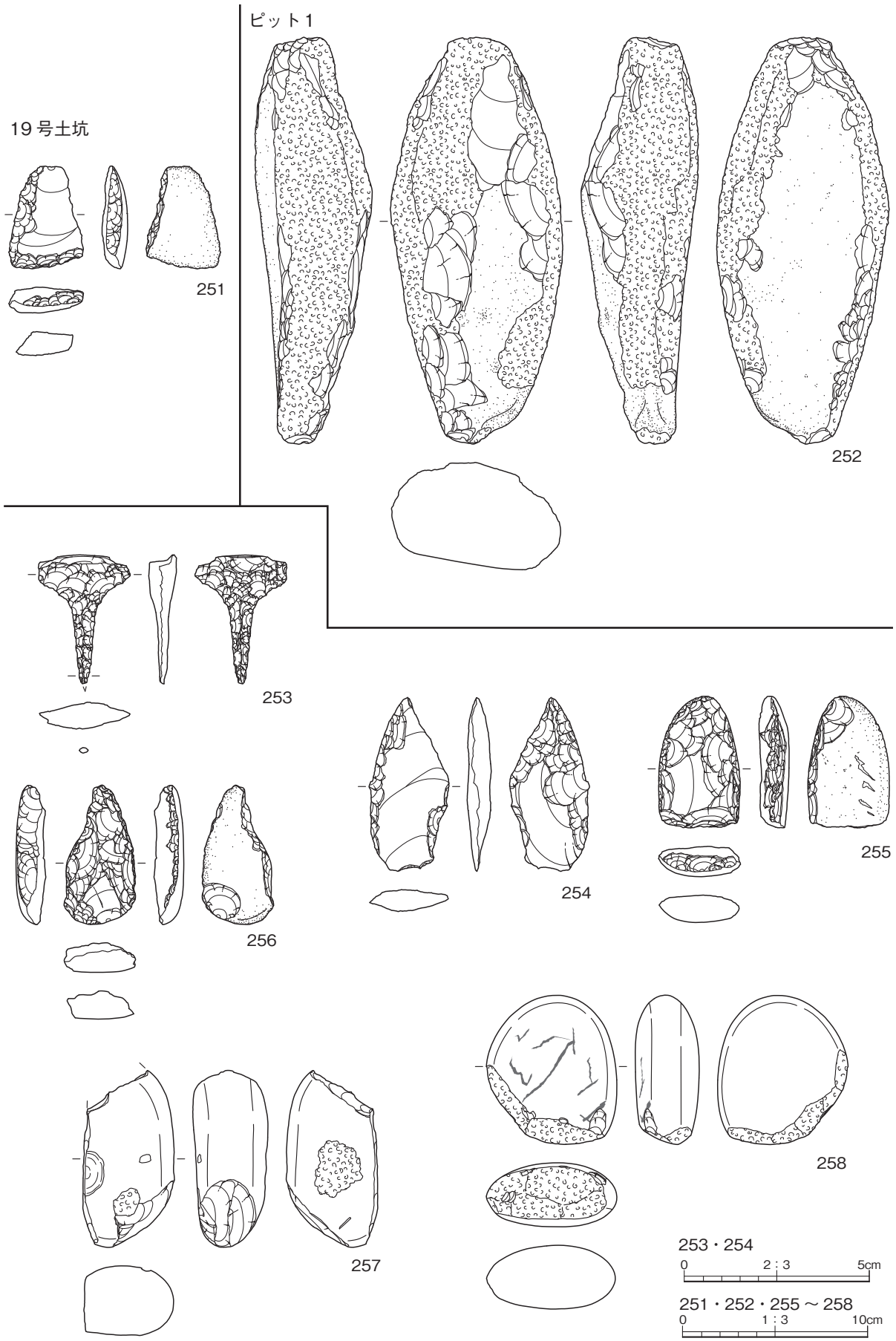


第43図　7・9・11・13・15号土坑出土石器

15 号土坑



第44図　15号土坑出土石器



第45図　19号土坑、ピット1、遺構外出土石器

第４表　土器・陶器観察表

掲載番号	図	写図	種別	出土地点	層位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	文様	分類
1	23	19	深鉢・口縁部	１号住居跡　P1	覆土		(7.90)		LR、隆沈線モチーフ、内面ヨコナデ、煤付着	Ⅱ群Ａ類
2	23	19	深鉢・口縁～胴部	１号住居跡　東側半分	覆土	21.1	(13.50)		LR	Ⅱ群
3	23	19	深鉢・胴部	２号住居跡	土器 7-1 層・Q3-1 層、Q4-1 層・Q4- 下層		(22.60)		ボタン状突起、刺突、RL、沈線モチーフ、磨消縄文	Ⅱ群Ｅ類
4	23	19	深鉢	２号住居跡	土　器 6-1 層、5 層、Q3/4-1 層	(11.1)	14.50	4.40	LR、隆沈線モチーフ、内面ヨコナデ、煤付着	Ⅱ群Ｅ類
5	23	19	深鉢・口縁～胴部	２号住居跡	Q2 覆土上層、Q3 床面直上	24.0	(25.80)		LR	Ⅱ群Ｅ類
6	23	19	深鉢・口縁～胴部	２号住居跡	Q3 － 1 層、Q4-1 層	19.1	(22.30)		RL	Ⅱ群Ｅ類
7	24	20	深鉢・口縁～胴部	２号住居跡	土器２・土器４・土器６、１層	27.3	(23.50)		LR	Ⅱ群Ｅ類
8	24	20	深鉢・口縁～胴部	２号住居跡	土器６・土器７、Q3 覆土１・２層、Q4 覆土１・２層	22.0	(14.80)		RL	Ⅱ群Ｅ類
9	24	20	深鉢・口縁～胴部	２号住居跡	Q3 床直、Q3-2 層	(20.5)	(18.90)		LR	Ⅱ群Ｅ類
10	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q1-2 層		(4.70)		隆帯による渦巻文、刻み	Ⅱ群Ａ類
11	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q4		(4.00)		隆帯による渦巻文	Ⅱ群Ａ類
12	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	２層、炉２覆土		(7.10)		隆帯による渦巻文、RL	Ⅱ群Ａ類
13	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q3 覆土上位		(5.70)		隆帯文、RL ヵ	Ⅱ群Ａ類
14	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q1 覆土		(5.80)		隆帯文、LR	Ⅱ群Ｂ類
15	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	２層		(3.75)		隆帯文、LR	Ⅱ群
16	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q3 覆土１層		(4.10)		口縁部無文、刺突文、LR	Ⅱ群Ｅ類・最花
17	24	20	注口・口縁～胴部	２号住居跡	Q3		(8.10)		LR	Ⅱ群Ｅ類
18	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q1 覆土上層		(3.65)		口縁端部 LR 原体圧痕、LR	Ⅰ群
19	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q3-2 層		(4.30)		LR	Ⅱ群
20	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	炉２覆土		(8.60)		LR	Ⅱ群
21	24	20	深鉢・口縁部	２号住居跡	土器 5-1 層		(12.80)		口縁部ナデ、LR、胴部上半煤付着	Ⅱ群
22	25	21	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q2 覆土上層、Q3 床面直上		(6.60)		横位 RL、斜位 RL	Ⅱ群
23	25	21	深鉢・口縁部	２号住居跡	Q2-4 層		(5.85)		LR	Ⅱ群
24	25	21	深鉢・口縁部	２号住居跡	２層		(4.10)		RL ヵ、煤付着	Ⅱ群
25	25	21	深鉢・胴部	２号住居跡	Q4 覆土下層		(17.00)		RL ヵ、胴部上半煤付着	Ⅱ群
26	25	21	深鉢・底部	２号住居跡	土器９－１層、Q3－１層		(13.10)	9.90	LR、底面木葉痕	Ⅱ群
27	25	21	深鉢・底部	２号住居跡	土器 3-1 層、土器 6-1 層		(10.30)	11.05	付加条 LRL、底面木葉痕	Ⅱ群
28	25	21	深鉢・底部	２号住居跡 Q4 覆土上層・下層、４号住居跡炉２層			(4.65)	9.40	RL	Ⅱ群
29	25	21	深鉢・底部	２号住居跡	土器 1-1 層		(3.15)	6.65	無文	Ⅱ群
30	25	21	深鉢・底部	２号住居跡	Q2 覆土上層、Q3 床面直上		(1.90)		LR、底面木葉痕	Ⅱ群
31	25	21	深鉢・底部	２号住居跡	Q3 上層		(1.80)	4.50	無文、底面圧痕	Ⅱ群
32	25	21	深鉢・胴部	２号住居跡	土器 2-1 層		(9.10)	7.30	磨消縄文 LR	Ⅱ群Ｅ類
33	25	21	深鉢・口縁部	４号住居跡	Q3 覆土		(6.90)		LR	Ⅱ群
34	25	21	深鉢・口縁部	４号住居跡	Q3 覆土		(4.50)		LR、煤付着	Ⅱ群
35	25	21	深鉢・口縁部	４号住居跡	Q3 覆土		(5.10)		LR	Ⅱ群
36	25	21	深鉢・口縁部	４号住居跡	床から 5㎝土器１		(8.40)		LR、補修孔	Ⅱ群
37	25	21	深鉢・底部	４号住居跡	Q4 床から 5㎝		(10.90)		LR、底面木葉痕	Ⅱ群
38	26	22	深鉢・口縁～胴部	４号住居跡	炉２覆土	15.3	(14.75)		付加条 RLR、結節回転文	Ⅱ群Ｅ類
39	26	22	深鉢・胴部	４号住居跡	土器１、床から 5㎝	(24.5)	(13.35)		付加条 LRL	Ⅱ群Ｅ類
40	26	22	深鉢・底部	４号住居跡	Q3 覆土		(1.60)	16.00	無文	Ⅱ群
41	26	22	深鉢・底部	４号住居跡	床から５～10㎝、土器２		(5.40)	11.30	ＬＲ	Ⅱ群
42	26	22	深鉢・底部	４号住居跡	床から 5㎝、土器１		(2.65)	11.40	ケズリ	Ⅱ群
43	26	22	深鉢・底部	４号住居跡	Q3 覆土		(1.90)	8.60	無文	Ⅱ群
44	26	22	深鉢・口縁部	５号住居跡	ベルト南覆土		(2.80)		隆帯、RL ヵ、煤付着多	Ⅱ群Ｃ類
45	26	22	深鉢・胴部	５号住居跡	ベルト北覆土		(5.20)		LR、ループ、繊維多	Ⅰ群
46	26	22	深鉢・口縁部	６号住居跡	覆土		(6.15)		口縁端部刺突文、LR、煤付着、繊維多	Ⅰ群
47	26	22	深鉢・口縁部	６号住居跡	覆土		(4.30)		口縁端部刺突文、LR、繊維	Ⅰ群
48	26	22	深鉢・口縁部	６号住居跡	覆土		(4.50)		綾杉状文	Ⅰ群
49	26	22	深鉢・口縁～胴部	７号住居跡	土器３・床から 20㎝	(27.8)	(28.90)		LR	Ⅱ群Ｅ類
50	26	22	深鉢・口縁～胴部	７号住居跡	ベルト南覆土上層	16.4	(22.80)		付加条 LRL	Ⅱ群Ｅ類
51	27	23	深鉢・口縁～胴部	７号住居跡	土器１・２	25.3	(21.60)		RL、口縁部内面煤付着	Ⅱ群Ｅ類
52	27	23	深鉢・口縁部	７号住居跡	ベルト北覆土下位		(5.70)		隆帯	Ⅱ群Ｃ類
53	27	23	深鉢・口縁部	７号住居跡	Ⅰ層		(4.20)		LR	Ⅱ群Ｂ類
54	27	23	深鉢・口縁部	７号住居跡	P4		(3.50)		隆帯	Ⅱ群Ｃ類

掲載番号	図	写図	種別	出土地点	層位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	文様	分類
55	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	1号陥し穴上部2層		(6.70)		隆帯ナゾリ、LR	Ⅱ群D類
56	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ベルト南上位		(3.90)		RL、煤付着	Ⅱ群D類
57	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ベルト南下位		(3.50)		LRヵ	Ⅱ群D類
58	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ベルト南覆土上位		(16.80)		口縁部オサエ、LR	Ⅱ群E類
59	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ベルト南下位		(6.70)		LRヵ、煤付着多	Ⅱ群C類
60	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	ベルト南上位		(4.40)		LR、煤付着	Ⅱ群
61	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	水道管埋設土上位		(7.80)		RL	Ⅱ群
62	27	23	深鉢・胴部	7号住居跡	ベルト北下位		(8.80)		RL、沈線3条	Ⅱ群B類
63	27	23	深鉢・口縁部	7号住居跡	Ⅰ層		(3.40)		LRヵ	Ⅱ群C類
64	27	23	深鉢・胴部	7号住居跡	炉1層		(2.80)		隆帯、LR	Ⅱ群C類
65	27	23	深鉢・胴部	7号住居跡	炉1層		(4.80)		RL	Ⅱ群
66	27	23	深鉢・底部	7号住居跡	ベルト南		(1.10)	4.70	無文	Ⅱ群
67	27	23	深鉢・口縁～胴部	8号住居跡	水道管側2層	12.9	(13.30)		口縁部隆帯、沈線モチーフ、LR、煤付着多	Ⅱ群A類
68	27	23	深鉢・口縁部	8号住居跡	ベルト北覆土		(8.70)		隆帯、RL	Ⅱ群C類
69	28	23	深鉢・口縁部	8号住居跡	水道管側2層	19.5	(7.90)		突起、口縁部無文、LR、70と同一個体	Ⅱ群
70	28	23	深鉢・口縁部	8号住居跡	水道管側2層		(10.90)		突起、口縁部無文、LR、69と同一個体	Ⅱ群
71	28	23	深鉢・口縁部	8号住居跡	Q3-上層		(4.20)		微隆起、RLヵ	Ⅱ群C類
72	28	23	深鉢・口縁部	8号住居跡	Q1-上層		(3.00)		沈線、LRヵ	Ⅱ群C類
73	28	24	深鉢・口縁～胴部	8号住居跡	水道管側2層	18.9	(19.50)		口縁部隆帯、RL	Ⅱ群C類
74	28	24	深鉢・口縁部	8号住居跡	Q3下層		(5.80)		波頂部に貼り付け隆帯、縦長刺突文	Ⅱ群B類
75	28	24	深鉢・口縁部	8号住居跡	Q4-2層		(5.20)		口縁頂下に渦巻文、隆帯	Ⅱ群C類
76	28	24	深鉢・口縁部	8号住居跡	Q4-2層		(3.20)		隆帯、沈線、RL	Ⅱ群C類
77	28	24	深鉢・胴部	8号住居跡	床面直上		(3.35)		瘤状貼付、RL	Ⅱ群B類
78	28	24	深鉢・胴部	8号住居跡	―		(4.50)		磨消縄文、LR	Ⅱ群E類
79	28	24	深鉢・底部	8号住居跡	床面直上		(7.50)	5.00	LR	Ⅱ群
80	28	24	深鉢・底部	8号住居跡	床面直上		(6.65)	6.60	LRヵ	Ⅱ群
81	28	24	深鉢・底部	8号住居跡	Q4覆土2層		(2.90)	6.40	無文	Ⅱ群
82	28	24	深鉢・底部	8号住居跡	Q1覆土上位		(1.70)	5.60	無文	Ⅱ群
83	28	24	深鉢・口縁部	10号住居跡	覆土		(4.10)		LR	Ⅱ群
84	28	24	深鉢・胴部	10号住居跡	土器1		(15.80)		RL、部分的に煤付着、内面剥落多	Ⅱ群
85	28	24	深鉢・底部	11号住居跡	炉		(1.30)	(7.40)	RL	Ⅱ群
86	29	24	深鉢・口縁～胴部	12号住居跡	土器1・2	15.4	(13.10)		口縁部隆沈線、波状文2本、沈線文3本	Ⅱ群C類
87	29	24	深鉢・口縁～胴部	12号住居跡	土器2	11.6	(17.50)		口縁頂下に渦巻文、沈線3本、下垂波状文2本、LR	Ⅱ群C類
88	29	24	深鉢・底部	12号住居跡	土器3		(13.80)	10.10	RL	Ⅱ群C類
89	29	24	深鉢・口縁部	12号住居跡	覆土		(2.40)		隆帯文、LR	Ⅱ群C類
90	29	24	深鉢・底部	12号住居跡	覆土		(4.30)		LR	Ⅱ群
91	29	24	深鉢・口縁部	13号住居跡	覆土		(9.10)		LR	Ⅰ群
92	29	24	深鉢・口縁部	1号土坑	覆土		(4.60)		RL	Ⅰ群
93	29	24	深鉢・口縁部	1号土坑	覆土		(1.90)		口縁部肥厚	Ⅰ群
94	29	24	深鉢・口縁部	2号土坑	覆土		(4.60)		複節LRL	Ⅰ群
95	29	24	深鉢・口縁部	2号土坑	覆土		(3.70)		口縁部ナゾリ、RL	Ⅰ群
96	29	24	深鉢・胴部	2号土坑	覆土下位		(3.80)		撚糸圧痕	Ⅰ群
97	29	24	深鉢・底部	2号土坑	覆土下位		(3.70)		LR、底面圧痕	Ⅰ群
98	29	25	深鉢・胴部	3号土坑	覆土		(18.40)		円形竹管状刺突、RL、99・100と同一個体	Ⅰ群
99	29	25	深鉢・口縁部	3号土坑	覆土下位		(5.50)		円形竹管状刺突、RL、98・100と同一個体	Ⅰ群
100	29	25	深鉢・口縁部	3号土坑	覆土		(3.55)		円形竹管状刺突、RL、98・99と同一個体	Ⅰ群
101	29	25	深鉢・口縁部	3号土坑	覆土		(3.30)		LR、内面剥落	Ⅱ群
102	29	25	深鉢・底部	3号土坑	覆土		(2.80)		尖底	Ⅰ群
103	29	25	深鉢・口縁部	4号土坑	底面		(2.30)		RL	Ⅰ・Ⅱ群
104	29	25	深鉢・口縁～胴部	5号土坑	検出面から－70㎝	(17.5)	(16.50)		口縁部刻み、ℓ	Ⅱ群
105	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	検出面から－30㎝	(34.7)	(16.00)		口縁部三単位突起、突起下隆帯渦巻文、LR、106・107と同一個体	Ⅱ群C類
106	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	検出面から－30㎝		(10.30)		口縁部三単位突起、突起下隆帯渦巻文、LR、105・107と同一個体	Ⅱ群C類
107	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	検出面から－30㎝		(12.20)		口縁部三単位突起、突起下隆帯渦巻文、LR、105・106と同一個体	Ⅱ群C類
108	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	覆土上位		(19.20)		隆帯、沈線3本、LR	Ⅱ群C類
109	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	1層	(21.5)	(10.10)		口縁頂下渦巻文、隆帯、沈線3本、LR	Ⅱ群C類
110	30	25	深鉢・口縁～胴部	6号土坑	底面		(20.30)		口縁部隆帯、沈線2本、LRヵ、内面下位煤付着	Ⅱ群C類
111	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	底面		(6.10)		横位平行隆線、RL、煤付着	Ⅱ群C類
112	30	25	深鉢・口縁部	6号土坑	覆土上位		(3.00)		瘤状突起、隆帯、煤付着	Ⅱ群
113	30	25	深鉢・口縁～胴部	6号土坑	覆土下位		(10.20)		LR、煤付着	Ⅱ群C類
114	31	26	深鉢・胴～底部	6号土坑	底面		(13.70)	7.00	沈線文2本、LR	Ⅱ群C類
115	31	26	深鉢・口縁部	6号土坑	覆土下位		(3.40)		ループLR	Ⅰ群
116	31	26	深鉢・口縁部	6号土坑	覆土下位		(3.50)		LR？	Ⅰ群

掲載番号	図	写図	種別	出土地点	層位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	文様	分類
117	31	26	深鉢・口縁部	6号土坑	覆土上位		(3.50)		LR、煤付着	Ⅱ群
118	31	26	深鉢・口縁部	6号土坑	底面		(3.70)		RL、繊維多	Ⅱ群
119	31	26	深鉢・胴部	6号土坑	覆土下位・底面		(16.00)		LR	Ⅱ群
120	31	26	深鉢・口縁部	6号土坑	覆土下位		(16.70)		隆帯、LR、胴部煤付着	Ⅱ群C類
121	31	26	深鉢・胴部	6号土坑	覆土下位		(22.75)		LR	Ⅱ群C類
122	31	26	深鉢・底部	6号土坑	底面		(7.00)	8.20	LR	Ⅱ群
123	31	26	深鉢・底部	6号土坑	覆土下位		(6.50)	9.00	LR	Ⅱ群
124	32	26	深鉢・胴部	7号土坑	6層		(12.90)		隆帯、LR	Ⅱ群C類
125	32	26	深鉢・口縁部	7号土坑	覆土上位		(7.40)		複節 LRL、全面煤付着、繊維多	Ⅰ群
126	32	26	深鉢・口縁部	7号土坑	覆土上位		(5.30)		ループ、煤付着	Ⅰ群
127	32	26	深鉢・口縁部	7号土坑	覆土上位		(2.30)		RL	Ⅰ群
128	32	26	深鉢・胴部	7号土坑	覆土上位		(17.40)		LR、複節 RLR	Ⅱ群
129	32	26	深鉢・胴部	8号土坑	覆土上位		(7.90)		RL、内面上部煤付着	Ⅱ群
130	32	26	深鉢・口縁部	11号土坑	覆土		(3.80)		口縁部隆帯刻み、LR	Ⅱ群A類
131	32	26	深鉢・口縁部	11号土坑	覆土		(5.20)		口縁部圧痕、LR	Ⅱ群
132	32	26	深鉢・口縁部	11号土坑	覆土		(4.25)		複節 RLR	Ⅱ群
133	32	26	深鉢・口縁部	11号土坑	覆土		(2.05)		LR ヵ	Ⅱ群
134	32	26	深鉢・底部	11号土坑	覆土		(2.00)		LR、底面 LR ヵ	Ⅱ群
135	32	27	深鉢・口縁～胴部	13号土坑	覆土中位	25.2	(23.90)		口縁部隆沈線、平行沈線5・6本、波線2本	Ⅱ群C類
136	32	27	深鉢・口縁部	13号土坑	覆土南側		(5.80)		隆帯、LR、煤付着	Ⅱ群C類
137	32	27	深鉢・底部	13号土坑	覆土北側		(1.50)		刻み	Ⅱ群
138	32	27	台部	13号土坑	覆土中位		(3.80)		輪積痕著しい	Ⅱ群
139	32	27	深鉢・口縁部	14号土坑	覆土上位		(8.20)		口縁端部縄文圧痕ヵ、RL	Ⅱ群
140	33	27	深鉢・口縁～胴部	15号土坑	4層	26.3	(26.70)		沈線文、LR、口縁部文様帯中位以下胴部煤付着	Ⅱ群C類
141	33	27	深鉢・口縁～胴部	15号土坑	―	18.4	(16.50)		口縁部隆帯、LR、口縁部～胴部煤付着、内面胴部下位煤付着	Ⅱ群C類
142	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(4.50)		隆帯、RL	Ⅱ群B類
143	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(3.55)		LR、内面下半煤付着	Ⅱ群C類
144	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(2.40)		Ⅰ圧痕	Ⅰ群
145	33	27	深鉢・胴部	15号土坑	覆土		(3.90)		隆帯上刺突、LR、内面下半煤付着	Ⅱ群
146	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(3.30)		ループ、LR	Ⅰ群
147	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(5.10)		LR、煤付着	Ⅱ群
148	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(6.90)		綾杉、煤付着、繊維多	Ⅰ群
149	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(2.40)		RL	Ⅰ群
150	33	27	深鉢・口縁部	15号土坑	覆土		(3.90)		LR、繊維少	Ⅱ群
151	33	27	深鉢・底部	15号土坑	1層		(4.90)	7.60	無文	Ⅱ群
152	33	28	深鉢・底部	19号土坑	覆土			(5.90)	底面破片	Ⅱ群
153	33	28	深鉢・胴部	21号土坑	1層		(7.40)		LR、煤付着	Ⅱ群C類
154	33	28	深鉢・口縁部	21号土坑	1層		(3.00)		隆帯、刺突	Ⅱ群
155	33	28	底部	21号土坑	1層		(3.30)		調整少ない	Ⅰ・Ⅱ群
156	33	28	深鉢・胴部	2号陥し穴	覆土中位		(4.20)		RL	Ⅱ群
157	34	28	深鉢・口縁～胴部	4Eグリッド	―	24.0	(14.90)		隆沈線、RL	Ⅱ群C類
158	34	28	深鉢・口縁部	補点1と4号住居跡間	Ⅳ層上面		(7.35)		隆線、RL	Ⅱ群C類
159	34	28	深鉢・口縁部	12Oグリッド	―		(3.65)		隆帯、沈線、複節 RLR、160と同一個体	Ⅱ群C類
160	34	28	深鉢・胴部	表採	Ⅰ層		(6.95)		沈線2本、複節 RLR、159と同一個体	Ⅱ群C類
161	34	28	深鉢・口縁部	11Nグリッド	―		(6.20)		口縁頂下渦巻文、沈線3本、RL、煤付着	Ⅱ群C類
162	34	28	深鉢・口縁部	表採	Ⅰ層		(3.70)		口縁部隆帯	Ⅱ群
163	34	28	深鉢・口縁部	表採	Ⅰ層		(5.90)		隆帯文、ℓ	Ⅱ群C類
164	34	28	深鉢・胴部	1～2号住居跡間	―		(10.05)		沈線、LR、部分的に煤付着	Ⅱ群C類
165	34	28	深鉢・底部	表採	Ⅰ層		(3.80)	11.40	ケズリ	Ⅱ群
166	34	28	擂鉢胴部	1～2号住居跡間	Ⅰ層		(6.30)			
167	34	28	甕胴部	表採	Ⅰ層		(7.70)			

第５表　石器観察表

掲載番号	図	写図	出土地点	出土層位	器種	法量（mm）			重量（g）	石質
						長軸	短軸	厚さ		
173	35	29	１号住居跡	１層	特殊磨石	111.9	79.5	50.2	439.1	デイサイト（中生代白亜紀・北上山地）
174	35	29	１号住居跡　ピット１	覆土	打製石斧	72.6	50.0	22.0	92.1	砂岩（中生代・北上山地）
175	35	29	１号住居跡　炉石１	－	多面体敲石	76.4	67.6	46.1	255.3	チャート（中生代・北上山地）
176	35	29	１号住居跡	－	多面体敲石	63.2	46.2	26.6	75.6	チャート（中生代・北上山地）
177	35	29	１号住居跡　ピット１	覆土	二次加工	50.3	61.2	21.8	70.7	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
178	35	29	１号住居跡	１層	礫器	89.3	29.6	15.5	60.9	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
179	35	29	２号住居跡　Q4	床面直上	石鏃	20.4	12.8	4.6	0.9	頁岩（中生代・北上山地）
180	35	29	２号住居跡　Q1	上層	石匙	28.6	24.7	8.4	4.9	頁岩（中生代・北上山地）
181	35	29	２号住居跡　Q1	１層	石錐	50.1	25.1	8.6	10.4	頁岩（中生代・北上山地）
182	35	29	２号住居跡　Q4	１層	二次加工	20.8	22.0	13.9	6.5	頁岩（中生代・北上山地）
183	35	29	２号住居跡　Q3	上層	二次加工	31.7	20.1	4.9	3.0	頁岩（中生代・北上山地）
184	35	29	２号住居跡　Q3	上層	磨製石斧	58.9	35.3	14.2	46.9	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
185	36	29	２号住居跡	検出面	磨製石斧	86.0	53.0	26.4	214.2	細粒閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
186	36	29	２号住居跡　Q4	２層	磨製石斧	89.4	43.7	22.5	136.1	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
187	36	29	２号住居跡	５層	打製石斧	40.1	34.5	8.2	14.0	頁岩（中生代・北上山地）
188	36	29	２号住居跡　Q1	１層	打製石斧	51.6	43.1	13.6	43.2	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
189	36	29	２号住居跡　Q4	下層	磨製石斧未成品	109.2	50.1	34.2	230.9	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
190	36	29	２号住居跡　Q3	トレンチ	磨製石斧未成品	123.6	69.2	39.0	502.2	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
191	36	29	２号住居跡　Q4	下層	磨製石斧未成品	136.8	66.5	45.7	535.0	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
192	36	29	２号住居跡　Q3	下層	磨製石斧未成品	125.9	69.2	36.0	459.0	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
193	37	29	２号住居跡　Q3	上層	多面体敲石	57.5	52.8	49.9	120.3	チャート（中生代・北上山地）
194	37	29	２号住居跡　炉２	覆土	多面体敲石	67.8	51.9	38.5	131.5	チャート（中生代・北上山地）
195	37	30	２号住居跡　Q3 炉付近	２層	敲石	124.7	74.4	61.5	895.3	砂岩（中生代・北上山地）
196	37	30	２号住居跡　Q4	下層	敲石	146.6	80.8	68.1	1124.8	砂岩（中生代・北上山地）
197	37	30	２号住居跡　Q4	上層	特殊磨石	66.6	79.3	63.3	356.6	砂岩（中生代・北上山地）
198	37	30	３号住居跡　Q2	１層	敲石	73.2	66.3	46.6	324.1	チャート（中生代・北上山地）
199	38	30	４号住居跡　炉石 23	－	多面体敲石	70.5	57.3	45.9	263.6	チャート（中生代・北上山地）
200	38	30	４号住居跡　土器２	床から５～10㎝上	石皿	81.5	99.2	47.3	384.5	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
201	38	30	４号住居跡　炉石３	－	石皿	(10.4)	(16.5)	(6.1)	872.8	砂岩（中生代白亜紀～新生代古第三紀・久慈層群野田層群）
202	38	30	５号住居跡　ベルト以北	覆土	剥片	38.5	35.8	28.3	28.8	頁岩（中生代・北上山地）
203	38	30	６号住居跡	覆土	二次加工剥片	65.5	42.8	15.8	45.1	頁岩（中生代・北上山地）
204	38	30	６号住居跡	覆土	特殊磨石	51.1	45.4	32.6	57.6	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
205	39	30	７号住居跡　ベルト以北	覆土下位	石匙	52.1	29.5	8.4	8.6	頁岩（中生代・北上山地）
206	39	30	７号住居跡　土器３・ベルト以南	床から－30㎝・覆土下位	多面体敲石	66.8	61.6	33.1	142.5	チャート（中生代・北上山地）
207	39	30	７号住居跡　水道管壁	下層・ピット２上	礫器	63.6	66.1	29.9	157.7	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
208	39	30	７号住居跡　ベルト以南	覆土下位	石錘	45.6	79.0	17.9	97.3	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
209	39	30	７号住居跡　ベルト以南	覆土上位	磨石	150.9	78.0	55.3	1098.6	細粒閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
210	39	31	７号住居跡　ベルト以南	覆土上位	石皿	160.0	176.8	59.1	1619.0	砂岩（中生代白亜紀～新生代古第三紀・久慈層群・野田層群）
211	39	31	８号住居跡　Q3	覆土上層	石鏃	29.8	12.8	7.2	2.2	頁岩（中生代・北上山地）
212	39	31	８号住居跡　Q1	覆土上層	石鏃	29.1	18.9	4.6	2.1	頁岩（中生代・北上山地）
213	39	31	８号住居跡　Q1	覆土下層	石匙	29.5	22.5	7.3	3.5	頁岩（中生代・北上山地）
214	40	31	８号住居跡　Q3	２層	磨製石斧	105.1	42.8	23.2	148.3	細粒閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
215	40	31	８号住居跡　Q1	上層	敲石	87.1	80.0	39.2	408.2	砂岩（中生代・北上山地）
216	40	31	８号住居跡　炉１・炉石５	－	礫器	138.2	184.2	57.8	2078.4	砂岩（中生代・北上山地）
217	40	31	９号住居跡	覆土	石鏃	27.4	15.2	6.8	2.3	頁岩（中生代・北上山地）

掲載番号	図	写図	出土地点	出土層位	器種	法量（mm）			重量（g）	石質
						長軸	短軸	厚さ		
218	40	31	11 号住居跡　炉石 3	―	敲石	145.2	63.0	40.4	502.9	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
219	41	31	11 号住居跡　炉石 4	―	敲石	111.0	79.4	52.4	673.7	砂岩（中生代・北上山地）
220	41	31	12 号住居跡	覆土	打製石斧	51.2	36.5	14.2	33.1	ヒン岩（中生代白亜紀・北上山地）
221	41	31	12 号住居跡	覆土	多面体敲石	66.2	61.0	43.4	198.4	チャート（中生代・北上山地）
222	41	31	12 号住居跡	覆土	礫器	92.9	134.6	42.2	548.3	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
223	41	31	13 号住居跡	覆土	敲石	113.6	75.8	56.1	684.2	砂岩（中生代・北上山地）
224	41	32	2 号土坑	覆土下位	二次加工剥片	68.2	29.9	7.6	17.6	頁岩（中生代・北上山地）
225	42	32	2 号土坑	覆土下位	多面体敲石	50.2	56.6	33.9	97.9	チャート（中生代・北上山地）
226	42	32	3 号土坑	覆土下位	石鏃	17.4	14.0	3.4	0.9	頁岩（中生代・北上山地）
227	42	32	3 号土坑	覆土下位	石匙	34.1	46.8	7.4	8.4	頁岩（中生代・北上山地）
228	42	32	3 号土坑	覆土	打製石斧	49.6	29.7	8.5	20.7	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
229	42	32	3 号土坑	覆土	特殊磨石	138.6	82.5	53.4	809.4	デイサイト（中生代白亜紀・北上山地）
230	42	32	4 号土坑	覆土	打製石斧	50.7	36.3	9.5	23.4	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
231	42	32	6 号土坑	覆土上位	特殊磨石	36.4	34.5	12.4	18.6	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
232	42	32	6 号土坑	覆土下位	打製石斧	54.5	45.9	14.2	35.6	頁岩（中生代・北上山地）
233	42	32	6 号土坑	覆土下位	打製石斧	49.5	38.2	12.0	29.3	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
234	42	32	7 号土坑	覆土上位	石鏃	23.4	15.3	2.5	0.8	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
235	42	32	7 号土坑	覆土上位	石匙	45.6	15.8	7.9	5.2	頁岩（中生代・北上山地）
236	42	32	7 号土坑	覆土上位	磨製石斧	61.0	34.5	13.9	45.0	頁岩（中生代・北上山地）
237	43	32	7 号土坑	覆土上位	敲石	107.2	93.5	41.6	634.8	花崗岩（中生代白亜紀・北上山地）
238	43	32	9 号土坑	南側検出面	二次加工	35.7	54.1	11.9	20.8	頁岩（中生代・北上山地）
239	43	32	11 号土坑	覆土	二次加工	19.4	22.3	4.0	1.7	流紋岩（中生代白亜紀・北上山地）
240	43	32	11 号土坑	覆土	打製石斧	48.0	38.0	10.1	24.5	砂岩（中生代・北上山地）
241	43	32	13 号土坑	覆土北側	打製石斧	50.1	39.5	13.4	33.4	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
242	43	32	13 号土坑	覆土中位	礫器	115.8	138.0	51.9	1274.4	細粒花崗閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
243	43	32	15 号土坑	覆土	二次加工剥片	34.5	15.0	8.1	4.1	頁岩（中生代・北上山地）
244	43	32	15 号土坑	覆土下位	石錐	55.4	14.7	7.4	5.5	頁岩（中生代・北上山地）
245	43	33	15 号土坑	覆土	打製石斧	75.9	38.2	10.8	43.7	細粒閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
246	44	33	15 号土坑	覆土	多面体敲石	59.7	46.7	18.3	66.6	チャート（中生代・北上山地）
247	44	33	15 号土坑	覆土	敲石	68.4	59.8	24.3	101.1	頁岩（中生代・北上山地）
248	44	33	15 号土坑	覆土	礫器	148.9	126.4	47.1	1234.6	チャート（中生代・北上山地）
249	44	33	15 号土坑	6 号住居跡床面から－ 110cm	礫器	83.5	128.2	51.0	727.1	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
250	44	33	15 号土坑	覆土	磨石	97.1	74.6	60.3	605.8	花崗岩（中生代白亜紀・北上山地）
251	45	33	19 号土坑	覆土	打製石斧	55.4	40.2	13.9	37.0	細粒閃緑岩（中生代白亜紀・北上山地）
252	45	33	ピット 1	覆土中位	礫器	219.2	92.9	63.1	1554.2	ヒン岩（中生代白亜紀・北上山地）
253	45	33	14M グリッド　2 号住居跡付近	Ⅴ層	石錐	34.7	24.7	7.4	2.6	頁岩（中生代・北上山地）
254	45	33	13P グリッド	―	石鏃未成品	46.7	21.4	6.3	6.1	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
255	45	33	2 号住居跡隣接東側	Ⅰ層	打製石斧	70.9	44.1	16.2	69.1	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
256	45	33	5D グリッド	―	打製石斧	74.9	38.4	15.8	48.9	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
257	45	33	10K グリッド	―	凹石	95.2	49.2	40.5	295.6	ホルンフェルス（中生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地）
258	45	33	表採	Ⅰ層	敲石	80.3	70.2	34.4	275.7	砂岩（中生代・北上山地）

第６表　土製品観察表

掲載番号	図	写図	種別	出土地点	層位	縦（cm）	横（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
168	34	28	粘土塊	２号住居跡	炉２覆土	2.5	1.5	1.3	2.7
169	34	28	粘土塊	２号住居跡	Q3 覆土上層	2.4	2.6	1.4	6.3
170	34	28	粘土塊	２号住居跡	Q41 層	2.6	1.8	1.4	4.6
171	34	28	粘土塊	４号住居跡	炉２覆土	2	1.95	1.4	2.9
172	34	28	粘土塊	13 号土坑	覆土中位	3	2.9	2.1	13.1

第７表　コハク・骨観察表

掲載番号	図	写図	種別	出土地点	層位
259	－	33	コハク	４号土坑	１層
260	－	33	コハク	６号土坑	検出面から－ 155cm
261	－	33	骨	６号土坑	検出面から－ 120cm

Ⅵ　自然科学分析
放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

下村遺跡は、岩手県下閉伊郡普代村第 3 地割字黒崎 18 番地 1 ほか（北緯 40° 0.05′ 3″、東経 141° 55′ 42.8″）に所在する。測定対象試料は、7 号住居の床面から出土した木炭 3 点である（表 1）。

この住居跡は焼失住居で、測定対象とした木炭は屋根構築材が炭化したものと捉えられている。時期は縄文時代中期中葉から後葉頃と推定されている。

2　測 定 の 意 義

試料が出土した住居跡の年代を検討する。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（2）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測　定　方　法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算　出　方　法

（1）$\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。^{14}C 年代と誤

差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（３）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは２標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下１桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

６　測　定　結　果

測定結果を表１、２に示す。

試料の^{14}C年代は、4080 ± 30yrBP（炭化物・1）から4000 ± 30yrBP（炭化物・3）の狭い範囲にまとまる。暦年較正年代（1σ）は、最も古い炭化物・1が4783 ～ 4523cal BPの間に３つの範囲、最も新しい炭化物・3が4515 ～ 4427cal BPの間に２つの範囲で示される。３点の年代値はおおむね近いが、若干幅がある。推定される縄文時代中期中葉から後葉におおむね含まれるが、炭化物・3はやや新しい値となっている（小林2017、小林編2008）。

なお、今回の試料はすべて木炭であるため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる（古木効果）。今回測定された試料にはいずれも樹皮が確認されていないことから、試料となった木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

試料の炭素含有率はいずれも約70%の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表１　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C（‰）（AMS）	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-181680	炭化物・1	７号住居　床面	木炭	AAA	-26.10 ± 0.21	4,080 ± 30	60.17 ± 0.20
IAAA-181681	炭化物・2	７号住居　床面	木炭	AAA	-25.95 ± 0.21	4,050 ± 30	60.38 ± 0.20
IAAA-181682	炭化物・3	７号住居　床面	木炭	AAA	-26.38 ± 0.19	4,000 ± 30	60.78 ± 0.21

［IAA登録番号：#9355］

表２　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-181680	4,100 ± 30	60.03 ± 0.20	4,081 ± 27	4783calBP - 4767calBP（10.2%） 4612calBP - 4596calBP（ 8.3%） 4586calBP - 4523calBP（49.6%）	4805calBP - 4761calBP（15.8%） 4696calBP - 4674calBP（ 3.0%） 4647calBP - 4515calBP（70.6%） 4472calBP - 4446calBP（ 6.0%）
IAAA-181681	4,070 ± 30	60.26 ± 0.20	4,052 ± 26	4570calBP - 4514calBP（43.4%） 4474calBP - 4445calBP（24.8%）	4783calBP - 4767calBP（ 4.0%） 4611calBP - 4596calBP（ 2.4%） 4585calBP - 4436calBP（89.0%）
IAAA-181682	4,020 ± 30	60.60 ± 0.21	4,000 ± 27	4515calBP - 4472calBP（48.2%） 4446calBP - 4427calBP（20.0%）	4522calBP - 4420calB（95.4%）

［参考値］

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代 – 土器型式編年と炭素 14 年代 –, 同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器 , 総覧縄文土器刊行委員会 , アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

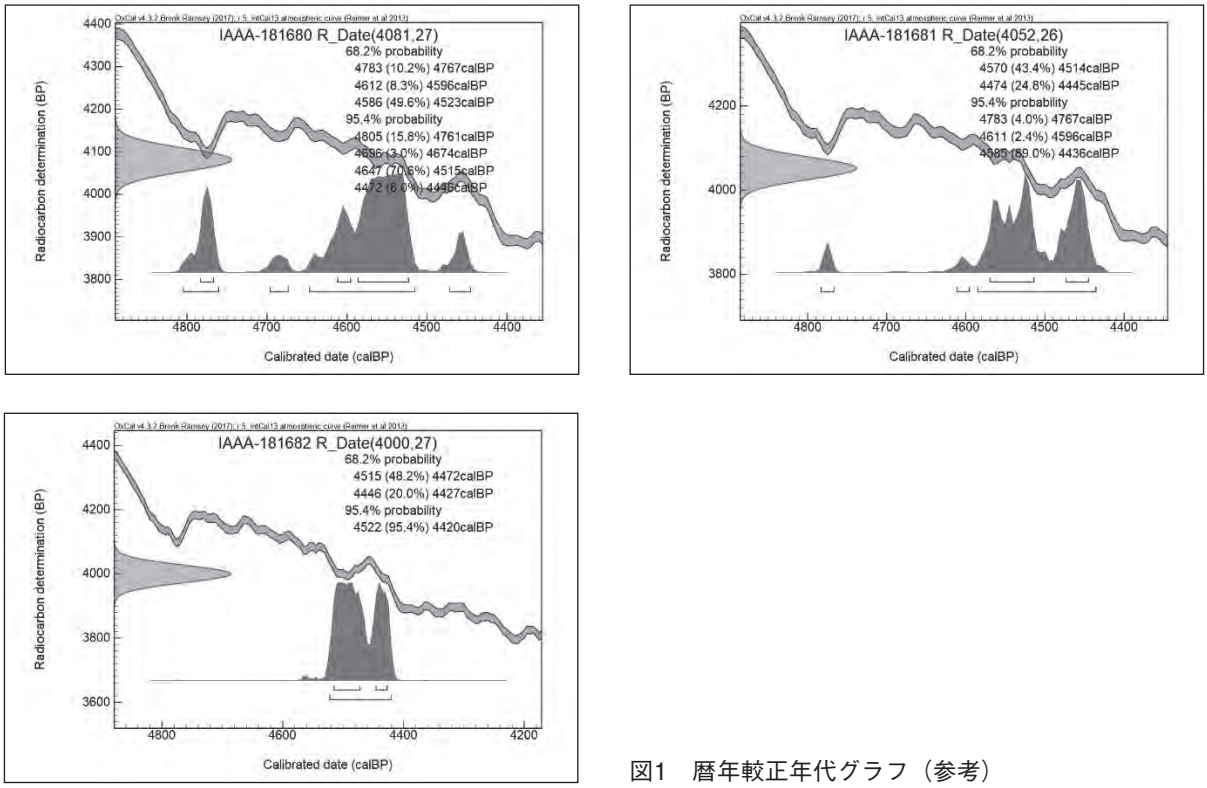


図1　暦年較正年代グラフ（参考）

Ⅶ　総　　括

今回の下村遺跡発掘調査によって検出した遺構は、住居跡13棟、土坑20基、陥し穴状遺構２基、柱穴状小土坑１個である。

本章では、下村遺跡住居跡・土坑・出土土器・放射性炭素年代測定結果から考えられる遺構の時期と集落構造について若干の考察を加える。

１　住　居　跡

今回検出した住居跡13棟を第46図に示した。住居跡は３種の大きさに分類することができる。

大型住居と考えられるのは、２・３・７・８・13号住居跡である。13号住居跡は一部しか調査できなかったが、直線に近い壁が検出されたため大型住居跡の可能性が高いと考えられる。２・３・７・８号住居跡に共通するのは、炉が２基作られていること、そして深い柱穴が作られていることである。炉２基は、石囲炉１基＋地床炉１基で構成されていることも共通している。大型住居跡は、調査区の中でも標高の高い地点にまとまりがあり、さらに２・３・８号住居跡には重複が認められることから、大型住居跡が検出された地点は集落の中心部或いは中心部に近いことが推測できる。

中型住居跡と考えられるのは１・４・10号住居跡である。１号住居跡には石囲炉１基、地床炉が１基検出された。４号住居跡からは複式炉が検出された。１号住居跡のピットからは大木８a式土器片、４号住居跡から出土した土器は大部分が大木10式期であるため、炉形態の違いは時期の違いと考えられる。中型住居跡は、調査区内では大型住居跡域の外側のやや低い地点に位置している。なお、11号住は複式炉周辺しか検出できなかったため第46図に掲載しなかったが、炉形態が４号住居跡に類似するため中型住居跡の可能性が考えられる。

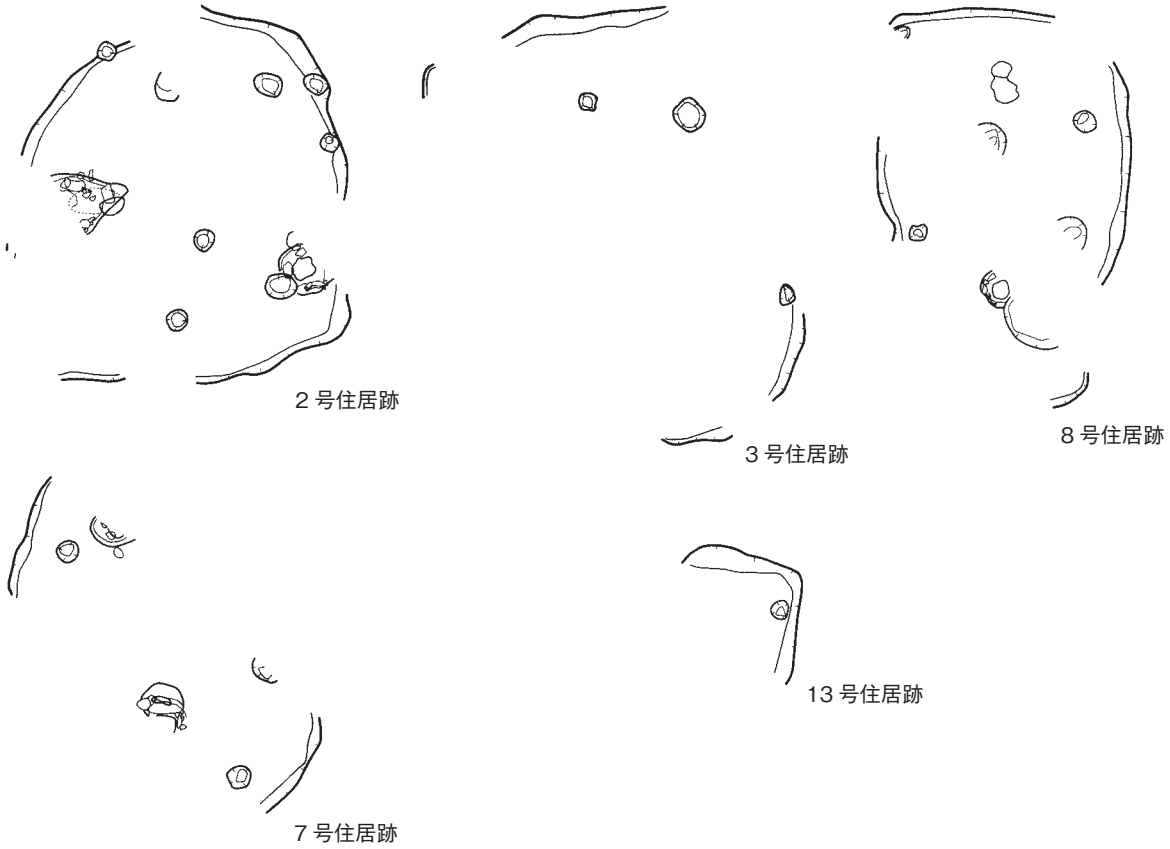
小型住居跡と考えられるのは、５・６・12号住居跡である。共通する特徴は、柱穴がないことである。21号土坑に近い12号住居跡からは土器３個体が出土している。うち２点は地床炉上面から出土している。調査区内では、大型住居跡の外側に配置されている状況が覗える。

２　土　　坑

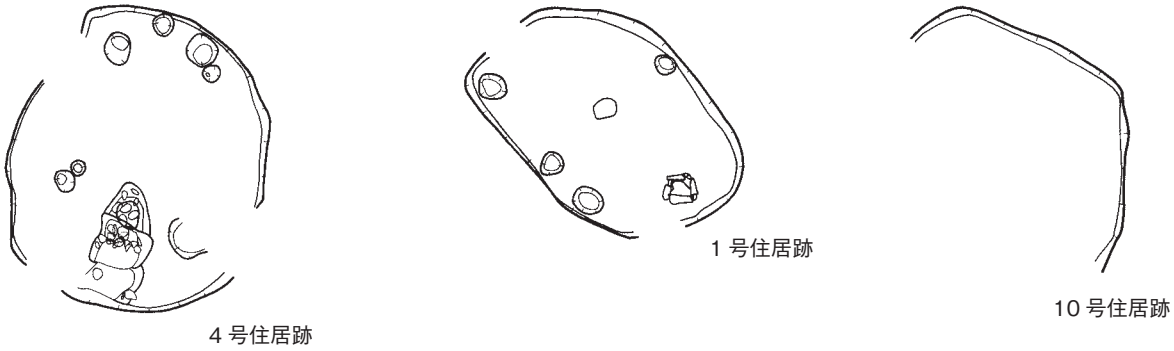
土坑は20基検出した。第47図土坑集成図にまとめたとおり、大型フラスコ状土坑・小型フラスコ状土坑・ビーカー状土坑・楕円形土坑の４種に分類するこができる。

大型フラスコ状土坑は３・６・７・８・12・15号土坑が該当する。開口部径２m弱、深さ・底部径２m強のフラスコ状を呈し、このような大型フラスコ状土坑は住居域から離れた北側傾斜地点にまとまっている。３・６・15号土坑からは遺物が多量に出土している。特に６・15号土坑の出土量は多い。８・12号土坑からは遺物はほとんど出土していない。堆積状況を観察すると、遺物が多い３・６・15号土坑は黒褐色土と褐色土が互層をなすなど、土坑使用後に開口していたと考えられる。一方、遺物がほとんど出土していない８・12号土坑は堆積単位が大きく、使用後に長く開口していたとは考え難い。12号土坑は10号住居跡構築に伴って埋められた可能性が考えられるが、８号土坑の近くにあるのは２号陥し穴状遺構のみである。８号土坑の堆積には、さらに別遺構の構築が関わっている可能性もある。

大型住居



中型住居



小型住居

1/100

第46図　住居跡集成図

大型フラスコ状土坑

3号土坑

6号土坑

15号土坑

8号土坑

12号土坑

7号土坑

小型フラスコ状土坑

4・5号土坑

13号土坑

ビーカー状土坑

1号土坑

11号土坑

14号土坑

17号土坑

2号土坑

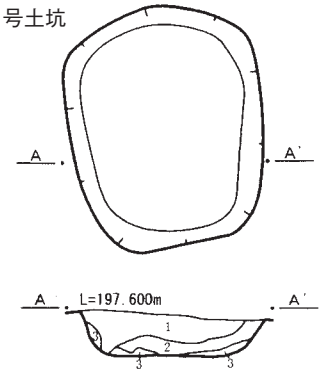
9号土坑

16号土坑

18号土坑

楕円形土坑

21号土坑



第47図　土坑集成図

小型のフラスコ状土坑は４・５・13号土坑である。大型と比較すると圧倒的に小さい。遺物は比較的多く出土している。検出される位置は中型住居跡域から大型フラスコ状土坑域にかけてまとまる傾向が認められる。

ビーカー状土坑は１・２・９・11・14・16・17・18号土坑が該当する。１・11・14・17号土坑は浅く、２・９・16・18号土坑は寸胴形である。遺物は少ない。検出位置は、大型・中型住居跡域に限定される。検出位置及び規模の観点から、住居域で日常的に使用する貯蔵穴である可能性が考えられる。

楕円形土坑は21号土坑のみである。大型住居跡よりも若干高い地点に位置し、近くに貯蔵穴は認められない。堆積状況から、人為的に埋め戻した可能性がある。また、他の土坑と形状・規模・検出位置が明らかに異なり、墓の可能性が考えられる。

３　土　　器

今回の調査で出土した土器は、大部分が遺構内資料である。第48・49図に全体の形状が分かる土器を集成した。土器から考えられる遺構の時期は以下のとおりである。

大木８a式期…１号住居跡（中型）

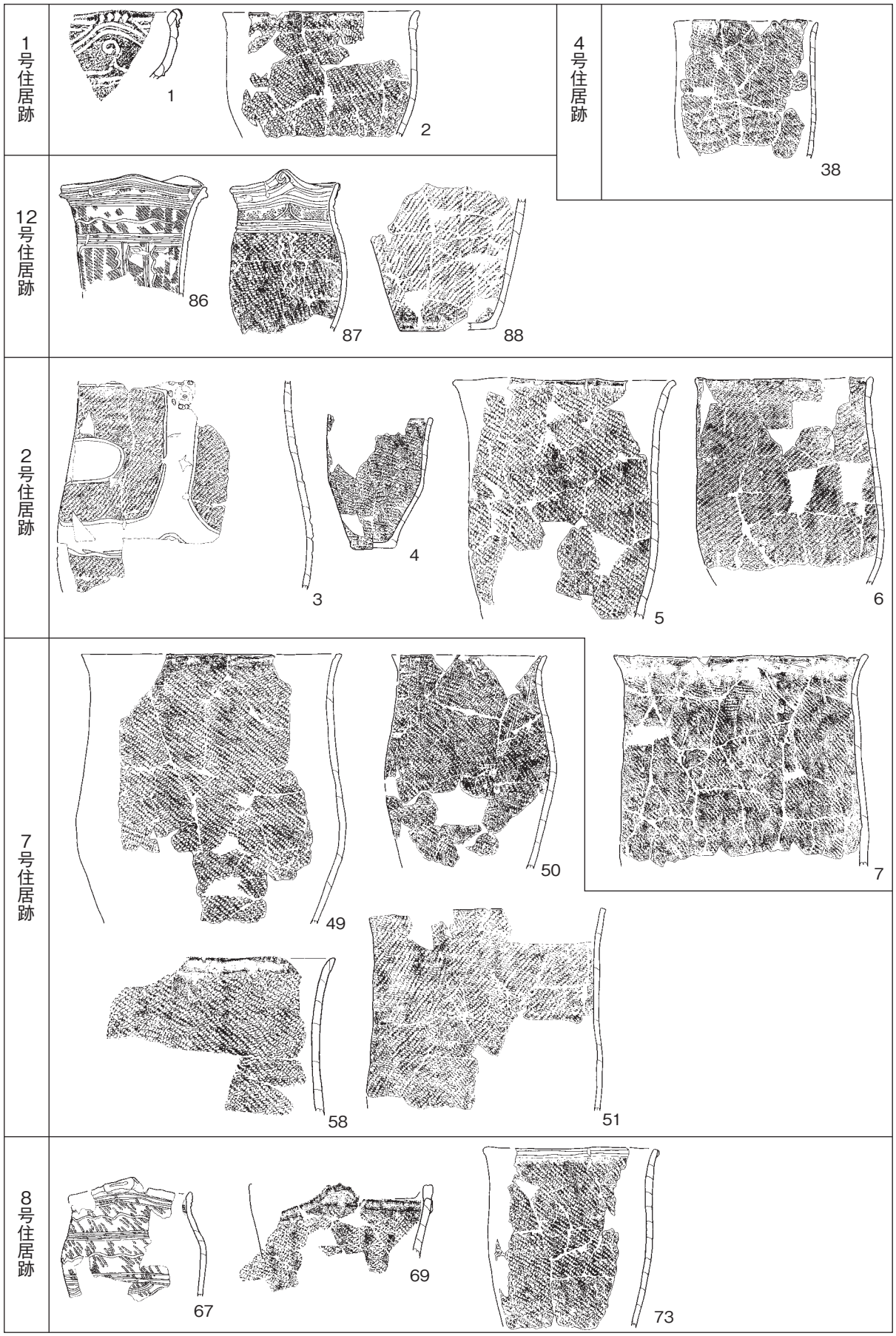
大木８b式・榎林式期…８号住居跡（大型）・12号住居跡（小型）、
６号土坑（大型フラスコ）・７号土坑（大型フラスコ）・15号土坑（大型フラスコ）、
13号土坑（小型フラスコ）、
21号土坑（墓）

大木10式・大木10式併行期…２号住居跡（大型）・７号住居跡（大型・4,000 ～ 4,080 ± 30yrBP）・
４号住居跡（中型）

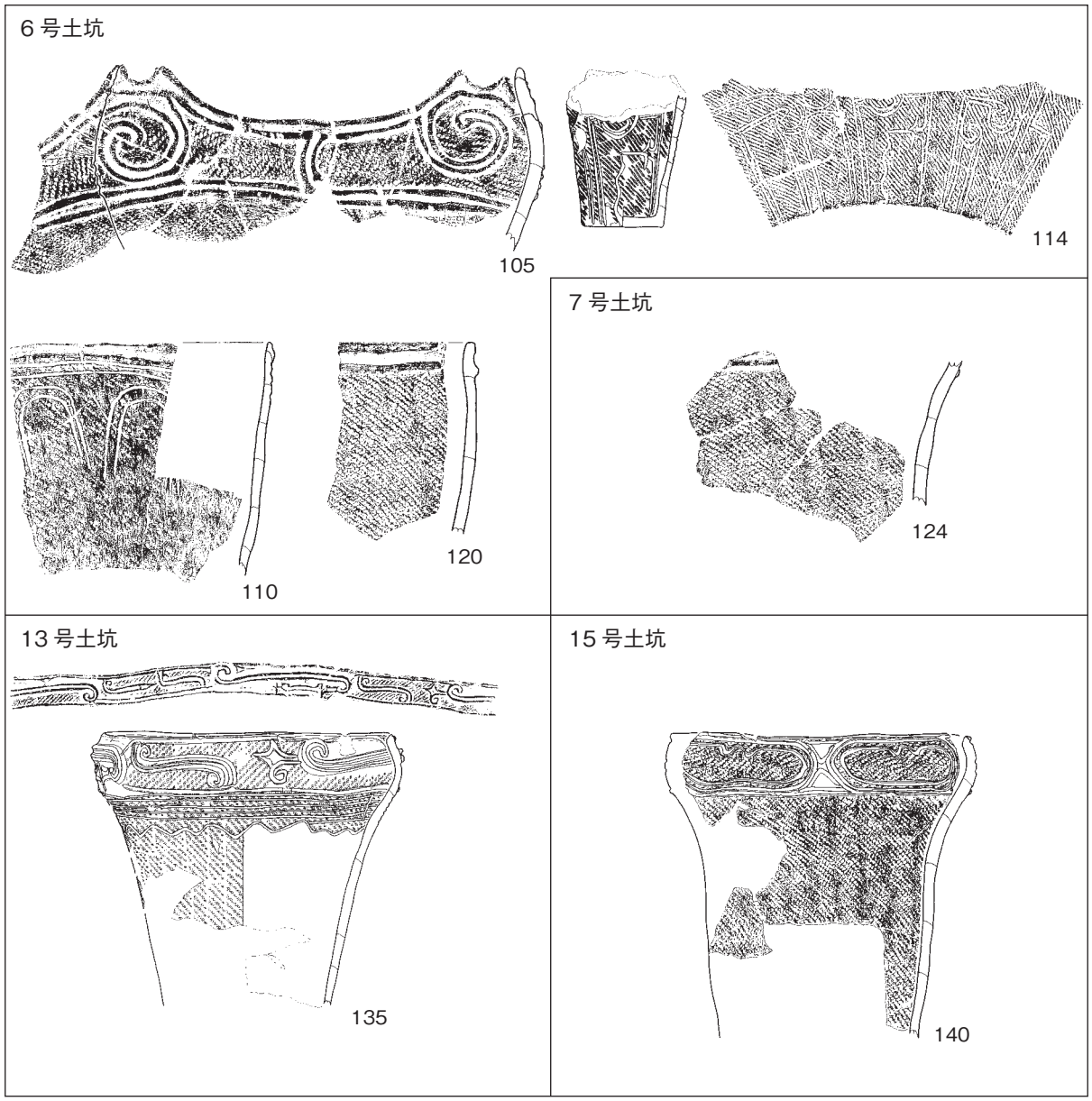
４　ま　と　め

第50図に遺構配置概念図を示した。21号土坑を墓と考えると、墓の外側に大型･中型住居跡とビーカー状土坑、さらに外側に小型住居跡と小型フラスコ状土坑、離れた北側緩斜面に大型フラスコ状土坑が配置される環状形態を呈する可能性が考えられる。現地形で、調査区東側には平坦面が約40ｍ広がっており、集落域の東への広がりを推測できる。また、住居域はさらに西側へも広がる可能性がある。地元の方々から、土器や石器が多く出土するのは西側の斜面地だと伺った。調査区位置図（第３図）を見ると、本調査区から西に約35mの地点に斜面地が認められる。この地点が下村遺跡集落の捨て場と仮定した場合、本調査区から西35ｍの範囲には集落域が広がっている可能性がある。以上のことから、今回の発掘調査区及び検出遺構分布状況と周辺地形を踏まえると、下村遺跡集落範囲は東西約80ｍの広がりを推定することができる。

下村遺跡で検出した遺構は、主に縄文時代中期後半である。狭い調査区内の状況に限られるが、大木８ａ式期に中型住居跡が構築された後、大木８ｂ式・榎林式期には大型・小型住居跡、大型フラスコ状土坑・小型フラスコ状土坑、墓で構成されるようになり、大木10式期には大型・中型住居跡で構成され、それ以降の遺物・遺構は検出されていない。大木８ａ式期以前では、前期土器片が５号住居跡周辺から出土しており、下村集落はさらに古い時期の遺構が検出される可能性がある。本調査区周辺で工事を行う際には、広範囲に注意が必要である。



第48図　遺構出土土器集成図（1）



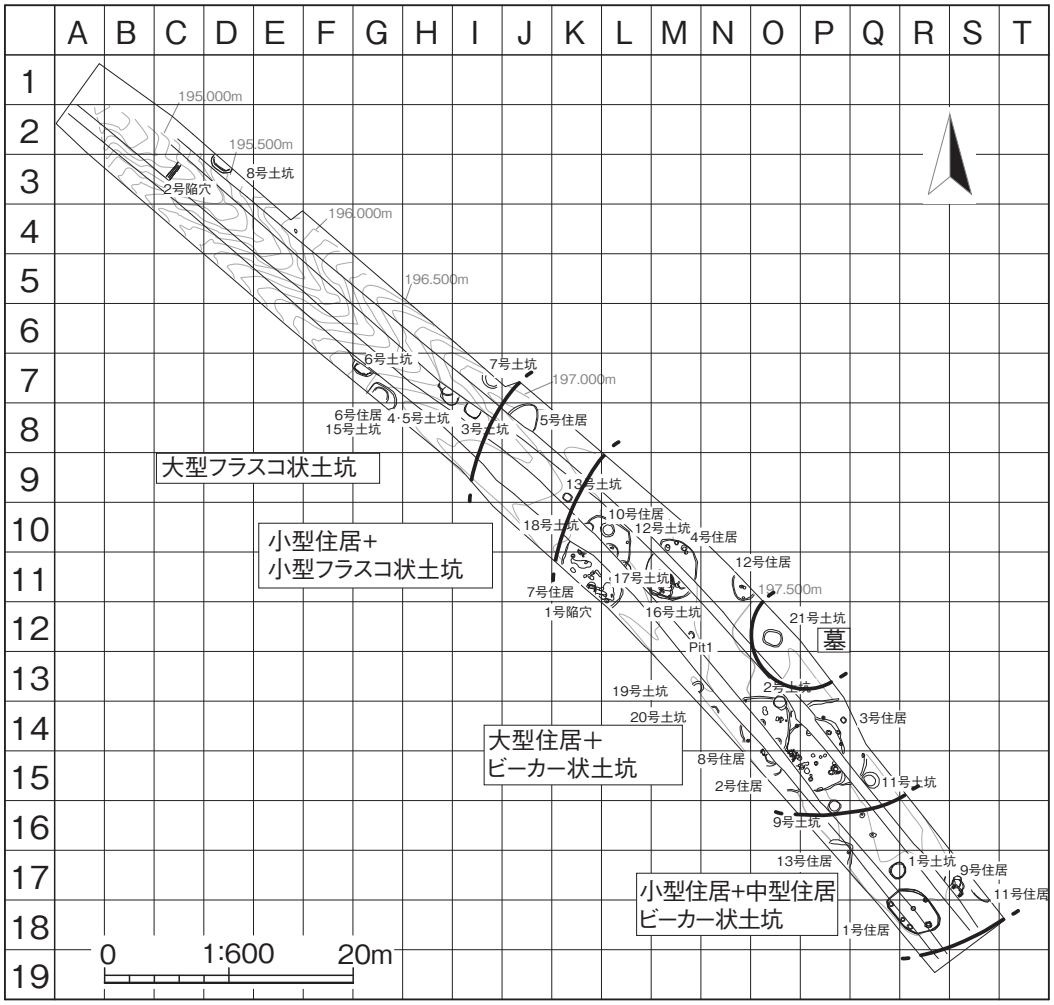
第49図　遺構出土土器集成図（2）

引用・参考文献

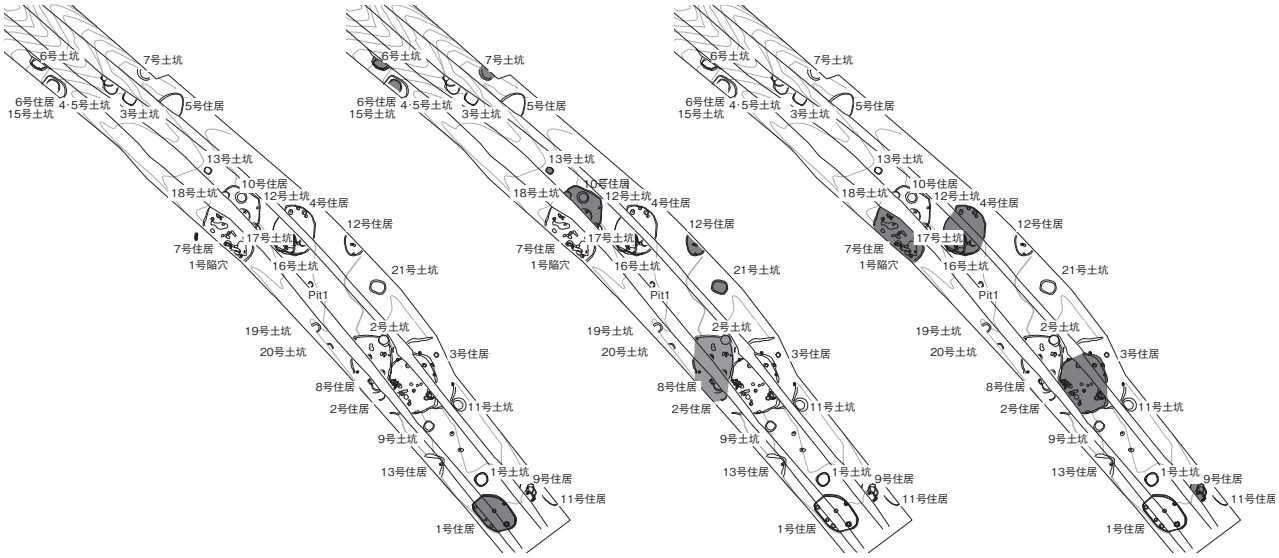
興野義一　1968「大木式土器理解のために（Ⅲ）」『考古学ジャーナル』18 号

村越潔　1976「円筒土器に伴う特殊な石器」『東北考古学の諸問題』

宮古市教育委員会　1979『大付遺跡発掘調査報告書』



第50図　遺構配置概念図



大木8a式期　　大木8b式期　　大木10式期

熊谷常正　1989「北上川中流域における大木８a 式土器」『岩手県立博物館研究報告』第７号
八戸市教育委員会　1995『八戸市内遺跡発掘調査報告７』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 61 集
鈴木克彦　1997「注口土器の研究―主として東北地方の注口土器集成―」『研究紀要』第２号青森県埋蔵文化財調査センター
鈴木克彦　1998「東北地方北部の縄文中期後半の土器－大木系土器層位的共伴関係土器集成－」『研究紀要』第３号青森県埋蔵文化財調査センター
成田滋彦　2003「最花式土器−在地式土器群の様相−」『研究紀要』第8号青森県埋蔵文化財調査センター
小保内裕之　2004「八戸市松ヶ崎遺跡出土の縄文時代中期後半の土器について」『第２回東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題』海峡土器編年研究会
星雅之　2005「岩手県内における To-Cu 降下期前後の土器群」『特別史跡三内丸山遺跡年報』８青森県教育委員会
青森県教育委員会　2005『三内丸山遺跡』年報８
星雅之　2006「円筒式土器と大木式土器の境界を探ってー三陸沿岸北部北緯 40° 付近の様相」『㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』ＸＸＶ
阿部昭典　2008『縄文時代の社会変動』小林達夫監修未完成考古学叢書６
小林達雄編　2008『総覧　縄文土器』株式会社アム・プロモーション
青森県史編さん友の会　2017『青森県史　資料編　考古１』
盛岡市遺跡の学び館　2018『繋遺跡』図録

［報告書］

盛岡市教育委員会 1982『柿ノ木平遺跡－昭和 50・51 年度発掘調査報告－』
宮古市教育委員会 1989『千鶏遺跡発掘調査報告書』宮古市埋蔵文化財調査報告書 16
青森市教育委員会 1993『小三内遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 222 集
一戸町教育委員会 1993『御所野遺跡Ⅰ』一戸町文化財調査報告書第 32 集
普代村教育委員会 1998『太田名部遺跡　平成９年度緊急発掘調査報告書』普代村埋蔵文化財調査報告書第１集
八戸市教育委員会 1999『西長根遺跡－平成９年度発掘調査－』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 80 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 318 集
朝日村教育委員会 2002『元屋敷遺跡Ⅱ－奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ＸⅣ－』朝日村文化財報告書第 22 集
青森県埋蔵文化財調査センター 2002『畑内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 326 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004『和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 452 集
青森県埋蔵文化財調査センター 2005『近野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 394 集
一戸町教育委員会 2006『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第 53 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 510 集
盛岡市遺跡の学び館 2008『柿ノ木平遺跡　堰根遺跡－浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－』
一戸町教育委員会 2015『御所野遺跡Ⅴ－総括報告書－』一戸町文化財調査報告書第 70 集
青森県埋蔵文化財調査センター 2018『沢部（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 594 集
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 694 集

写　真　図　版

遺跡遠景

遺跡近影

写真図版１　航空写真

２号住居跡出土土器

敲石及び石斧

写真図版２　出土遺物

１号住居跡　全景（北東から）

１号住居跡　断面（南から）

１号住居跡炉１　断面（南から）

１号住居跡炉２　断面（南西から）

写真図版３　１号住居跡

２・３号住居跡　全景（南東から）

２号住居跡　断面（西から）

２・３号住居跡　断面（北から）

写真図版４　２・３号住居跡（１）

２号住居跡　炉１NS断面（西から）

２号住居跡　炉１EW断面（北から）

２号住居跡　炉１全景

２・３号住居跡全景

２号住居跡　遺物出土状況

写真図版５　２・３号住居跡（２）

４号住居跡　全景（南から）

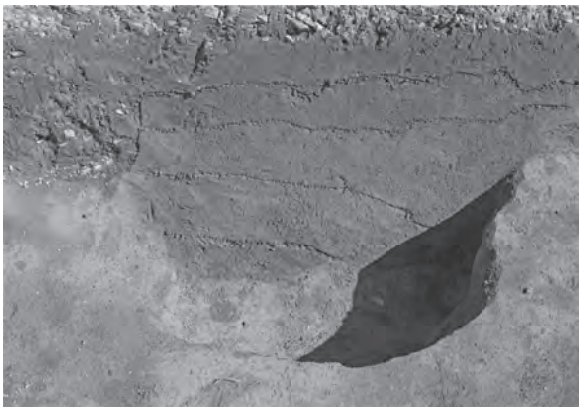
４号住居跡　断面（北東から）

４号住居跡　断面（南東から）

写真図版６　４号住居跡（１）

炉　全景（南から）

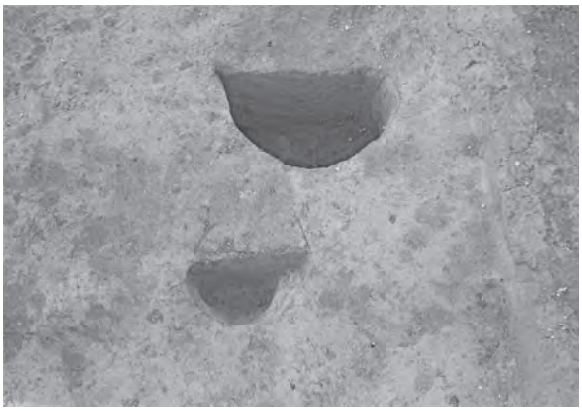
炉　断面（南から）



ピット１（南西から）

ピット２・３（西から）

ピット４・５（南から）



ピット６・７（南から）

1遺物出土状況（西から）

４号住居跡　全景

写真図版７　４号住居跡（２）

５号住居跡（南東から）

６号住居跡（北東から）

写真図版８　５・６号住居跡

７号住居跡　全景（北東から）

７号住居跡　断面（北東から）

７号住居跡　断面（北西から）

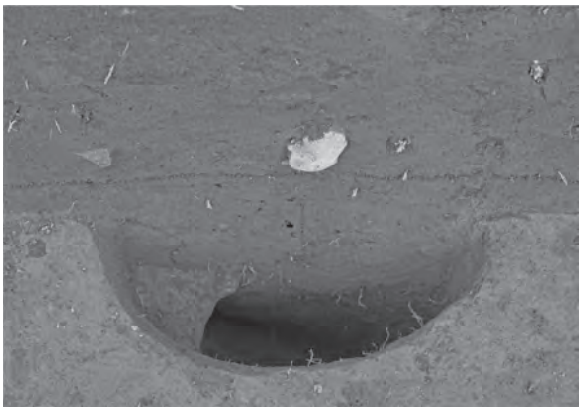
写真図版９　７号住居跡（１）

炉１　検出（北から）

炉１　断面（東から）

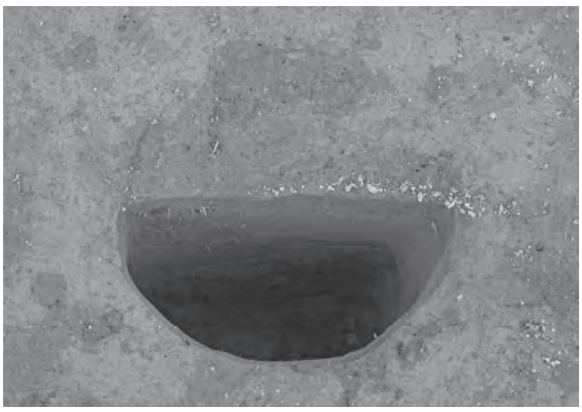
炉１　断面（北から）

炉２　検出（西から）

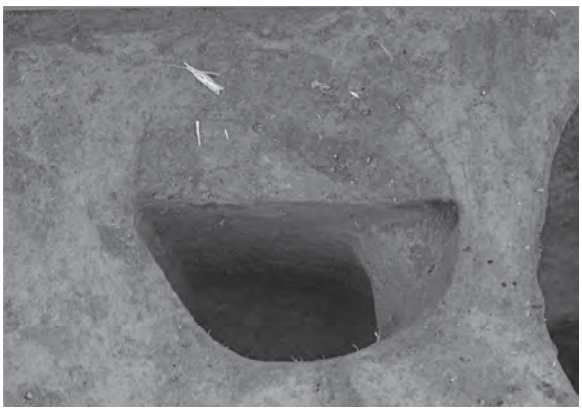


ピット１（西から）

炉２　断面（西から）



ピット２（西から）



ピット３（東から）

写真図版10　７号住居跡（２）

８号住居跡　全景（南から）

８号住居跡　断面（東から）

８号住居跡　断面（北から）

写真図版11　８号住居跡（１）

８号住居跡炉１　断面（西から）

８号住居跡炉１　断面（南から）

８号住居跡炉２　断面（西から）

８号住居跡住居内土坑　断面（西から）

９号住居跡（南西から）

10号住居跡　全景（南から）

10号住居跡炉　検出（東から）

10号住居跡炉　断面（東から）

写真図版12　８号住居跡（２）、９・10号住居跡（１）

10号住居跡　断面（南から）

11号住居跡　断面（北東から）

12号住居跡　全景（西から）

写真図版13　10号住居跡（２）、11号住居跡、12号住居跡（１）

12号住居跡炉　断　面（西から）

12号住居跡 遺物出土状況（西から）

13号住居跡　全景（北から）

13号住居跡　断面（北から）

１号陥し穴状遺構　全景（西から）

２号陥し穴状遺構　断面（東から）

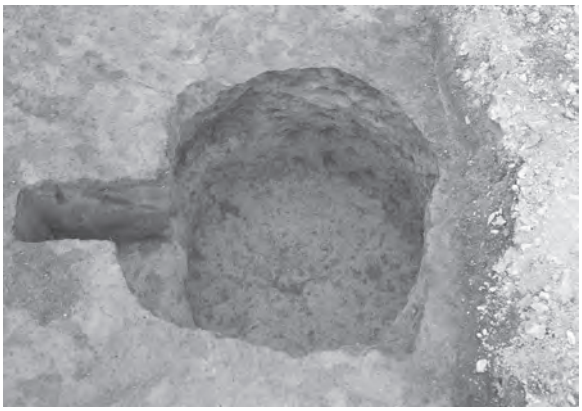
１号陥し穴状遺構　断面（南から）

ピット１（東から）

写真図版14　12号住居跡（２）、13号住居跡、陥し穴状遺構、ピット１

１号土坑　全景（北から）

１号土坑　断面（北から）



２号土坑　全景（南から）

２号土坑　断面（南から）

３号土坑　断面（西から）

４・５号土坑　断面（南西から）

５号土坑　遺物出土状況（西から）

６号土坑　断面（西から）

写真図版15　１～６号土坑

７号土坑　断面（西から）

８号土坑　断面（西から）

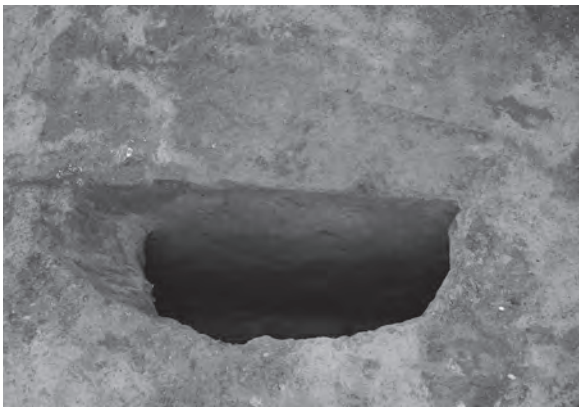
９号土坑　全景（西から）

９号土坑　断面（西から）

11号土坑　全景（東から）

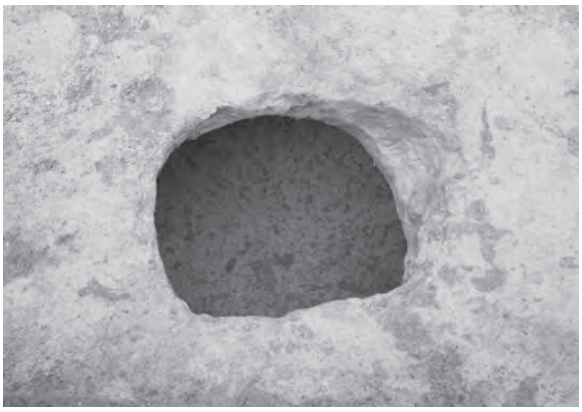
11号土坑　断面（東から）

12号土坑　断面（東から）



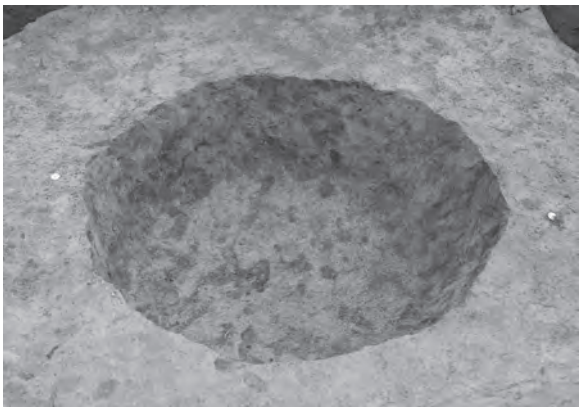
13号土坑　断面（東から）

写真図版16　７～９・11～13号土坑



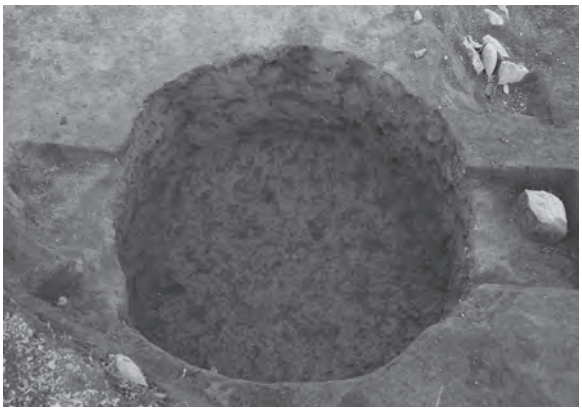
13号土坑　全景（西から）

13号土坑　遺物出土状況（南から）



14号土坑　全景（東から）

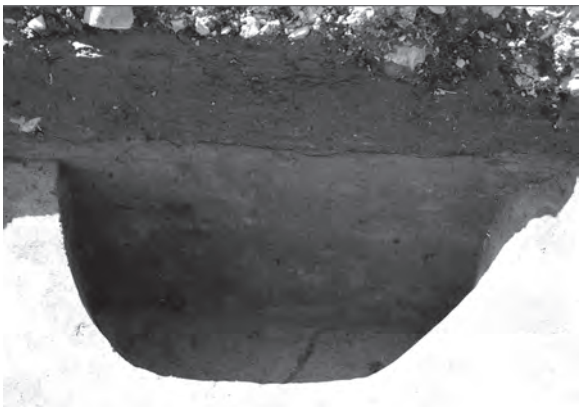
14号土坑　断面（東から）



16号土坑　全景（西から）

16号土坑　断面（西から）

17号土坑　断面（東から）

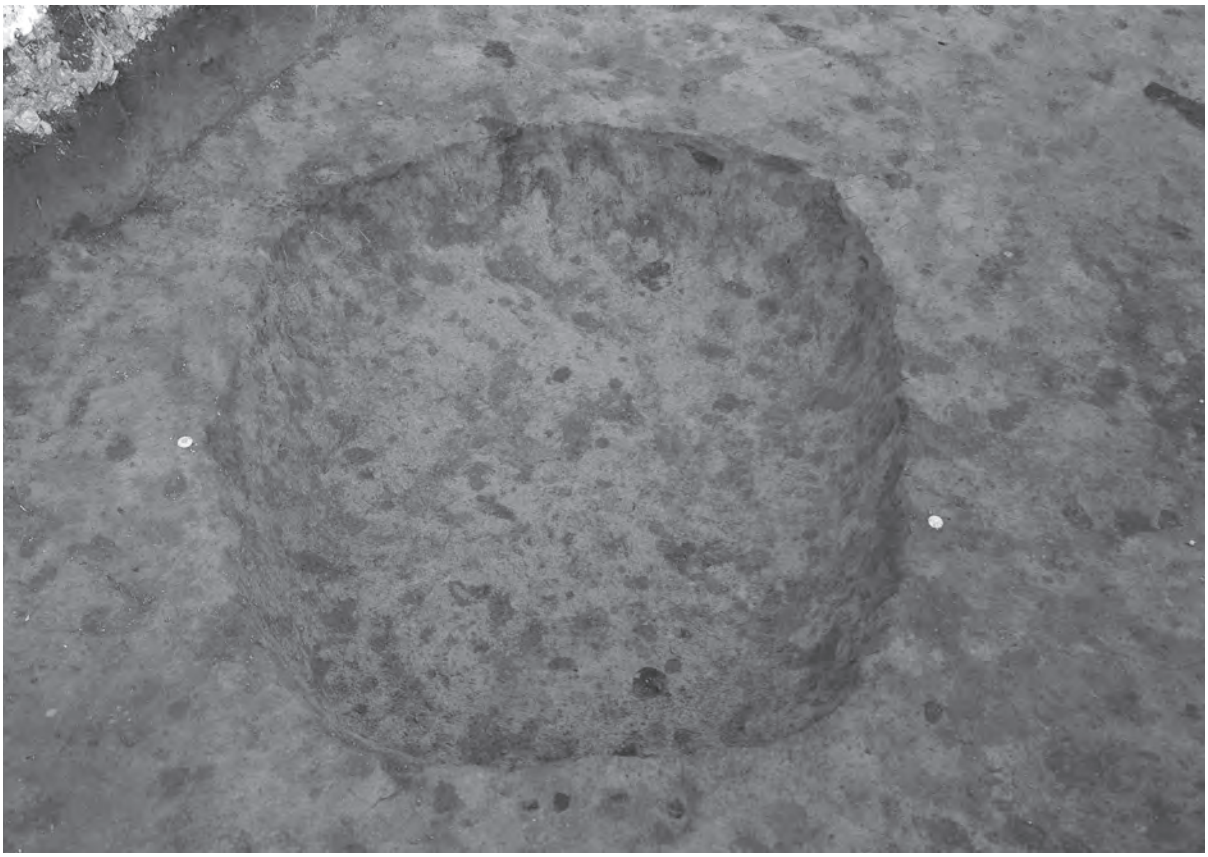


18号土坑　断面（東から）

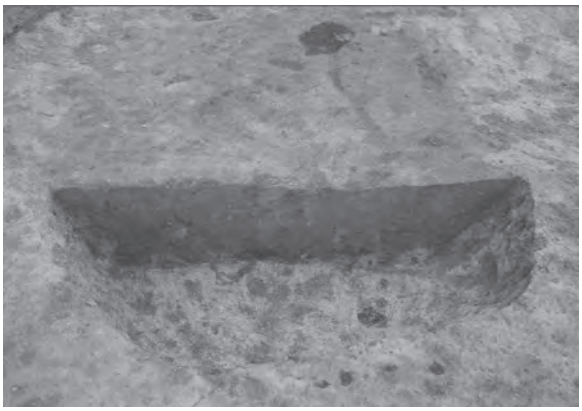
写真図版17　13・14・16～18号土坑

19号土坑　断面（東から）

20号土坑　断面（東から）



21号土坑　全景（北から）

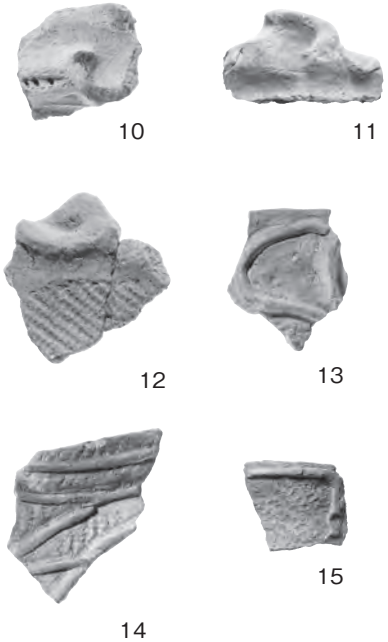


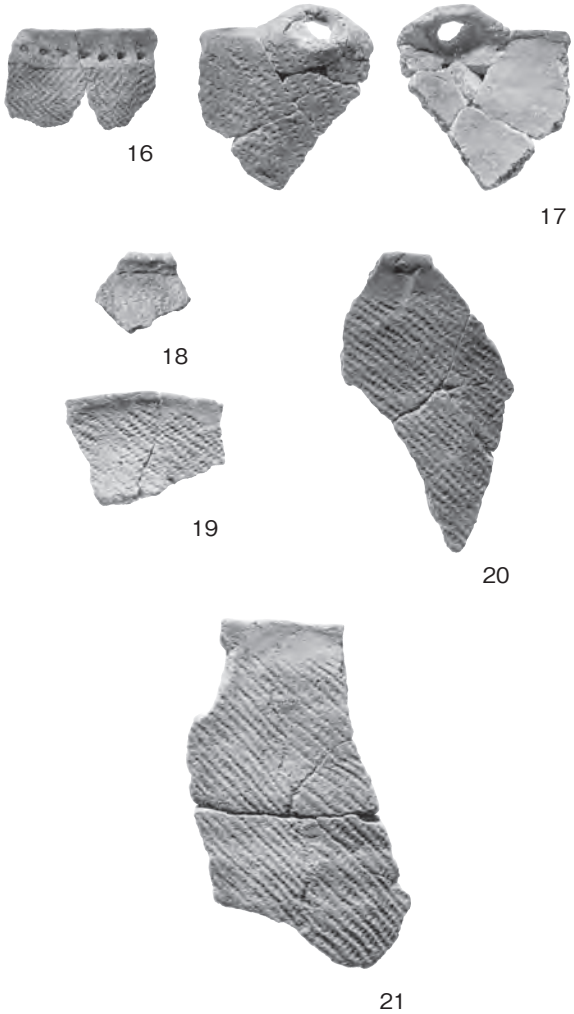
21号土坑　断面（西から）

基本土層

写真図版18　19～21号土坑・基本土層

写真図版19　１・２号住居跡出土土器





写真図版20　２号住居跡出土土器

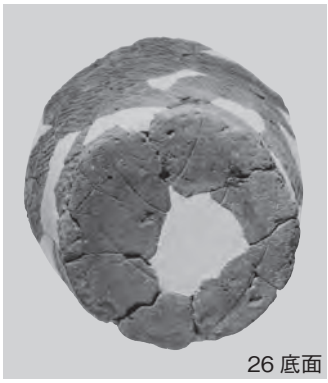
22

23

24

25

26


26 底面

27

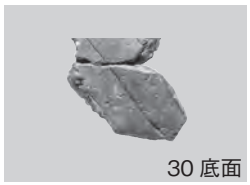
27 底面

28

29

30

31


30 底面

31 底面

37

37 底面

32

33

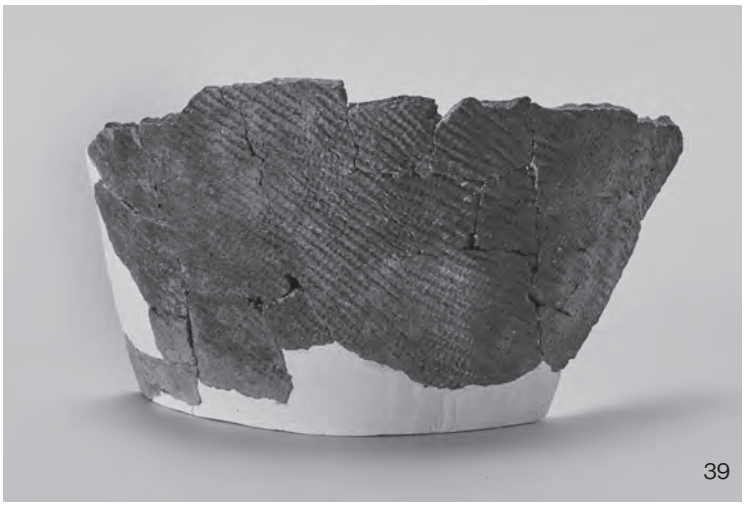
34

35

36

写真図版21　２・４号住居跡出土土器

38


39

40

41

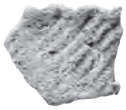
42

43

44

45

46

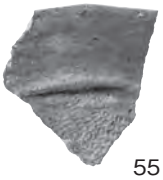

47

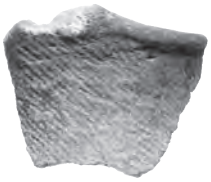
48

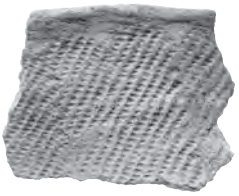
49

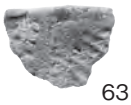
50

写真図版22　４～７号住居跡出土土器









写真図版23　７・８号住居跡出土土器

73

74

75

76

77

78

79

81

82

80

83

84

85

86

87

88

89

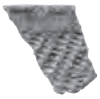
90

91

92

93

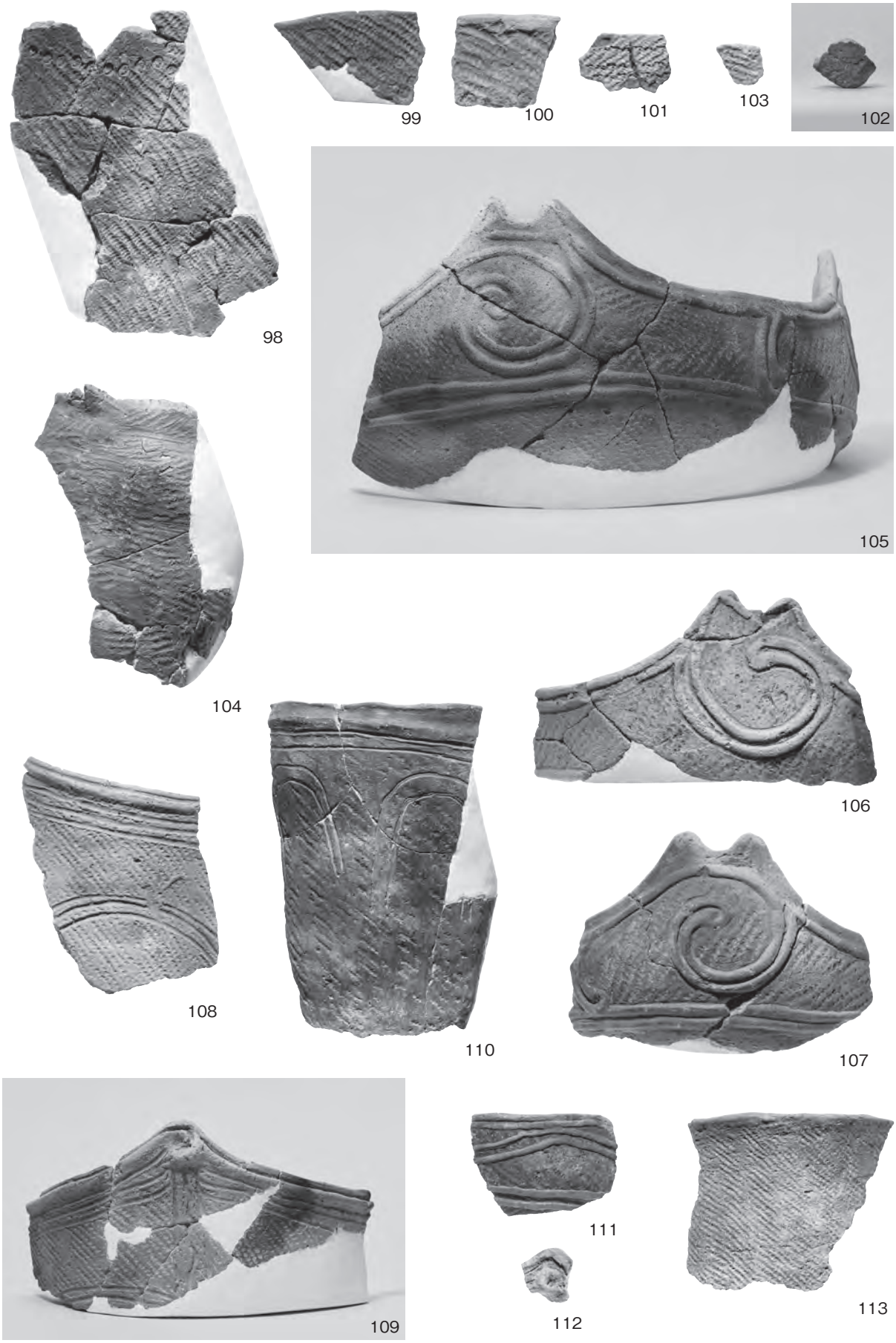
94


95

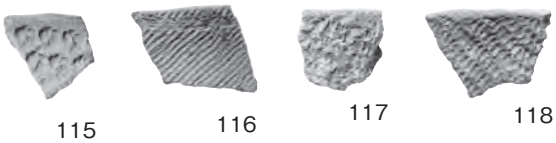
96

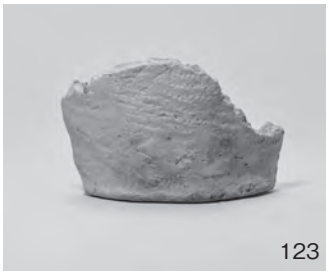
97

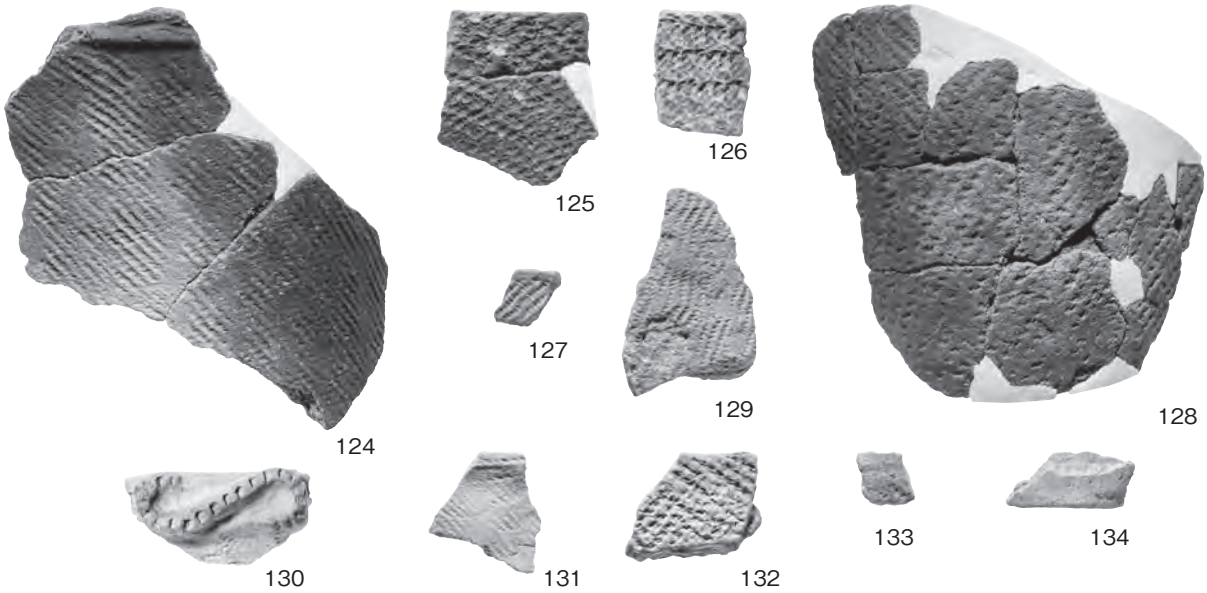
写真図版24　８・10～13号住居跡、１・２号土坑出土土器



写真図版25　３～６号土坑出土土器







写真図版26　6～8・11号土坑出土土器

135

136

137

138

139

141

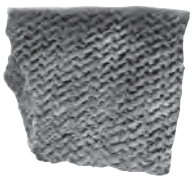
140

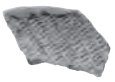
142

143

144

145


148


149

150

151

146

147

写真図版27　13～15号土坑出土土器

152

153

154

155

156

157

158

165

159

160

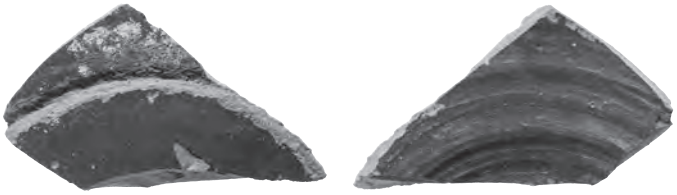
161

162

163

164

166


167

168

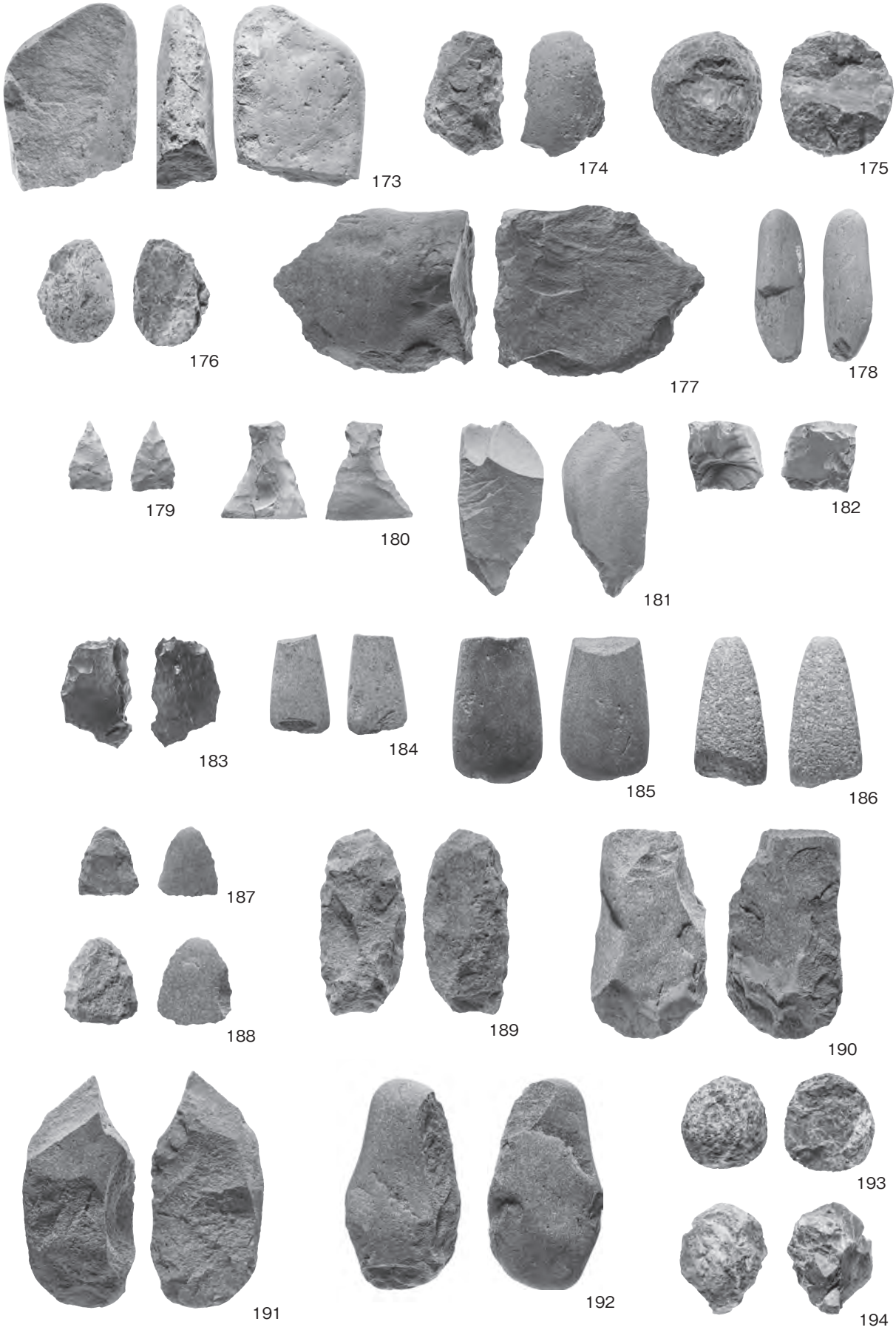
169

170

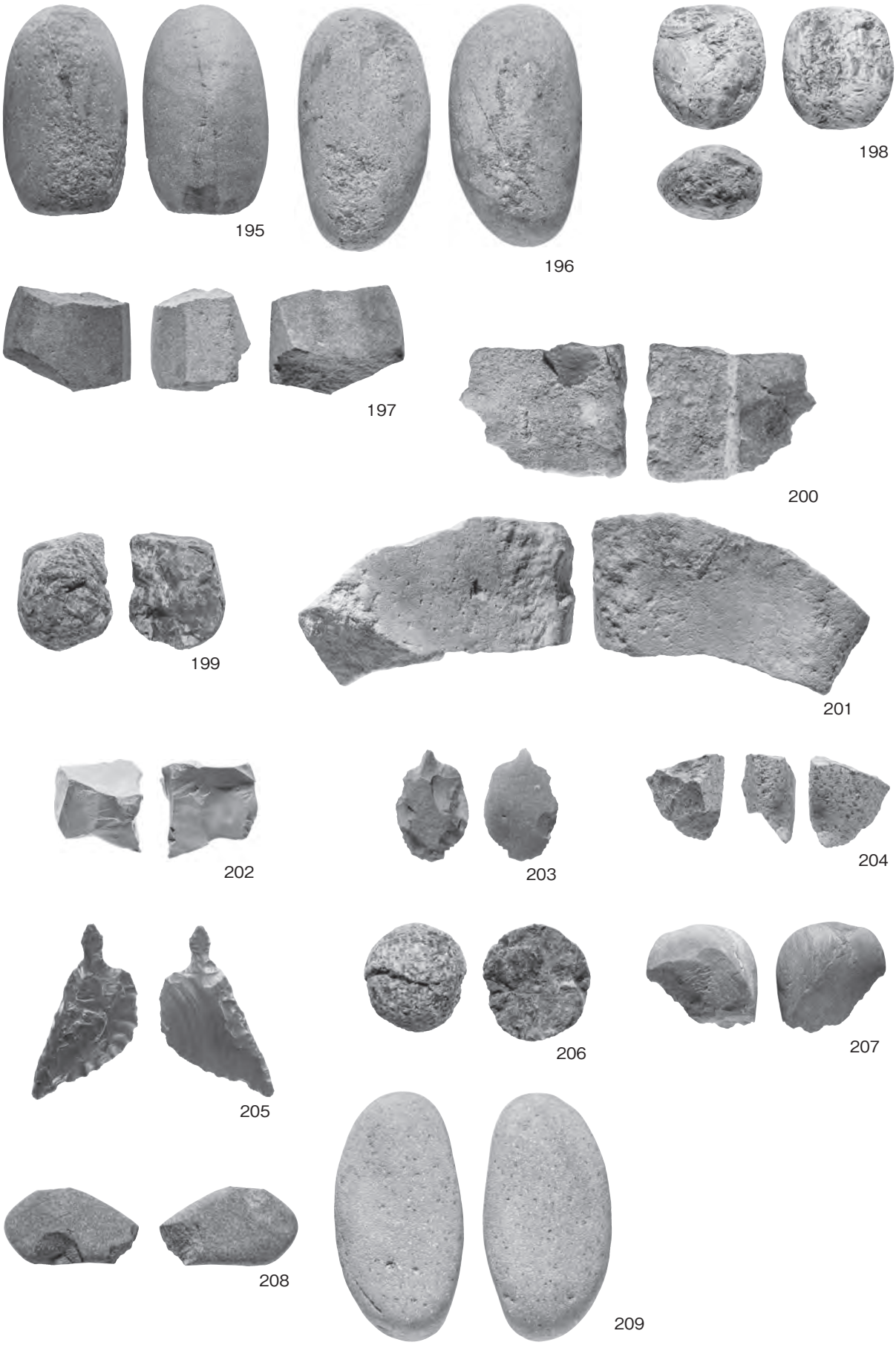
171

172

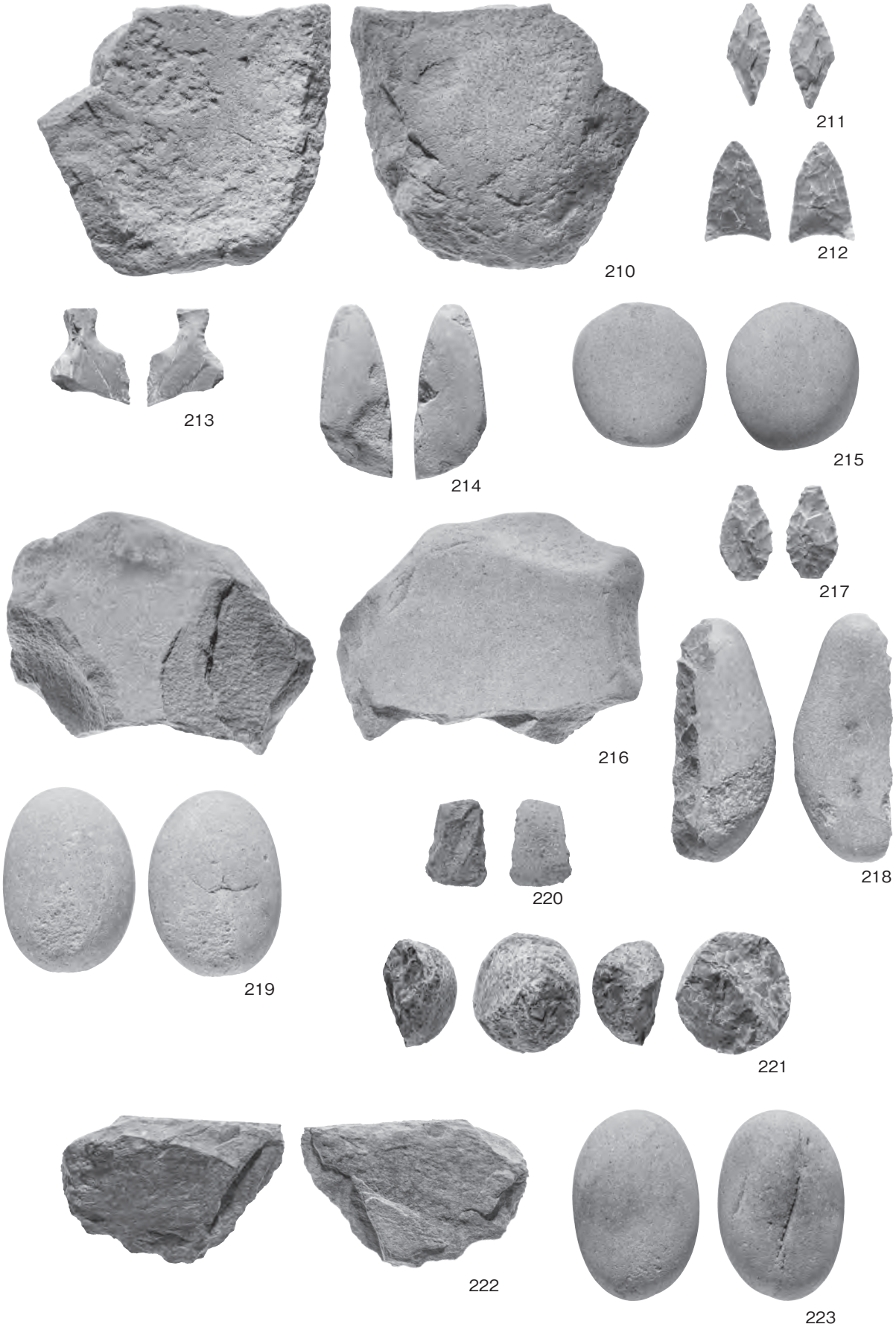
写真図版28　19・21号土坑、２号陥し穴状遺構、遺構外出土土器・陶磁器・土製品



写真図版29　１・２号住居跡出土石器

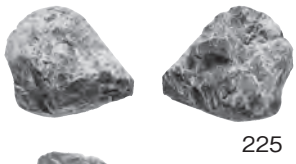


写真図版30　２～７号住居跡出土石器



写真図版31　7～9・11～13号住居跡出土石器

224


225

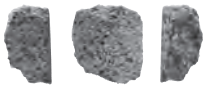
226

227

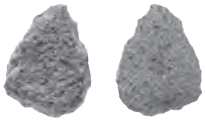
228

229

230


231

232


233

234

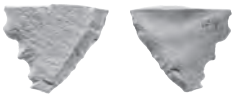
235

236

237

238

240 241


239

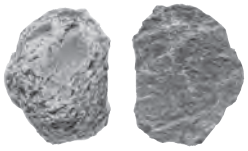
242

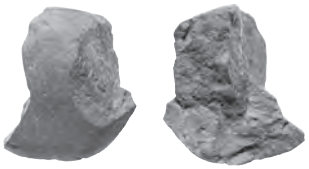
243

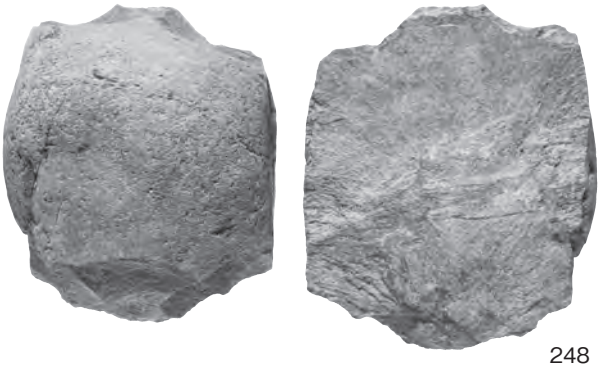
244

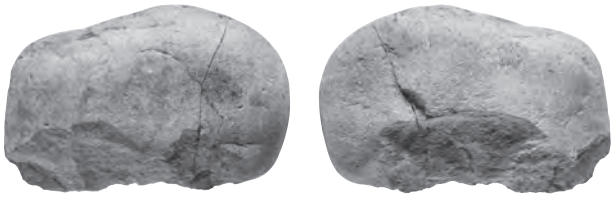
写真図版32　2～4・6・7・9・11・13・15号土坑出土石器

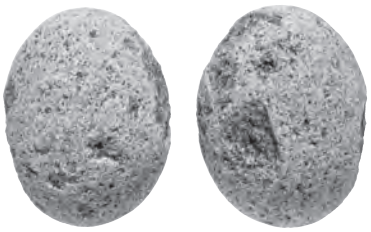
245


246


247

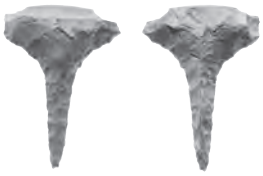

248


249


250

252

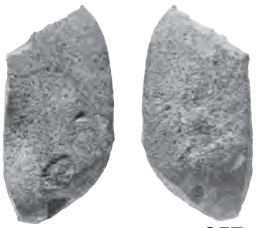
251


253

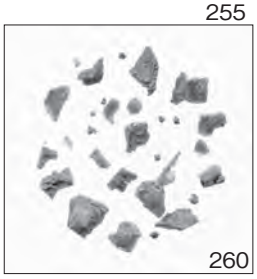
254

255

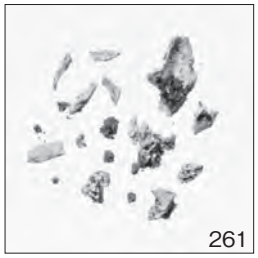
256


257

259


260

258


261

写真図版33　15・19号土坑、ピット１、遺構外出土石器・コハク・骨

報 告 書 抄 録

ふりがな	しもむらいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	下村遺跡発掘調査報告書
副書名	村道拡幅（黒崎地区）事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第720集
編著者名	八木勝枝・戦場由裕
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
発行年月日	令和２年３月13日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
下村遺跡（しもむらいせき）	岩手県下閉伊郡普代村第３地割字黒崎18番地1ほか（いわてけんしもへいぐんふだいむらだいちわりあざくろさきばんち）	03485	JG93-2158	40° 0.05′ 05″	141° 55′ 43″	2018.08.01 ～ 2018.10.05	869㎡	村道拡幅（黒崎地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下村遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡　13棟 土坑　20基 陥し穴状遺構　２基 ピット　１個	縄文土器、石器	

要約	縄文時代中期後半の集落遺跡を調査した。住居跡は大型・中型・小型の３種がある。土坑は、フラスコ状土坑９基、土坑10基がある。この他、土坑１基は楕円形を呈するもので、大型住居跡が位置する区域の中央で検出した。各遺構の配置から、中央に墓、大型住居跡・小型貯蔵穴、中型住居跡・小型フラスコ状土坑、小型住居跡、大型フラスコ状土坑が計画的に配置された環状形態を構成する可能性が考えられる。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第720集

下村遺跡発掘調査報告書

村道拡幅（黒崎地区）事業関連発掘調査

印刷　令和２年３月10日
発行　令和２年３月13日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電　話（019）638－9001

発　行　普代村
〒028-8392　岩手県下閉伊郡普代村第９地割字銅屋13番地２
電　話（0194）35－2111
（公財）岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電　話（019）654－2235

印　刷　株式会社　阿部印刷
〒020-0873　岩手県盛岡市松尾町２－２
電　話（019）624－2242

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020